4　資料編

1.船橋市廃棄物減量等推進審議会概要

表 4-1　船橋市廃棄物減量等推進審議会概要

名称	船橋市廃棄物減量等推進審議会
設置年月日	平成５年４月１日
設置根拠	船橋市廃棄物の減量、資源化及び適正処理に関する条例 第 37 条
設置目的	一般廃棄物の減量、資源化及び適正な処理に関する事項その他市長が必要と定める事項について調査審議する。
事務局担当課	環境部　資源循環課

船橋市廃棄物の減量、資源化及び適正処理に関する条例（抜粋）

第７章　廃棄物減量等推進審議会等

（平 24 条例 72・旧第６章繰下）

（廃棄物減量等推進審議会）

第 37 条　一般廃棄物の減量、資源化及び適正な処理に関する事項その他市長が必要があると認める事項について、市長の諮問に応じ調査審議するため、法第５条の７第１項の規定により船橋市廃棄物減量等推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

２　審議会は、15 人以内の委員をもって組織する。

３　委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

（1）　識見を有する者

（2）　事業者

（3）　廃棄物処理業者

（4）　民間団体の代表者

（5）　その他市長が必要があると認める者

４　委員の任期は２年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

５　前各項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

2.船橋市廃棄物減量等推進審議会名簿

表 4-2　船橋市廃棄物減量等推進審議会名簿

役職	委員名	所属
会長	遠　山　岳　史	日本大学理工学部
委員	稲　垣　　　正	公益社団法人 全国都市清掃会議
委員	寺　内　清　修	一般財団法人 日本環境衛生センター
委員	宇仁菅　伸　介	公益財団法人 廃棄物・3R 研究財団
副会長	平　川　道　雄	船橋市自治会連合協議会
委員	大　西　智　子	船橋市生活学校運動推進協議会
委員	天　羽　しづえ	船橋市食品衛生協会
委員	小　石　マサ子	船橋商工会議所
委員	伊　藤　將　美	船橋市商店会連合会
委員	山　本　　　重	船橋市地域工業団体連合会
委員	手　塚　和　人	船橋大型店連絡協議会
委員	栗　原　正　光	市川紙原株式会社
委員	小　松　恵　子	市民委員
委員	鈴　木　　　隆	市民委員

3.船橋市一般廃棄物処理基本計画推進委員会概要

表 4-3　船橋市一般廃棄物処理基本計画推進委員会概要

名称	船橋市一般廃棄物処理基本計画推進委員会
設置年月日	平成 21 年5月 11 日
設置目的	一般廃棄物処理基本計画の進行状況を把握するとともに、具体的な実施手法を示した行動計画を作成及び実行することで、ごみ減量等の基本計画の目標を成し遂げることを目的として設置する。
事務局担当課	環境部　資源循環課

4.船橋市一般廃棄物処理基本計画推進委員会名簿

表 4-4　船橋市一般廃棄物処理基本計画推進委員会名簿

役　職	委　員　名	所　属
委員長	清　水　治　男	船橋市自治会連合協議会
副委員長	宮　津　隆　久	船橋商工会議所
委員	郷　昭	船橋市商店会連合会
委員	吉　野　君　江	船橋市生活学校運動推進協議会
委員	天　羽　しづえ	船橋市食品衛生協会
委員	岩　本　鐘　城	船橋市一般廃棄物協同組合
委員	三　上　等	船橋市清掃事業対策協議会
委員	髙　野　昌　明	船橋市有価物回収協同組合
委員	伊　澤　哲　夫	市民委員
委員	広　瀬　正　明	市民委員

5.審議経過

表 4-5　船橋市一般廃棄物処理基本計画推進委員会審議経過

第１回船橋市廃棄物減量等推進審議会 日時：令和３年　６月３日
第２回船橋市一般廃棄物処理基本計画推進委員会 日時：令和３年　８月 25 日
第２回船橋市廃棄物減量等推進審議会 日時：令和３年　９月 22 日
第３回船橋市廃棄物減量等推進審議会 日時：令和３年　10 月 27 日
第４回船橋市廃棄物減量等推進審議会 日時：令和３年　　月　　日

6.答申書（写）

7.船橋市の地域特性

（1）自然的特性

1）位置・面積

本市は、千葉県の北西部に位置し、東は習志野市・八千代市、西は市川市、北は鎌ケ谷市・白井市に隣接し、南は東京湾に面しており、市域の総面積は 85.64km^2、東西の距離は 13.86km、南北の距離は 14.95kmとなっています。このような立地条件のもと、本市は首都東京と県庁所在地である千葉市とのほぼ中間に位置するということや、陸上及び海上交通の要衝地にあることなどを生かして、京葉都市圏の中核都市として発展してきました。

図 4-1　船橋市の位置

2）気象

過去 16 年間の本市の気象を見ると、年間の平均気温は約 15.2～17.1℃、平均湿度は 64.0～76.1%、平均風速は 2.1～2.4m/ｓ、年間降水量は約 1,000～1,700mmであり、比較的温暖な海洋性気候を示しています。

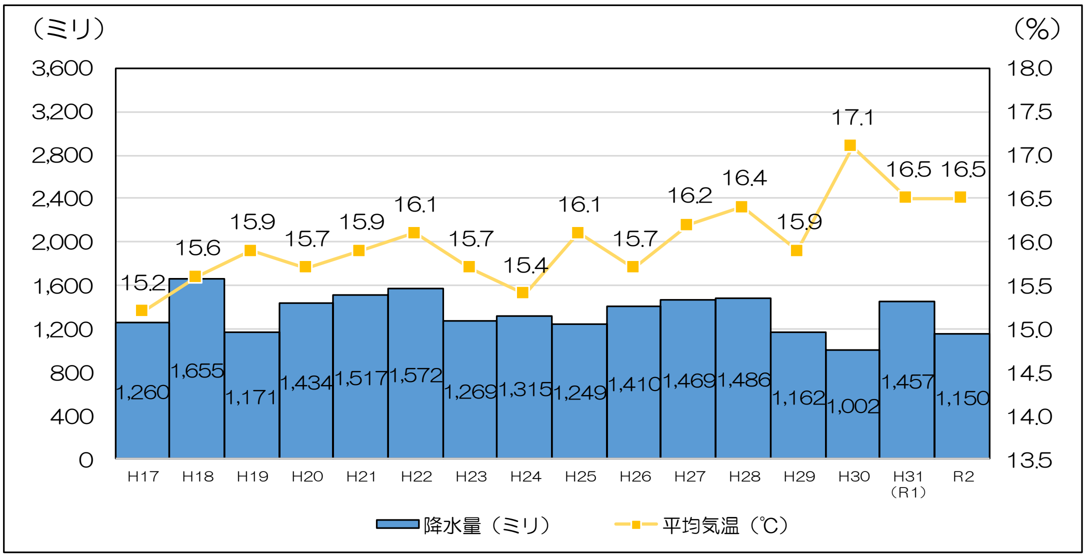


図 4-2　年平均気温と年間降水量の推移

表 4-6　船橋市の気象

西暦		2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
和暦		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
気温（℃）	最高	36.0	36.0	37.1	35.6	34.4	37.0	35.4	35.2
	最低	-2.0	-4.0	-1.0	-1.1	-0.4	-2.0	-2.2	-2.3
	平均	15.2	15.6	15.9	15.7	15.9	16.1	15.7	15.4
平均湿度（相対湿度）（%）		68.0	71.0	68.0	64.0	65.0	68.7	66.5	69.3
平均風速（m/ｓ）		2.3	2.3	2.2	2.1	2.3	2.3	2.3	2.3
降水量（ミリ）		1,260	1,655	1,171	1,434	1,517	1,572	1,269	1,315

西暦		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
和暦		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（令和元年度）	令和2年度
気温（℃）	最高	39.0	36.0	36.9	37.2	36.5	37.7	35.3	36.2
	最低	-1.9	-1.8	-1.7	-1.4	-1.6	-3.0	-1.0	-2.4
	平均	16.1	15.7	16.2	16.4	15.9	17.1	16.5	16.5
平均湿度（相対湿度）（%）		70.3	72.2	76.1	70.4	67.8	69.4	70.3	71.7
平均風速（m/ｓ）		2.4	2.3	2.3	2.1	2.3	2.4	2.2	2.2
降水量（ミリ）		1,249	1,410	1,469	1,486	1,162	1,002	1,457	1,150

資料：船橋市統計書（平成22、令和２年版）

３）土地利用状況

令和２年１月１日現在の地目別面積を見ると、船橋市域の約半分を宅地が占めており、田畑の面積は１４.３%、山林は３.５%となっています。

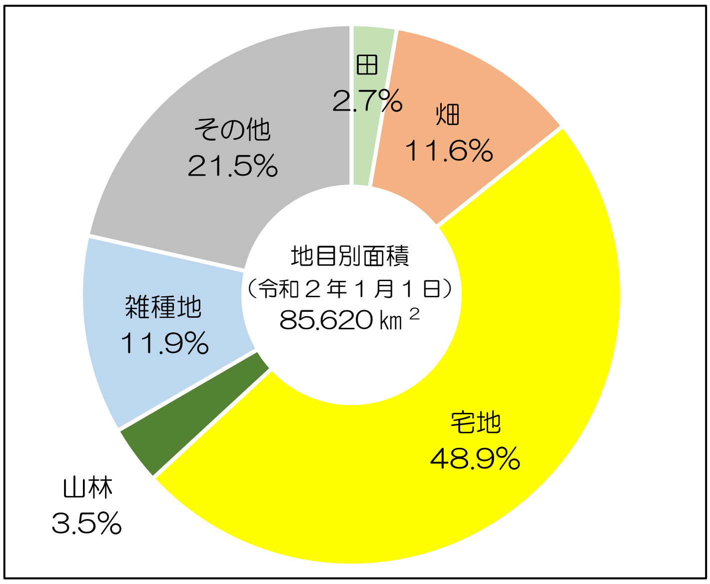


図　地目別面積の内訳

表 4-7　船橋市の地目別面積

令和2年1月1日現在

地目	田	畑	宅地	池・沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他	合計
面積（㎞^{2}）	2.295	9.910	41.838	0.000	2.971	0.022	0.023	10.183	18.378	85.620
占有率（%）	2.7	11.6	48.9	0.0	3.5	0.0	0.0	11.9	21.5	100.0

資料：船橋市統計書（令和２年版）
※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

（２）社会的特性

１）人口の推移及び将来予測

令和２年度における本市の人口は 640,906 人、世帯数は 293,908 世帯であり、全国的にはすでに人口減少局面を迎えている中で、市全体では人口・世帯数ともに増加を続けています。

一方、世帯人員は減少傾向にあり、核家族化や少子化等が進んでいます。

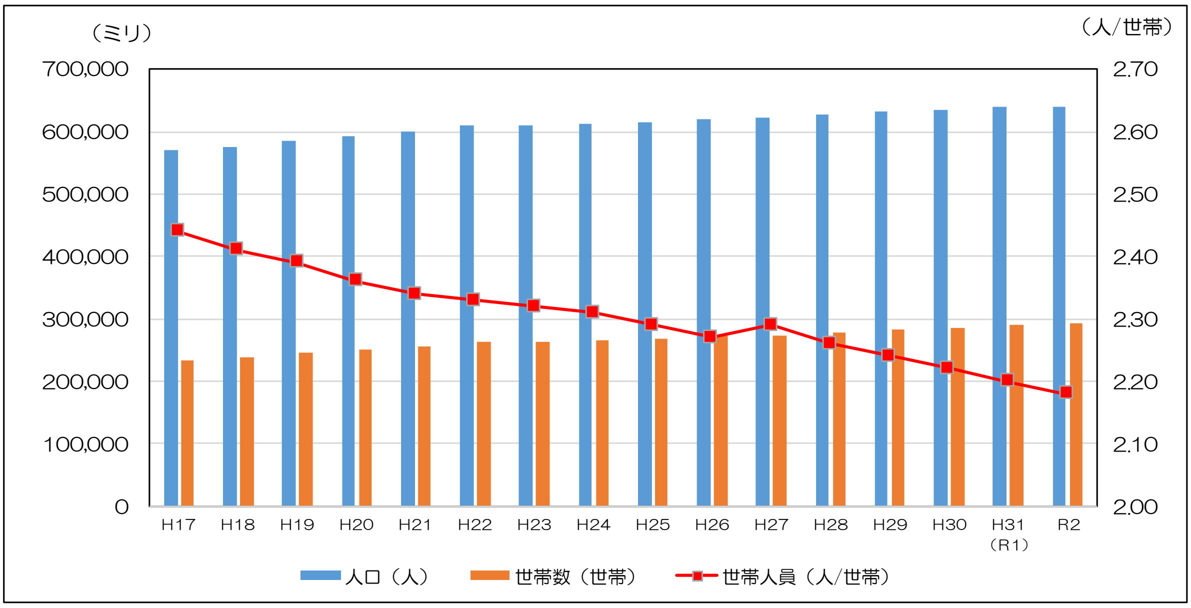


図　人口及び世帯数の推移

表 4-8　船橋市の人口及び世帯数

各年10月1日現在

西暦	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
和暦	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
人口（人）	569,835	574,985	584,215	591,720	600,025	609,040	610,434	611,799
世帯数（世帯）	233,289	238,171	244,923	250,896	256,765	262,415	263,152	265,327
世帯人員（人/世帯）	2.44	2.41	2.39	2.36	2.34	2.33	2.32	2.31

西暦	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
和暦	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度（令和元年度）	令和2年度
人口（人）	614,657	619,214	622,890	627,073	631,973	635,947	639,107	640,906
世帯数（世帯）	268,363	272,614	272,432	277,038	282,175	286,603	290,372	293,908
世帯人員（人/世帯）	2.29	2.27	2.29	2.26	2.24	2.22	2.20	2.18

資料：船橋市統計書（令和２年版）

2）事業所数及び従業員数

本市は、古くは宿場町として、近年では臨海工業地帯の一部として発展してきました。

人口約 60 万人の大都市でありながら、豊かな自然の恵みを背景に、現在も野菜、果実などを中心とする都市型農業や、漁業が営まれています。

本市の事業所数および従業者数は、平成 18 年度までは減少傾向にありましたが、平成 18 年度以降は増加の傾向にあります。

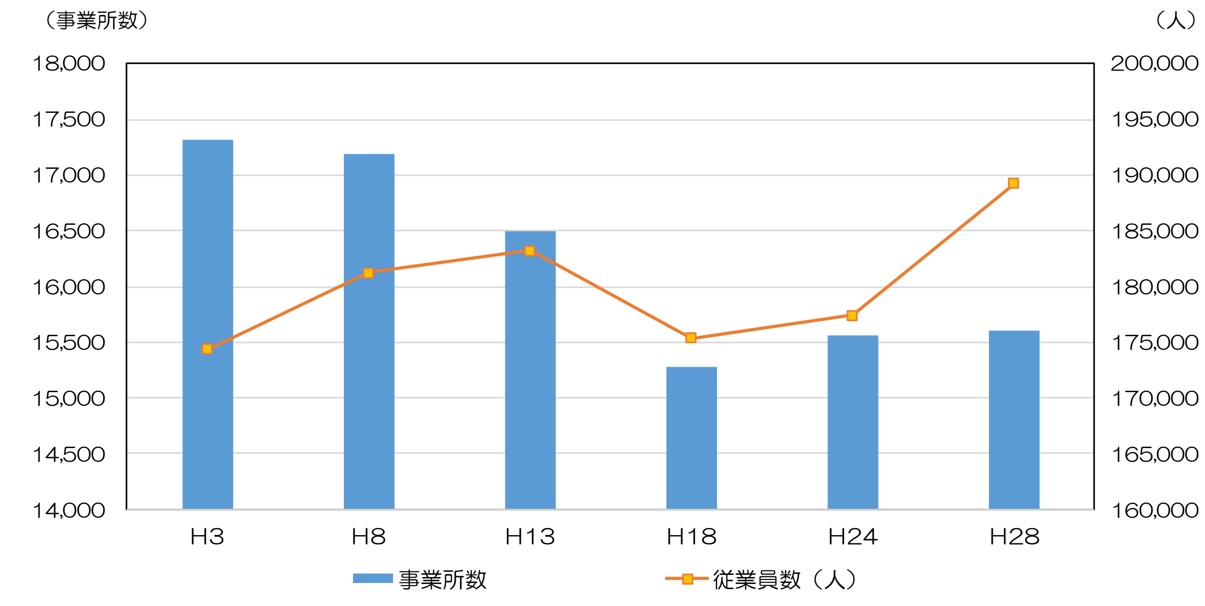


図　事業所数及び従業者数の推移

表 4-9　船橋市の事業所数及び従業者数

西暦	1991	1996	2001	2006	2012	2016
和暦	平成3年度	平成8年度	平成13年度	平成18年度	平成24年度	平成28年度
事業所数	17,314	17,188	16,491	15,272	15,567	15,603
従業員数（人）	174,362	181,222	183,203	175,377	177,392	189,232

資料：事業所・企業統計調査（平成３、8、13、18年）、経済センサス（平成24、28年）

（１） 現状のまま推移した場合（総量）

表 4-10 ごみ処理予測（現状のまま推移した場合：総量）

（単位：t/年）

年度	記号	実績					予測値	推計値										備考
		H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
年間日数	(1)	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	
人口（人） ※1	(2)	627,073	631,973	635,947	639,107	640,906	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
将来人口（人） ※2	(3)	–	–	636,539	–	–	645,366	648,308	651,250	652,672	654,094	655,516	656,938	658,360	659,444	660,529	661,613	
家庭系 直営収集 委託収集 直接搬入 ごみ	(4)	**127,322**	**126,132**	**125,036**	**124,947**	**128,847**	**127,084**	**126,868**	**126,696**	**126,431**	**126,202**	**125,975**	**125,787**	**125,525**	**125,296**	**125,068**	**124,884**	=(5)+(6)+(7)
可燃ごみ	(5)	118,814	117,668	115,785	115,102	117,417	115,942	115,252	114,568	113,884	113,200	112,516	111,832	111,148	110,464	109,780	109,096	
粗大ごみ	(6)	4,891	4,948	5,628	6,181	7,345	7,297	7,607	7,942	8,217	8,515	8,814	9,139	9,415	9,713	10,012	10,340	
不燃ごみ	(7)	3,617	3,516	3,623	3,664	4,085	3,845	4,009	4,185	4,330	4,487	4,645	4,816	4,962	5,119	5,276	5,449	
資源ごみ	(8)	8,943	8,813	8,787	8,757	9,264	9,147	9,146	9,175	9,136	9,127	9,120	9,140	9,112	9,106	9,101	9,123	
合計	(9)	136,265	134,945	133,823	133,704	138,111	136,231	136,014	135,871	135,567	135,329	135,095	134,927	134,637	134,402	134,169	134,007	=(4)+(8)
集団回収 有価物回収	(10)	**17,303**	**16,610**	**17,014**	**17,433**	**18,403**	**17,864**	**17,849**	**17,921**	**17,871**	**17,889**	**17,925**	**18,028**	**18,052**	**18,129**	**18,222**	**18,381**	
新聞	(11)	5,388	4,714	4,369	3,974	3,445	3,243	3,077	2,927	2,762	2,614	2,473	2,346	2,213	2,092	1,978	1,874	
雑誌	(12)	4,727	4,442	4,574	4,696	4,786	4,273	4,054	3,857	3,640	3,444	3,259	3,092	2,916	2,757	2,606	2,469	
雑がみ	(13)	–	118	475	813	940	1,075	1,350	1,646	1,931	2,221	2,513	2,814	3,101	3,395	3,690	3,996	
段ボール	(14)	5,390	5,497	5,709	5,942	6,983	7,251	7,259	7,321	7,324	7,346	7,366	7,406	7,406	7,421	7,435	7,470	
古着・毛布	(15)	1,756	1,792	1,836	1,950	2,191	1,961	2,048	2,108	2,152	2,202	2,252	2,308	2,353	2,402	2,451	2,508	
紙パック	(16)	42	47	51	58	58	61	61	62	62	62	62	62	62	62	62	63	
拠点回収 小型家電	(17)	21	32	54	60	79	68	70	75	79	83	86	89	92	94	97	100	
家庭系合計	(18)	153,589	151,587	150,891	151,197	156,593	154,163	153,933	153,867	153,517	153,301	153,106	153,044	152,781	152,625	152,488	152,488	=(4)+(8)+(10)+(17)
事業系 許可業者 直接搬入 ごみ	(19)	51,635	51,423	50,986	52,027	46,473	46,666	48,529	52,273	52,134	52,138	52,141	52,287	52,147	52,149	52,152	52,297	=(20)+(21)
可燃ごみ	(20)	48,533	48,572	48,413	48,979	43,683	43,905	45,658	49,180	49,049	49,053	49,056	49,194	49,062	49,064	49,066	49,203	
粗大ごみ	(21)	3,102	2,851	2,573	3,048	2,790	2,761	2,871	3,093	3,085	3,085	3,085	3,093	3,085	3,085	3,086	3,094	
資源ごみ	(22)	347	330	308	354	260	209	218	234	234	234	234	234	234	234	234	234	
食品残渣	(23)	1,134	1,128	1,235	1,209	988	960	998	1,075	1,073	1,073	1,073	1,076	1,073	1,073	1,073	1,076	
その他	(24)	3	180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事業系合計	(25)	**53,119**	**53,061**	**52,529**	**53,590**	**47,721**	**47,835**	**49,745**	**53,582**	**53,441**	**53,445**	**53,448**	**53,597**	**53,454**	**53,456**	**53,459**	**53,607**	=(19)+(22)+(23)+(24)
合計	(26)	206,708	204,648	203,420	204,787	204,314	201,998	203,678	207,449	206,958	206,746	206,554	206,641	206,235	206,081	205,947	206,095	=(18)+(25)
（うち資源除く）	(27)	180,094	178,863	177,257	178,183	176,308	174,710	176,395	180,044	179,638	179,413	179,189	179,150	178,745	178,518	178,293	178,257	
（うち資源）	(28)	26,614	25,785	26,163	26,604	28,006	27,288	27,283	27,405	27,320	27,333	27,365	27,491	27,490	27,563	27,654	27,838	
リサイクル率（家庭系+事業系）	(29)	**12.9%**	**12.6%**	**12.9%**	**13.0%**	**13.7%**	**13.5%**	**13.4%**	**13.2%**	**13.2%**	**13.2%**	**13.2%**	**13.3%**	**13.3%**	**13.4%**	**13.4%**	**13.5%**	

※1 船橋市常住人口（各年10月1日現在：市HP）より

※2 船橋市HP（将来人口推計（市全体　公開日：平成30年3月30日 ／ 更新日：令和元年5月22日））より

（２）現状のまま推移した場合（原単位）

表 4-11　ごみ処理予測（現状のまま推移した場合：原単位）

（単位：g/人・日）

年度	記号	実績					予測値	推計値										備考
		H28	H29	H30	H31（R1）	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
年間日数	(1)	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	
人口（人）　※1	(2)	627,073	631,973	635,947	639,107	640,906	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
将来人口（人）　※2	(3)	–	–	636,539	–	–	645,366	648,308	651,250	652,672	654,094	655,516	656,938	658,360	659,444	660,529	661,613	
事業所数　※3	(4)	15,603	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
従業者数　※3	(5)	189,232	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	
家庭系 直営収集・委託収集・直接搬入 **ごみ**	(6)	**556.3**	**546.8**	**538.7**	**534.2**	**550.8**	**539.5**	**536.1**	**531.5**	**530.7**	**528.6**	**526.5**	**523.2**	**522.4**	**520.6**	**518.8**	**515.7**	=(7)+(9)+(10)
可燃ごみ	(7)	519.1	510.1	498.8	492.1	501.9	492.2	487.1	480.7	478.1	474.1	470.3	465.1	462.5	458.9	455.3	450.5	R13にR3から総量5.9%減少
粗大不燃ごみ	(8)	37.2	36.7	39.9	42.1	48.9	47.3	49.1	50.9	52.7	54.5	56.3	58.0	59.8	61.6	63.4	65.2	予測値（H28～H31）
粗大ごみ	(9)	21.4	21.5	24.2	26.4	31.4	31.0	32.1	33.3	34.5	35.7	36.8	38.0	39.2	40.4	41.5	42.7	
不燃ごみ	(10)	15.8	15.2	15.6	15.7	17.5	16.3	16.9	17.6	18.2	18.8	19.4	20.0	20.6	21.3	21.9	22.5	
資源ごみ	(11)	39.1	38.2	37.9	37.4	39.6	38.8	38.6	38.5	38.4	38.2	38.1	38.0	37.9	37.8	37.7	37.7	
合計	(12)	595.4	585.0	576.5	571.6	590.4	578.3	574.8	570.0	569.1	566.8	564.6	561.2	560.3	558.4	556.5	553.4	
集団回収 **有価物回収**	(13)	**75.6**	**72.0**	**73.3**	**74.5**	**78.7**	**75.8**	**75.4**	**75.2**	**75.0**	**74.9**	**74.9**	**75.0**	**75.1**	**75.3**	**75.6**	**75.9**	
新聞	(14)	23.5	20.4	18.8	17.0	14.7	13.8	13.0	12.3	11.6	10.9	10.3	9.8	9.2	8.7	8.2	7.7	
雑誌	(15)	20.7	19.3	19.7	20.1	20.5	18.1	17.1	16.2	15.3	14.4	13.6	12.9	12.1	11.5	10.8	10.2	
（新聞・雑誌）	(16)	44.2	39.7	38.5	37.1	35.2	31.9	30.1	28.5	26.9	25.4	24.0	22.6	21.3	20.1	19.0	17.9	
雑がみ	(17)	0.0	0.5	2.0	3.5	4.0	4.5	5.7	6.9	8.1	9.3	10.5	11.7	12.9	14.1	15.3	16.5	
段ボール	(18)	23.5	23.8	24.6	25.4	29.9	30.6	30.7	30.7	30.7	30.8	30.8	30.8	30.8	30.8	30.8	30.8	
古着・毛布	(19)	7.7	7.8	7.9	8.3	9.4	8.5	8.7	8.8	9.0	9.2	9.4	9.6	9.8	10.0	10.2	10.4	
紙パック	(20)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	R3の値が継続すると仮定
拠点回収 小型家電	(21)	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	
家庭系合計	(22)	671.0	657.2	650.1	646.4	669.4	654.4	650.5	645.5	644.4	642.1	639.9	636.5	635.8	634.1	632.5	629.7	=(12)+(13)+(21)
（資源・有価物・小型家電除く）	(23)	556.3	546.8	538.7	534.2	550.8	539.5	536.1	531.5	530.7	528.6	526.5	523.2	522.4	520.6	518.8	515.7	
（資源・有価物・小型家電）	(24)	114.8	110.4	111.4	112.2	118.6	114.9	114.4	114.0	113.7	113.5	113.4	113.4	113.4	113.5	113.7	114.0	=(11)+(13)+(21)
リサイクル率（家庭系ごみ）	(25)	**17.1%**	**16.8%**	**17.1%**	**17.4%**	**17.7%**	**17.6%**	**17.6%**	**17.7%**	**17.6%**	**17.7%**	**17.7%**	**17.8%**	**17.8%**	**17.9%**	**18.0%**	**18.1%**	
事業系（t/日） 許可業者直接搬入 ごみ	(26)	141.5	140.9	139.7	142.2	127.3	127.9	133.0	142.8	142.8	142.8	142.9	142.9	142.9	142.9	142.9	142.9	
可燃ごみ	(27)	133.0	133.1	132.6	133.8	119.7	120.3	125.1	134.4	134.4	134.4	134.4	134.4	134.4	134.4	134.4	134.4	
粗大ごみ	(28)	8.5	7.8	7.0	8.3	7.6	7.6	7.9	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	
資源ごみ	(29)	1.0	0.9	0.8	1.0	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	
食品残渣	(30)	3.1	3.1	3.4	3.3	2.7	2.6	2.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	
その他	(31)	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0とする
事業系合計	(32)	**145.5**	**145.4**	**143.9**	**146.4**	**130.7**	**131.1**	**136.3**	**146.4**	**146.4**	**146.4**	**146.4**	**146.4**	**146.4**	**146.5**	**146.5**	**146.5**	
（その他除く）	(33)	145.5	144.9	143.9	146.4	130.7	131.1	136.3	146.4	146.4	146.4	146.4	146.4	146.4	146.5	146.5	146.5	予測値（H28～H31）
事業系（ごみ）	(34)	144.6	144.5	143.1	145.5	130.0	130.5	135.7	145.8	145.8	145.8	145.8	145.8	145.8	145.8	145.8	145.8	=(32)-(35)
事業系（資源）	(35)	1.0	0.9	0.8	1.0	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	=(29)
事業系（原単位） 許可業者直接搬入 ごみ	(36)	225.6	222.9	219.7	222.4	198.7	198.1	205.1	219.3	218.8	218.4	217.9	217.5	217.0	216.7	216.3	216.0	=(37)+(38)
可燃ごみ	(37)	212.0	210.6	208.6	209.4	186.7	186.4	192.9	206.3	205.9	205.5	205.0	204.6	204.2	203.8	203.5	203.2	
粗大ごみ	(38)	13.6	12.4	11.1	13.0	11.9	11.7	12.1	13.0	13.0	12.9	12.9	12.9	12.8	12.8	12.8	12.8	
資源ごみ	(39)	1.5	1.4	1.3	1.5	1.1	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
食品残渣	(40)	5.0	4.9	5.3	5.2	4.2	4.1	4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	
その他	(41)	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
合計	(42)	903.1	887.2	876.4	875.5	873.4	857.4	860.7	870.3	868.8	866.0	863.3	859.4	858.2	856.2	854.2	851.1	ごみ総排出量÷人口÷年間日数
（うち資源除く）	(43)	786.8	775.4	763.6	761.7	753.7	741.7	745.4	755.4	754.1	751.5	748.9	745.1	743.8	741.7	739.5	736.1	
（うち資源）	(44)	116.3	111.8	112.7	113.7	119.7	115.8	115.3	115.0	114.7	114.5	114.4	114.3	114.4	114.5	114.7	115.0	
リサイクル率（家庭系+事業系）	(45)	**12.9%**	**12.6%**	**12.9%**	**13.0%**	**13.7%**	**13.5%**	**13.4%**	**13.2%**	**13.2%**	**13.2%**	**13.2%**	**13.3%**	**13.3%**	**13.4%**	**13.4%**	**13.5%**	

※1 船橋市常住人口（各年10月1日現在：市HP）より

※2 船橋市HP（将来人口推計（市全体　公開日：平成30年3月30日 / 更新日：令和元年5月22日））より

（３）減量目標値（総量）

表 4-12　ごみ処理予測（減量目標値：総量）

（単位:t/年）

年度				記号	実績 H28	実績 H29	実績 H30	実績 H31(R1)	実績 R2	予測値 R3	目標値 R4	目標値 R5	目標値 R6	目標値 R7	目標値 R8	目標値 R9	目標値 R10	目標値 R11	目標値 R12	目標値 R13	備考
年間日数				(1)	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	
人口（人）　※1				(2)	627,073	631,973	635,947	639,107	640,906	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
将来人口（人）　※2				(3)	−	−	636,539	−	−	645,366	648,308	651,250	652,672	654,094	655,516	656,938	658,360	659,444	660,529	661,613	
家庭系	直営収集 委託収集 直接搬入	**ごみ**		(4)	127,322	126,132	125,036	124,947	128,847	127,084	**125,309**	**123,851**	**121,412**	**119,301**	**117,180**	**115,362**	**112,906**	**110,696**	**108,480**	**106,546**	
			可燃ごみ	(5)	118,814	117,668	115,785	115,102	117,417	115,942	113,989	112,338	109,808	107,584	105,358	103,410	100,893	98,602	96,308	94,266	
			粗大ごみ	(6)	4,891	4,948	5,628	6,181	7,345	7,297	7,413	7,540	7,599	7,673	7,742	7,828	7,867	7,920	7,971	8,042	
			不燃ごみ	(7)	3,617	3,516	3,623	3,664	4,085	3,845	3,906	3,973	4,005	4,044	4,080	4,125	4,146	4,174	4,201	4,238	
		資源ごみ		(8)	8,943	8,813	8,787	8,757	9,264	9,147	9,061	8,998	8,865	8,755	8,645	8,557	8,423	8,307	8,190	8,095	
			合計	(9)	136,265	134,945	133,823	133,704	138,111	136,231	134,370	132,849	130,277	128,056	125,825	123,919	121,329	119,003	116,670	114,641	=(4)+(8)
	集団回収	**有価物回収**		(10)	17,303	16,610	17,014	17,433	18,403	17,864	**19,142**	**20,546**	**21,789**	**23,112**	**24,484**	**25,925**	**27,226**	**28,630**	**30,105**	**31,643**	
			新聞	(11)	5,388	4,714	4,369	3,974	3,445	3,243	3,312	3,400	3,472	3,562	3,660	3,778	3,883	4,003	4,131	4,277	
			雑誌	(12)	4,727	4,442	4,574	4,696	4,786	4,273	4,364	4,480	4,574	4,693	4,823	4,978	5,116	5,275	5,443	5,636	
			雑がみ	(13)	−	118	475	813	940	1,075	1,628	2,193	2,760	3,305	3,846	4,396	4,921	5,454	6,009	6,558	
			段ボール	(14)	5,390	5,497	5,709	5,942	6,983	7,251	7,488	7,791	8,015	8,290	8,572	8,884	9,130	9,426	9,729	10,066	
			古着・毛布	(15)	1,756	1,792	1,836	1,950	2,191	1,961	2,290	2,620	2,906	3,200	3,520	3,827	4,114	4,410	4,731	5,043	
			紙パック	(16)	42	47	51	58	58	61	61	62	62	62	62	62	62	62	62	63	
	拠点回収	小型家電		(17)	21	32	54	60	79	68	82	99	116	133	150	167	184	201	218	236	
			家庭系合計	(18)	153,589	151,587	150,891	151,197	156,593	154,163	153,594	153,494	152,182	151,301	150,459	150,011	148,739	147,834	146,993	146,520	=(4)+(8)+(10)+(17)
事業系	許可業者 直接搬入	ごみ		(19)	51,635	51,423	50,986	52,027	46,473	46,666	46,784	48,774	46,900	45,194	43,453	41,826	39,969	38,227	36,485	34,837	=(20)+(21)
			可燃ごみ	(20)	48,533	48,572	48,413	48,979	43,683	43,905	44,016	45,888	44,125	42,520	40,882	39,351	37,604	35,965	34,326	32,776	
			粗大ごみ	(21)	3,102	2,851	2,573	3,048	2,790	2,761	2,768	2,886	2,775	2,674	2,571	2,475	2,365	2,262	2,159	2,061	
		資源ごみ		(22)	347	330	308	354	260	209	210	219	210	203	195	187	179	171	164	156	
		食品残渣		(23)	1,134	1,128	1,235	1,209	988	960	963	1,004	965	930	894	860	822	787	751	717	
		その他		(24)	3	180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			事業系合計	(25)	53,119	53,061	52,529	53,590	47,721	47,835	**47,957**	**49,997**	**48,075**	**46,327**	**44,542**	**42,873**	**40,970**	**39,185**	**37,400**	**35,710**	=(19)+(22)+(23)+(24)
			合計	(26)	206,708	204,648	203,420	204,787	204,314	201,998	201,551	203,491	200,257	197,628	195,001	192,884	189,709	187,019	184,393	182,230	=(18)+(26)
			（うち資源除く）	(27)	180,094	178,863	177,257	178,183	176,308	174,710	173,056	173,629	169,277	165,425	161,527	158,048	153,697	149,710	145,716	142,100	
			（うち資源）	(28)	26,614	25,785	26,163	26,604	28,006	27,288	28,495	29,862	30,980	32,203	33,474	34,836	36,012	37,309	38,677	40,130	
リサイクル率（家庭系+事業系）				(29)	12.9%	12.6%	12.9%	13.0%	13.7%	13.5%	**14.1%**	**14.7%**	**15.5%**	**16.3%**	**17.2%**	**18.1%**	**19.0%**	**19.9%**	**21.0%**	**22.0%**	

※1 船橋市常住人口（各年10月1日現在：市HP）より

※2 船橋市HP（将来人口推計（市全体　公開日：平成30年3月30日 / 更新日：令和元年5月22日））より

（4）減量目標値（原単位）

表 4-13　ごみ処理予測（減量目標値：原単位）

（単位：g/人･日）

年度			記号	実績					予測値	目標値										備考
				H28	H29	H30	H31（R1）	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
年間日数			(1)	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	
人口（人）　※1			(2)	627,073	631,973	635,947	639,107	640,906	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
将来人口（人）　※2			(3)	－	－	636,539	－	－	645,366	648,308	651,250	652,672	654,094	655,516	656,938	658,360	659,444	660,529	661,613	
家庭系	直営収集 委託収集 直接搬入	**ごみ**	(4)	556.3	546.8	538.7	534.2	550.8	539.5	**529.6**	**519.6**	**509.7**	**499.7**	**489.8**	**479.8**	**469.9**	**459.9**	**450.0**	**440.0**	R13に440g、直線
		可燃ごみ	(5)	519.1	510.1	498.8	492.1	501.9	492.2	481.7	471.3	460.9	450.6	440.3	430.1	419.9	409.7	399.5	389.3	
		粗大ごみ	(6)	21.4	21.5	24.2	26.4	31.4	31.0	31.3	31.6	31.9	32.1	32.4	32.6	32.7	32.9	33.1	33.2	
		不燃ごみ	(7)	15.8	15.2	15.6	15.7	17.5	16.3	16.5	16.7	16.8	16.9	17.1	17.2	17.3	17.3	17.4	17.5	
		資源ごみ	(8)	39.1	38.2	37.9	37.4	39.6	38.8	38.3	37.8	37.2	36.7	36.1	35.6	35.1	34.5	34.0	33.4	
		合計	(9)	595.4	585.0	576.5	571.6	590.4	578.3	567.8	557.4	546.9	536.4	525.9	515.4	504.9	494.4	483.9	473.4	
	集団回収	**有価物回収**	(10)	75.6	72.0	73.3	74.5	78.7	75.8	**80.9**	**86.2**	**91.5**	**96.8**	**102.3**	**107.8**	**113.3**	**118.9**	**124.9**	**130.7**	
		新聞	(11)	23.5	20.4	18.8	17.0	14.7	13.8	14.0	14.3	14.6	14.9	15.3	15.7	16.2	16.6	17.1	17.7	
		雑誌	(12)	20.7	19.3	19.7	20.1	20.5	18.1	18.4	18.8	19.2	19.7	20.2	20.7	21.3	21.9	22.6	23.3	
		雑がみ	(13)	0.0	0.5	2.0	3.5	4.0	4.5	6.9	9.2	11.6	13.8	16.1	18.3	20.5	22.7	24.9	27.1	
		段ボール	(14)	23.5	23.8	24.6	25.4	29.9	30.6	31.6	32.7	33.6	34.7	35.8	36.9	38.0	39.2	40.4	41.6	
		古着･毛布	(15)	7.7	7.8	7.9	8.3	9.4	8.5	9.7	11.0	12.2	13.4	14.7	15.9	17.1	18.3	19.6	20.8	
		紙パック	(16)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	
	拠点回収	小型家電	(17)	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.5	0.6	0.6	0.7	0.8	0.8	0.9	1.0	
		家庭系合計	(18)	671.0	657.2	650.1	646.4	669.4	654.4	649.1	644.0	638.8	633.7	628.8	623.9	619.0	614.2	609.7	605.1	=(9)+(10)+(17)
事業系（t/日）	許可業者 直接搬入	ごみ	(19)	141.5	140.9	139.7	142.2	127.3	127.9	128.2	133.3	128.5	123.8	119.0	114.3	109.5	104.7	100.0	95.2	
		可燃ごみ	(20)	133.0	133.1	132.6	133.8	119.7	120.3	120.6	125.4	120.9	116.5	112.0	107.5	103.0	98.5	94.0	89.6	
		粗大ごみ	(21)	8.5	7.8	7.0	8.3	7.6	7.6	7.6	7.9	7.6	7.3	7.0	6.8	6.5	6.2	5.9	5.6	
		資源ごみ	(22)	1.0	0.9	0.8	1.0	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	
		食品残渣	(23)	3.1	3.1	3.4	3.3	2.7	2.6	2.6	2.7	2.6	2.5	2.4	2.4	2.3	2.2	2.1	2.0	
		その他	(24)	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0とする
		事業系合計	(25)	145.5	145.4	143.9	146.4	130.7	131.1	**131.4**	**136.6**	**131.7**	**126.9**	**122.0**	**117.1**	**112.2**	**107.4**	**102.5**	**97.6**	
		合計	(26)	903.1	887.2	876.4	875.5	873.4	857.4	859.3	868.8	863.1	857.6	852.2	846.8	841.4	836.3	831.4	826.5	ごみ総排出量÷人口÷年間日数
		（うち資源除く）	(27)	786.8	775.4	763.6	761.7	753.7	741.7	738.9	743.4	733.0	722.6	712.2	701.7	691.3	681.0	670.7	660.4	
		（うち資源）	(28)	116.3	111.8	112.7	113.7	119.7	115.8	120.5	125.3	130.1	135.0	140.1	145.1	150.1	155.3	160.7	166.0	
リサイクル率（家庭系+事業系）			(29)	12.9%	12.6%	12.9%	13.0%	13.7%	13.5%	**14.0%**	**14.4%**	**15.1%**	**15.7%**	**16.4%**	**17.1%**	**17.8%**	**18.6%**	**19.3%**	**20.1%**	

※1 船橋市常住人口（各年10月1日現在：市HP）より

※2 船橋市HP（将来人口推計（市全体　公開日：平成30年3月30日 / 更新日：令和元年5月22日））より

９.特定テーマ

（１）戸別収集

表 4-14　特定テーマ（戸別収集）の想定結果

		現状 （令和元年度実績）	戸別収集を実施した場合		備考
家庭系可燃ごみ排出量（収集量）		113,670 t/年	113,670 t/年		a
回収箇所数		19,197箇所	北部　89,598箇所 南部　34,230箇所 計　123,828箇所	6.45倍	
年間走行距離		1,630,764 km	1,927,287 km	1.18 倍	
コスト	収集運搬経費	2,089,771 千円	2,372,571 千円	+282,800千円 +15台	b
	燃料費	49,860 千円	57,273 千円	+7,413千円	c
	計	2,139,631 千円	2,429,844 千円	+290,213 千円 +13.6%	d=b+c
	収集単価	19 千円/t	21 千円/t	+3 千円 +15.9%	e=d/a
温室効果ガス排出量	収集運搬	1,039 t-CO2	1,206 t-CO2	+167 t-CO2 +16.1%	f
	計	1,039 t-CO2	1,206 t-CO2	+167 t-CO2 +16.1%	

（２）容器包装プラスチック及び製品プラスチックの分別収集と資源化

表 4-15　特定テーマ（容器包装プラスチック及び製品プラスチックの分別収集と資源化）の想定結果

		現状 （令和元年度実績）	パターン① （容器包装のみ）		パターン② （容器包装　+　製品プラ）		備考
資源化量 （可燃ごみ量115,102トン）		容器包装　14,480 ﾄﾝ （12.58%） 製品プラ　3,142 ﾄﾝ （2.73%） 計　17,622 ﾄﾝ	4,923 ﾄﾝ	協力率 容器包装40% 不適物割合15%	6,259 ﾄﾝ	協力率 容器包装40% 製品プラ50% 不適物割合15%	a
資源化費用	施設整備費		2,894,360 千円	25.7 ﾄﾝ	3,679,328 千円	32.67 ﾄﾝ	他市事例
資源化費用 （ランニング コスト）	運転管理費		240,912 千円		306,249 千円		b
	収集運搬費		420,000 千円	+28台	465,000 千円	+31台	c
	計	2,974,022 千円	3,634,934 千円	+660,912 千円 +22.2%	3,745,271 千円	+771,249 千円 +25.9%	d=b+c
	資源化処理単価		738 千円/ t		598 千円/ t		e=d/a
温室効果ガス 排出量	収集運搬	1,039 t-CO2	1,081 t-CO2	+42 t-CO2 +4.0%	1,092 t-CO2	+53 t-CO2 +5.1%	f
	焼却	109,629 t-CO2	95,909 t-CO2	-13,720 t-CO2 -12.5%	92,185 t-CO2	-17,444 t-CO2 -15.9%	g
	再商品化・中間処理		10,766 t-CO2	+10,766 t-CO2	13,689 t-CO2	+13,689 t-CO2	h
	計	110,668 t-CO2	107,756 t-CO2	-2,912 t-CO2 -2.6%	106,966 t-CO2	-3,702 t-CO2 -3.3%	i=f+g+h

※　温室効果ガス排出量については、中間処理施設で圧縮梱包してから再商品化までの過程における排出量も考慮している。

※　廃棄物発電（発電効率22.4%）による温室効果ガスの削減量は、考慮していない。

（３）使用済み紙おむつの分別収集と資源化

表 4-16　特定テーマ（使用済み紙おむつの分別収集と資源化）の想定結果

		現状 （令和元年度実績）	（全量資源化）		（公立保育園のみ）		備考
資源化量			2,875 ﾄﾝ	291施設	190 ﾄﾝ	27施設	a
資源化費用	施設整備費		1,762,950 千円		116,508 千円		ヒアリング
資源化費用 （ランニング コスト）	運転管理費		208,438 千円		13,775 千円		b
	収集運搬費		45,000 千円	+3台	15,000 千円	+1台	c
	計	2,974,023 千円	3,227,461 千円	+253,438 千円 +8.5%	3,002,798 千円	+28,775 千円 +1.0%	d=b+c
	資源化処理単価		88 千円/ﾄﾝ		151 千円/ﾄﾝ		e=d/a
温室効果ガス 排出量	収集運搬	1,039 t-CO2	1,059.9 t-CO2	+21.0 t-CO2 2.0%	1,045.9 t-CO2	+7.0 t-CO2 0.7%	f
	焼却	109,629 t-CO2	109,580.0 t-CO2	-49.0 t-CO2 -0.04%	109,626.0 t-CO2	-3.0 t-CO2 -0.003%	g
	計	110,668 t-CO2	110,639.9 t-CO2	-28.0 t-CO2 -0.03%	110,671.9 t-CO2	+4.0 t-CO2 0.004%	h=f+g
	紙おむつ資源化 １トンあたりの 温室効果ガス排出量		-9.7 kg-CO2/ﾄﾝ		21.1 kg-CO2/ﾄﾝ		i=h*1000/a

１０.市民アンケート結果

調査概要

本調査は、一般廃棄物処理にかかる課題等について船橋市民の意見を把握し、一般廃棄物処理基本計画を策定する上で、参考とすることを目的として実施した。

調査対象は、船橋市内在住の満 18 歳以上の市民計 3,000 人とし、調査対象の抽出方法は、多段抽出（地域、年齢、性別）とした。

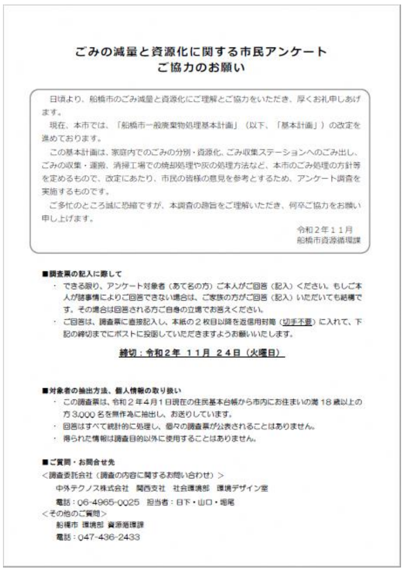
調査方法は、郵送によりアンケート用紙を配布し、返信された回答用紙についてデータ整理を行った。また、回収率の向上を目的として、お礼状をアンケート発送の２週間後に発送した。

市民アンケートの調査期間を以下に示す。

・アンケートの発送	： 2020 年 11 月 6 日（金）
・お礼状の発送	： 2020 年 11 月 20 日（金）
・アンケート回収期限	： 2020 年 11 月 30 日（月）

アンケートの回収率は、58.3%であった。アンケート回収状況について以下に示す。

・アンケート発送数	：3,000 件
・無効数（宛先不明等）	： 7 件
・有効数	：2,993 件（アンケート発送数－無効数）
・アンケート回収数	：1,745 件
・アンケート回収率	： 58.3%（アンケート回収数÷有効数）



ごみの減量と資源化に関する市民アンケート
ご協力のお願い

日頃より、船橋市のごみ減量と資源化にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

現在、本市では、「船橋市一般廃棄物処理基本計画」（以下、「基本計画」）の改定を進めております。

この基本計画は、家庭内でのごみの分別・資源化、ごみ収集ステーションへのごみ出し、ごみの収集・運搬、清掃工場での焼却処理や灰の処理方法など、本市のごみ処理の方針等を定めるもので、改定にあたり、市民の皆様の意見を参考とするため、アンケート調査を実施するものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力をお願い申し上げます。

令和２年１１月
船橋市資源循環課

■調査票の記入に際して

- できる限り、アンケート対象者（あて名の方）ご本人がご回答（記入）ください。もしご本人が諸事情によりご回答できない場合は、ご家族の方がご回答（記入）いただいても結構です。その場合は回答される方ご自身の立場でお答えください。
- ご回答は、調査票に直接記入し、本紙の２枚目以降を返信用封筒（切手不要）に入れて、下記の締切までにポストに投函していただきますようお願いいたします。

締切：令和２年 １１月 ２４日（火曜日）

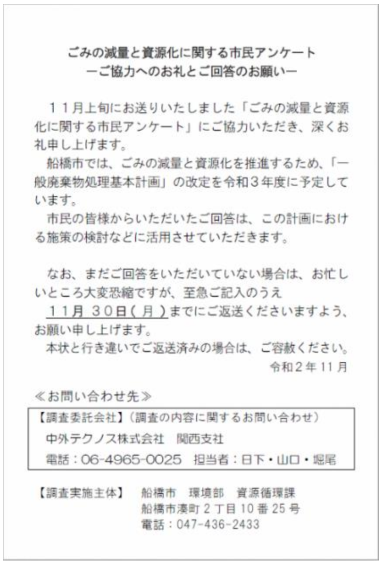
■対象者の抽出方法、個人情報の取り扱い

- この調査票は、令和２年４月１日現在の住民基本台帳から市内にお住まいの満 18 歳以上の方 3,000 名を無作為に抽出し、お送りしています。
- 回答はすべて統計的に処理し、個々の調査票が公表されることはありません。
- 得られた情報は調査目的以外に使用することはありません。

■ご質問・お問合せ先

＜調査委託会社（調査の内容に関するお問い合わせ）＞
中外テクノス株式会社 関西支社 社会環境部 環境デザイン室
電話：06-4965-0025 担当者：日下・山口・堀尾
＜その他のご質問＞
船橋市 環境部 資源循環課
電話：047-436-2433

アンケート案内状



ごみの減量と資源化に関する市民アンケート
－ご協力へのお礼とご回答のお願い－

１１月上旬にお送りいたしました「ごみの減量と資源化に関する市民アンケート」にご協力いただき、深くお礼申し上げます。

船橋市では、ごみの減量と資源化を推進するため、「一般廃棄物処理基本計画」の改定を令和３年度に予定しています。

市民の皆様からいただいたご回答は、この計画における施策の検討などに活用させていただきます。

なお、まだご回答をいただいていない場合は、お忙しいところ大変恐縮ですが、至急ご記入のうえ １１月 ３０日（月）までにご返送くださいますよう、お願い申し上げます。

本状と行き違いでご返送済みの場合は、ご容赦ください。

令和２年 11 月

≪お問い合わせ先≫

【調査委託会社】（調査の内容に関するお問い合わせ）
中外テクノス株式会社 関西支社
電話：06-4965-0025 担当者：日下・山口・堀尾

【調査実施主体】 船橋市 環境部 資源循環課
船橋市湊町２丁目 10 番 25 号
電話：047-436-2433

お礼状

アンケートの設問内容

実施したアンケートの設問内容を以下に示す。

Ⅰ　あなた自身とご家族について		
	問１	（１）性別
		（２）年齢
		（３）居住年数
	問２	（１）世帯員数
		（２）紙おむつの使用有無
		（３）紙おむつ使用世帯状況
		（４）紙おむつ使用者（乳幼児）数
		（５）紙おむつ使用者（乳幼児以外）数
	問３	（１）住居形態
		（２）集合住宅建物敷地内のごみ収集ステーションの有無
	問４	（１）居住町名
Ⅱ　家庭ごみの分別・処理について		
	問５	（１）資源物の分別状況
		（２）分別をしていない理由
	問６	（１）市の分別収集以外の資源物の主な排出先
	問７	（１）雑がみの分別状況
		（２）雑がみとして分別している品目
		（３）雑がみの分別をしていない理由
Ⅲ　ごみの減量化や処理に関する情報提供について		
	問８	（１）ごみに関する情報の入手先
	問９	（１）不足していると思う情報
		（２）望ましいと思う周知方法
Ⅳ　家庭から出る可燃ごみの有料化について		
	問１０	（１）家庭から出る可燃ごみの有料化への意向
	問１１	（１）家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべき理由
	問１２	（１）家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべきではない理由
Ⅴ　プラスチック製容器包装の分別収集について		
	問１３	（１）プラスチック製容器包装の分別収集への意向
	問１４	（１）プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由
	問１５	（１）プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由
Ⅵ　食品ロスの削減について		
	問１６	（１）食品ロスの認知状況
	問１７	（１）食品ロス削減のための家庭での取組
	問１８	（１）食品ロス削減のための外食時での取組
Ⅶ　ごみ問題への関心について		
	問１９	（１）市が実施している取組の認知状況
	問２０	（１）ごみに関しての困りごと
Ⅷ　現在と今後の取組について		
	問２１	（１）現在実施している取組
		（２）今後実施予定の取組
自由意見		

調査結果

実施したアンケートの調査結果を以下に示す。各設問の「未回答」には無効回答を含む。単一回答の設問において、複数の回答を選択されていた場合は無効回答とした。また、構成比は四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

＜Ⅰ　あなた自身とご家族について＞

問1 あなたの性別と年齢、船橋市での居住年数をお答えください。

（1）性別

回答者の性別についてみると、「1. 男」が 38.3%、「2. 女」が 61.2%と、「2. 女」の割合の方が大きくなった。

表 3-1　性別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 男	669	38.3%
2. 女	1,068	61.2%
3. その他	1	0.1%
未回答	7	0.4%
合計	1,745	100.0%

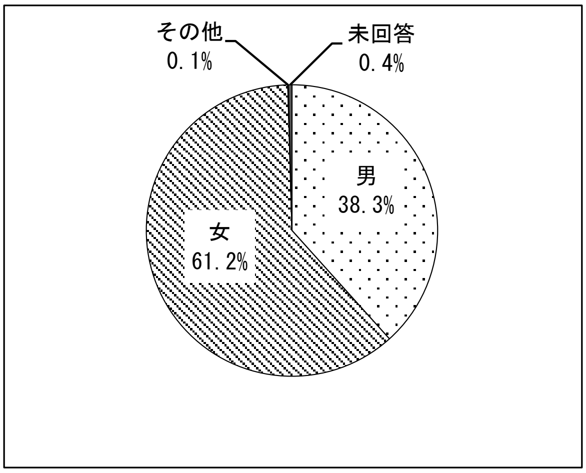


図 3-1　性別回答数

（2）年齢

回答者の年代についてみると、「7. 70 代以上」が 28.9%と最も多く、次いで「4. 40 代」が 18.2%、「5. 50 代」が 17.2%であった。また、「1. 10 代」及び「2. 20 代」は合計で 9.6%と、割合は小さくなった。

表 3-2　年代別回答数

選択肢	回答数	構成比	(参考) 人口比※
18歳未満	－	－	16.1%
1. 10代	30	1.7%	1.8%
2. 20代	138	7.9%	11.3%
3. 30代	192	11.0%	12.3%
4. 40代	318	18.2%	16.3%
5. 50代	301	17.2%	13.7%
6. 60代	254	14.6%	9.7%
7. 70代以上	504	28.9%	18.8%
未回答	8	0.5%	－
合計	1,745	100.0%	100.0%

※令和２年 10 月１日現在
※1. 10 代は 18～19 歳

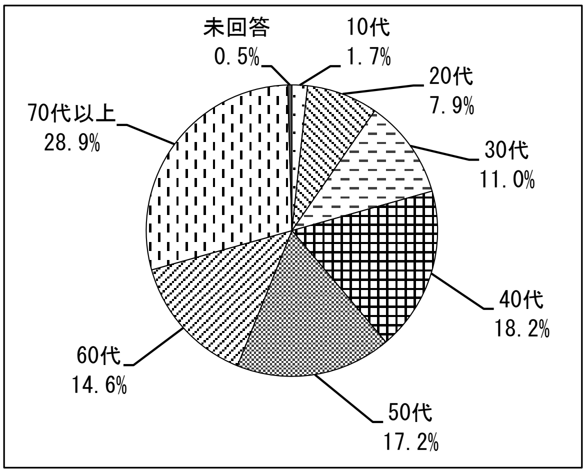


図 3-2　年代別回答数

（3）居住年数

回答者の居住年数についてみると、「6. 30 年以上」が 41.9%と最も多く、次いで「4. 10 年以上～20 年未満」が 19.7%、「5. 20 年以上～30 年未満」が 17.3%の順であった。また、「1. 2 年未満」の新規転入者は 2.7%であった。

問１の 2）年齢（年代）において「7. 70 代以上」の割合が大きかったことから、居住年数も「6. 30 年以上」の割合が大きくなっている可能性が考えられる。

表 3-3　居住年数別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 2年未満	47	2.7%
2. 2年以上～5年未満	124	7.1%
3. 5年以上～10年未満	194	11.1%
4. 10年以上～20年未満	344	19.7%
5. 20年以上～30年未満	302	17.3%
6. 30年以上	731	41.9%
未回答	3	0.2%
合計	1,745	100.0%

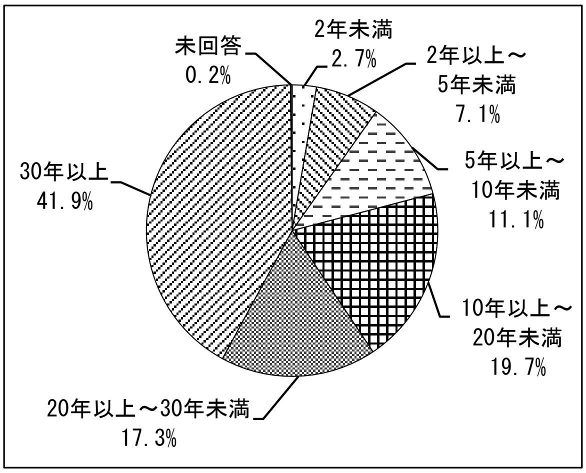


図 3-3　居住年数別回答数

問2　あなたを含め同居している世帯員の人数と、乳児または高齢者の方などで紙おむつを使用している方の有無及びその人数についてお答えください。

（1）世帯員数

回答者の世帯員数についてみると、「2. 2 人」が 32.6%と最も多く、次いで「3. 3 人」が 26.3%、「4. 4 人」が 21.4%の順であった。また、単身世帯は 11.4%であった。

表 3-4　世帯員数別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 1人	199	11.4%
2. 2人	568	32.6%
3. 3人	459	26.3%
4. 4人	374	21.4%
5. 5人	90	5.2%
6. 6人	26	1.5%
7. 7人	5	0.3%
8. 8人	2	0.1%
9. 9人	1	0.1%
未回答	21	1.2%
合計	1,745	100.0%

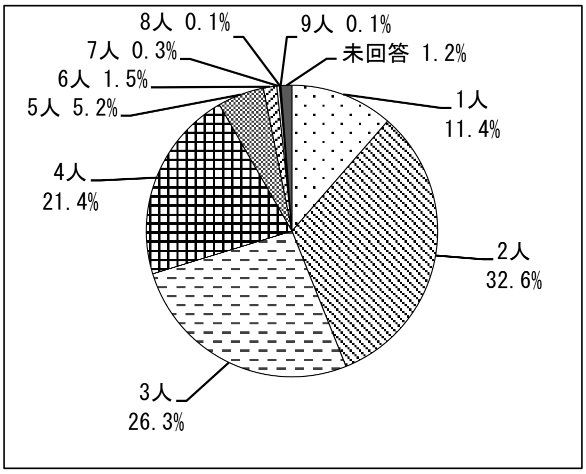


図 3-4　世帯員数別回答数

（2）紙おむつの使用有無

各世帯で紙おむつを使用している方の有無についてみると、紙おむつを使用している世帯は 10.9%であった。

表 3-5　紙おむつの使用有無別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 使用していない	1,499	85.9%
2. 使用している	191	10.9%
未回答	55	3.2%
合計	1,745	100.0%

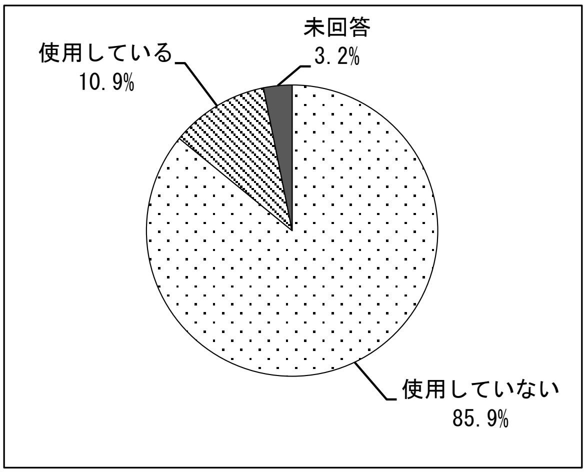


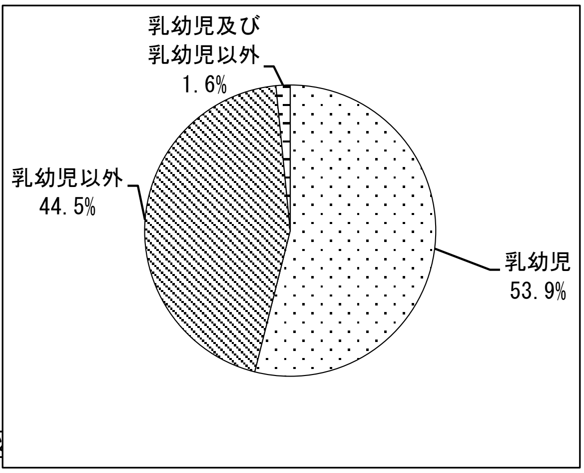
図 3-5　紙おむつの使用有無別回答数

（3）紙おむつ使用世帯状況

紙おむつ使用者を乳幼児と乳幼児以外別にみると、「1. 乳幼児がいる世帯」は 53.9%、「2. 乳幼児以外の方がいる世帯」は 44.5%、「3. 乳幼児及び乳幼児以外がいる世帯」は 1.6%であった。

表 3-6　紙おむつ使用世帯状況別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 乳幼児	103	53.9%
2. 乳幼児以外	85	44.5%
3. 乳幼児及び乳幼児以外	3	1.6%
未回答	0	0.0%
合計	191	100.0%



図

（4）紙おむつ使用者数（乳幼児）

紙おむつを使用している乳幼児がいる世帯は 106 世帯で、使用者数は合計 121 人であった。また、紙おむつを使用している乳幼児の、1 世帯当たりの人数は、「1. 1 人」が 86.8%と大半を占めており、「2. 2 人」が 12.3%、「3. 3 人」が 0.9%であった。4 人以上の回答はなかった。

表 3-7　紙おむつ使用者数（乳幼児）別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 1人	92	86.8%
2. 2人	13	12.3%
3. 3人	1	0.9%
合計	106	100.0%

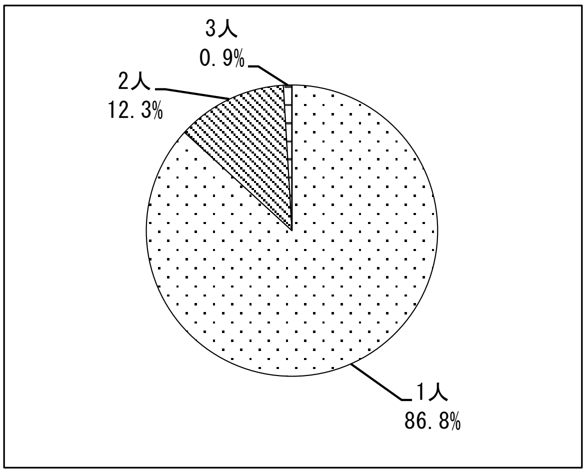


図 3-7　紙おむつ使用者数（乳幼児）別回答数

（5）紙おむつ使用者数（乳幼児以外）

乳幼児以外で紙おむつを使用している世帯は 88 世帯で、使用者数は合計 93 人であった。また、紙おむつを使用している方（乳幼児以外）の 1 世帯当たりの人数は、「1. 1 人」が 94.3%であり、「2. 2 人」が 5.7%であった。3 人以上の回答はなかった。

表 3-8　紙おむつ使用者数（乳幼児以外）別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 1人	83	94.3%
2. 2人	5	5.7%
合計	88	100.0%

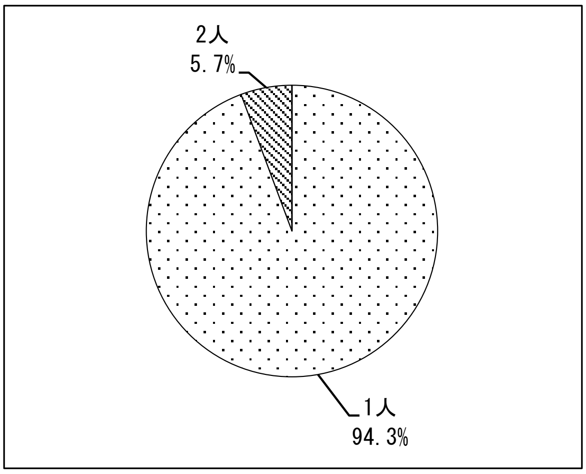


図 3-8　紙おむつ使用者数（乳幼児以外）別回答数

問3　あなたのお住まいの形態とごみ収集ステーションについてお答えください。

（1）居住形態

回答者の居住形態についてみると、「1．集合住宅（長屋建て含む）」が43.1%、「2．戸建て住宅」が54.8%と、「2．戸建て住宅」の割合の方が大きくなった。

表3-9　居住形態別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. 集合住宅(長屋建て含む)	752	43.1%
2. 戸建て住宅	956	54.8%
未回答	37	2.1%
合計	1,745	100.0%

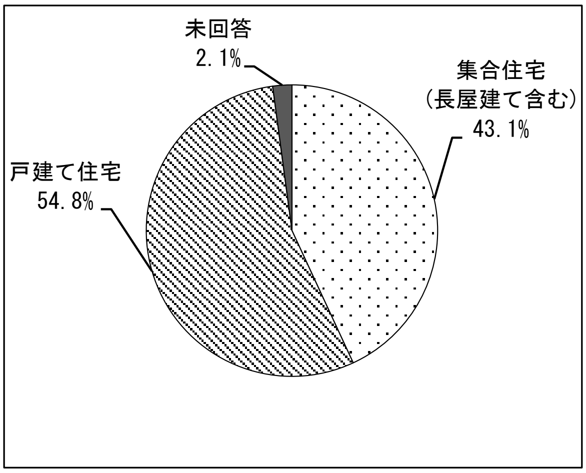


図3-9　居住形態別回答数

（2）集合住宅建物敷地内のごみ収集ステーションの有無

上記の質問で「1．集合住宅（長屋建て含む）」と回答された方について、建物敷地内のごみ収集ステーションの有無についてみると、「1．ある」が95.9%、「2．ない」が3.2%と、95%以上の集合住宅においてごみ収集ステーションが設置されている。

表3-10　集合住宅建物敷地内のごみ収集ステーションの有無別回答数

選択肢	回答数	構成比
1. ある	721	95.9%
2. ない	24	3.2%
未回答	7	0.9%
合計	752	100.0%

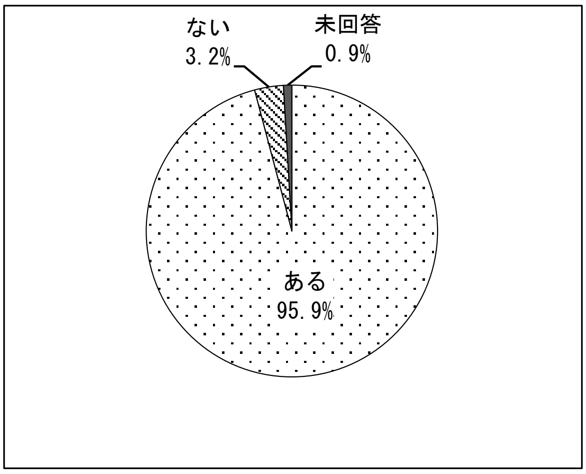


図3-10　集合住宅建物敷地内のごみ収集ステーションの有無別回答数

問4 あなたのお住いの住所をお答えください。

（1）居住地域

回答者の居住地域について、5つの行政ブロックで比較すると、南部が17.4%、西部が24.3%、中部が13.0%、東部が27.1%、北部が17.1%であった。

表3-11 居住地域別回答数

区域	回答数	構成比	（参考）人口比※
南部	304	17.4%	18.8%
西部	424	24.3%	24.4%
中部	226	13.0%	12.9%
東部	473	27.1%	27.0%
北部	299	17.1%	16.9%
未回答	19	1.1%	－
合計	1,745	100.0%	100.0%

※令和２年10月１日現在

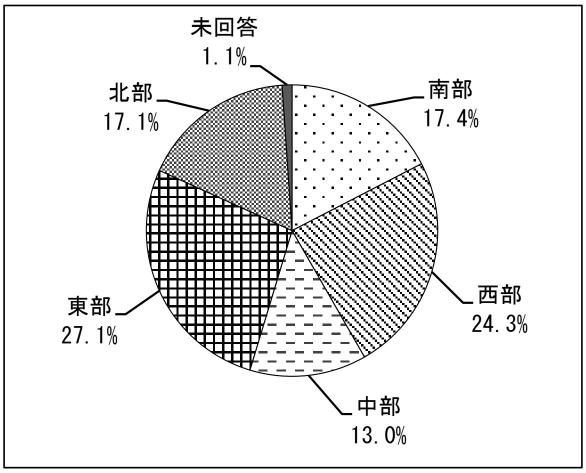


図3-11 居住地域別回答数

【24 地区コミュニティ別町丁目】

行政ブロック	地区コミュニティ	町丁目
南部	湊町	本町3丁目、若松1～3丁目、浜町1～3丁目、湊町1～3丁目、日の出1～2丁目、西浦1～3丁目、栄町1～2丁目、潮見町、高瀬町
	宮本	宮本1～9丁目、市場1～5丁目、駿河台1～2丁目、東船橋1～7丁目、東町
	本町	本町1～2丁目・4～7丁目
	海神	海神1～6丁目、海神町2～3丁目、海神町西1丁目、海神町東1丁目、海神町南1丁目、南海神1～2丁目、南本町
西部	葛飾	印内1～3丁目、印内町、葛飾町2丁目、古作1～4丁目、古作町、山野町、西船1～7丁目、東中山1～2丁目、本郷町
	中山	二子町、本中山1～7丁目
	塚田	旭町1～6丁目、旭町（住居表示外）、行田1～3丁目、行田町、山手1～3丁目、前貝塚町、北本町1～2丁目
	法典	丸山1～5丁目、上山町1～3丁目、藤原1～8丁目、馬込町、馬込西1～3丁目
中部	夏見	夏見1～7丁目、夏見台1～6丁目、米ケ崎町、夏見町2丁目
	高根・金杉	金杉1～9丁目、金杉台1～2丁目、金杉町、高根町、緑台1～2丁目
	高根台	高根台1～6丁目
	新高根・芝山	芝山1～7丁目、新高根1～6丁目、高根台7丁目
東部	前原	前原西1～8丁目、前原東1～6丁目、中野木1～2丁目
	三山・田喜野井	三山1～9丁目、習志野1～5丁目、田喜野井1～7丁目
	二宮・飯山満	滝台1～2丁目、滝台町、二宮1～2丁目、飯山満町1～3丁目
	薬円台	七林町、薬円台1～6丁目、薬園台町1丁目
	習志野台	習志野台1～8丁目、習志野台4丁目（住居表示外）、西習志野1～4丁目
北部	二和	二和西1～6丁目、二和東1～6丁目
	三咲	三咲1～9丁目、三咲町、南三咲1～4丁目
	八木が谷	みやぎ台1～4丁目、高野台1～5丁目、咲が丘1～4丁目、八木が谷1～5丁目、八木が谷町
	松が丘	松が丘1～5丁目
	大穴	大穴町、大穴南1～5丁目、大穴北1～8丁目
	豊富	金堀町、古和釜町、車方町、小室町、小野田町、神保町、大神保町、楠が山町、豊富町、鈴身町
	坪井	坪井西1～2丁目、坪井町、坪井東1～6丁目

出典：第２期船橋市子ども・子育て支援事業計画

＜Ⅱ　家庭ごみの分別・処理について＞

問5 以下の品目について、あなたはどのようにごみを分別していますか。

（1）資源物の分別状況

資源物の分別状況について「1．きちんと分別している」と回答された割合は大きく、スプレー缶が81.6％、鍋・やかん等が76.8％、乾電池が72.8％、蛍光管が68.8％、割れた蛍光管が58.3％、小型家電が53.8％、充電式電池が47.6％であった。
また、「3．あまり分別していない」または「4．分別していない」と回答された割合は、小型家電で8.2％、乾電池で7.6％、充電式電池で6.9％、割れた蛍光管で4.1％、蛍光管で3.9％、鍋・やかん等で3.3％、スプレー缶で1.8％であった。

表3-12　品目別の資源物の分別状況

選択肢		1.きちんと分別している	2.だいたい分別している	3.あまり分別していない	4.分別していない	5.ごみとして出したことがない	未回答	合計
小型家電	回答数	938	176	74	70	410	77	1,745
	構成比	53.8%	10.1%	4.2%	4.0%	23.5%	4.4%	100.0%
充電式電池	回答数	830	146	62	57	568	82	1,745
	構成比	47.6%	8.4%	3.6%	3.3%	32.6%	4.7%	100.0%
鍋・やかん等	回答数	1,340	131	32	26	158	58	1,745
	構成比	76.8%	7.5%	1.8%	1.5%	9.1%	3.3%	100.0%
スプレー缶	回答数	1,424	148	19	12	81	61	1,745
	構成比	81.6%	8.5%	1.1%	0.7%	4.6%	3.5%	100.0%
蛍光管	回答数	1,201	190	30	38	224	62	1,745
	構成比	68.8%	10.9%	1.7%	2.2%	12.8%	3.6%	100.0%
割れた蛍光管	回答数	1,017	164	38	33	426	67	1,745
	構成比	58.3%	9.4%	2.2%	1.9%	24.4%	3.8%	100.0%
乾電池	回答数	1,271	220	60	73	62	59	1,745
	構成比	72.8%	12.6%	3.4%	4.2%	3.6%	3.4%	100.0%

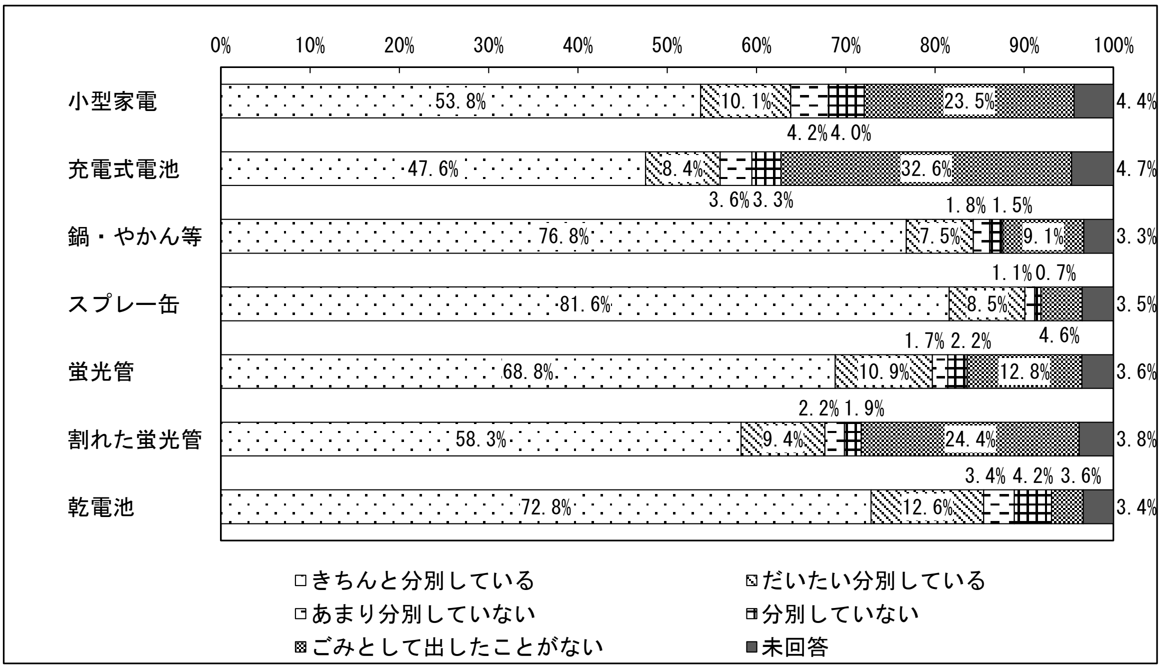


図 3-12　品目別の資源物の分別状況

（2）分別をしていない理由

問5の1）で「3．あまり分別していない」または「4．分別していない」と回答された方で、分別をしていない主な理由は、小型家電、充電式電池では、「②分別や排出方法がわからないため」や「⑤小型家電回収ボックスが近くにないから」の割合が大きく、鍋・やかん等、蛍光管、割れた蛍光管、乾電池では、「②分別や排出方法が分からないため」の割合が大きくなった。また、スプレー缶では「②分別や排出方法が分からないため」に加えて「①面倒だから」の割合が大きくなった。

表3-13　品目別の分別をしていない理由

選択肢		①面倒だから	②分別や排出方法がわからないため	③ごみの減量やリサイクルに関心がないから	④少量であれば問題ないと思うから	⑤小型家電回収ボックスが近くにないから	⑥その他	未回答	合計
小型家電	回答数	7	39	1	1	44	45	7	144
	構成比	4.9%	27.1%	0.7%	0.7%	30.6%	31.3%	4.9%	100.0%
充電式電池	回答数	7	46	0	1	24	35	6	119
	構成比	5.9%	38.7%	0.0%	0.8%	20.2%	29.4%	5.0%	100.0%
鍋・やかん等	回答数	2	29	0	0	0	23	4	58
	構成比	3.4%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	39.7%	6.9%	100.0%
スプレー缶	回答数	5	8	0	2	0	14	2	31
	構成比	16.1%	25.8%	0.0%	6.5%	0.0%	45.2%	6.5%	100.0%
蛍光管	回答数	2	38	0	1	2	24	1	68
	構成比	2.9%	55.9%	0.0%	1.5%	2.9%	35.3%	1.5%	100.0%
割れた蛍光管	回答数	5	43	0	0	2	20	1	71
	構成比	7.0%	60.6%	0.0%	0.0%	2.8%	28.2%	1.4%	100.0%
乾電池	回答数	6	61	0	9	6	45	6	133
	構成比	4.5%	45.9%	0.0%	6.8%	4.5%	33.8%	4.5%	100.0%

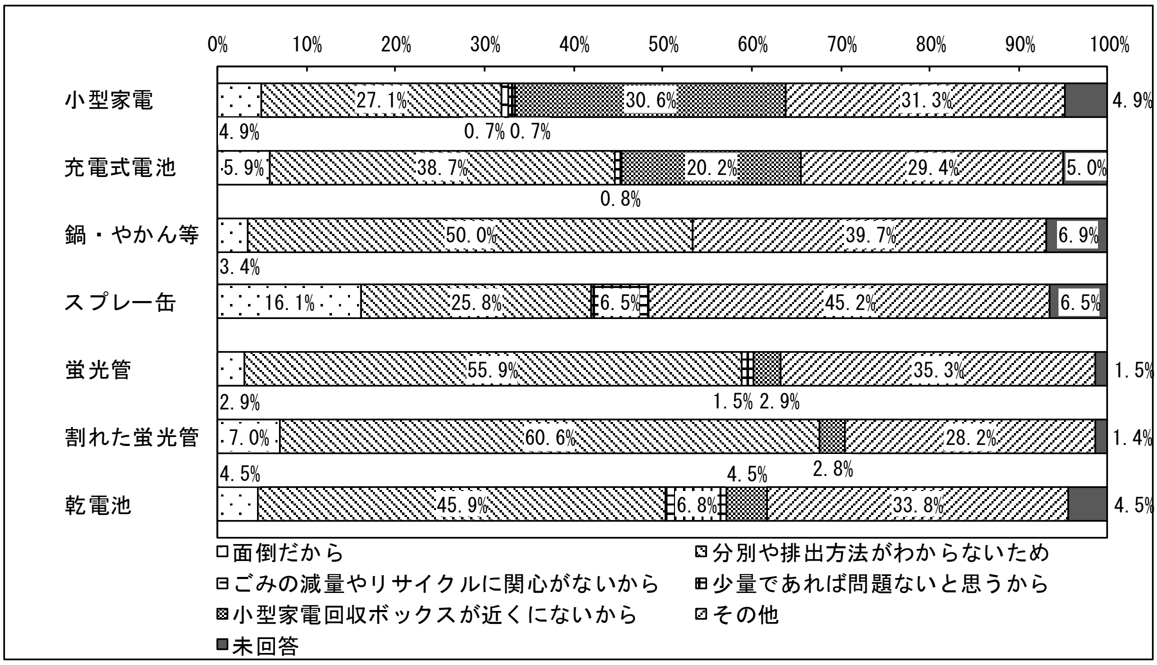


図3-13　品目別の分別をしていない理由

問6　以下の品目について、市の分別収集に出さない場合の排出先をお答えください。

（1）市の分別収集以外の資源物の主な排出先（複数回答）

市の分別収集に出さない場合の主な排出先は、雑誌・雑がみ、ダンボール、古着では、「1．有価物回収」の回答が多くなった。新聞・チラシは「1．有価物回収」「3．新聞業者の回収」の回答が多くなった。また、牛乳パックは、「1．有価物回収」「2．スーパーなどの店頭回収」「4．その他」の回答が多くなっており、「4．その他」としては「出さない」や「可燃ごみとして出す」といった回答が多くみられた。ペットボトル、空カン・空ビンでは「4．その他」として「市の分別収集以外では出さない」といった回答が多くみられ、プラスチックトレイ類では「4．その他」として「可燃ごみとして出す」といった回答が多くみられた。

表 3-14　品目別の市の分別収集以外の資源物の主な排出先

選択肢		1.有価物回収	2.スーパーなどの店頭回収	3.新聞業者の回収	4.その他※	未回答	合計
新聞・チラシ	回答数	694	34	525	341	187	1,781
雑誌・雑がみ	回答数	1,110	54		296	299	1,759
ダンボール	回答数	1,217	51		210	273	1,751
牛乳パック	回答数	578	393		468	321	1,760
古着	回答数	1,105	30		346	280	1,761
ペットボトル	回答数		408		341	1,004	1,753
空カン・空ビン	回答数		294		370	1,082	1,746
プラスチックトレイ類	回答数		437		348	963	1,748

※「4．その他」の回答には、「（ごみとして）出ない、出さない」という記載が多くみられた。

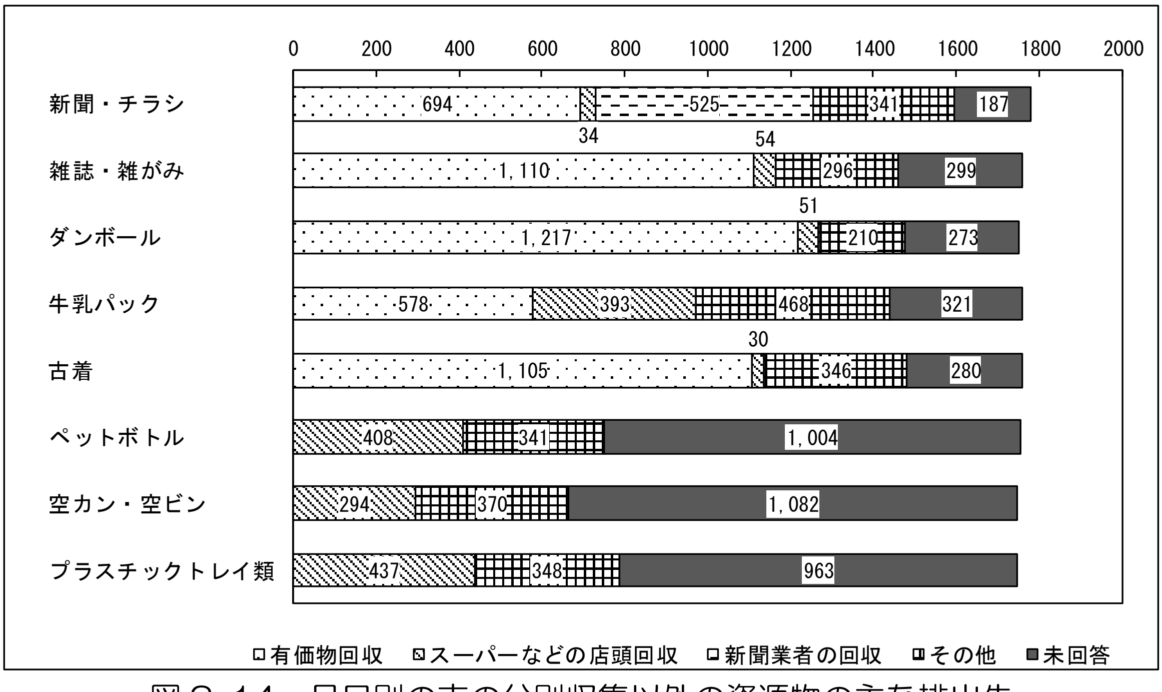


図 3-14　品目別の市の分別収集以外の資源物の主な排出先

問7 有価物の雑がみについて、あなたはどのように処理をしていますか。

（1）雑がみの分別状況

雑がみの分別について、「1．きちんと分別している」または「2．だいたい分別している」の割合は 60.8%、「3．あまり分別していない」または「4．分別していない」の割合は 36.9%であった。

表 3-15　雑がみの分別状況

選択肢	回答数	構成比
1.きちんと分別している	496	28.4%
2.だいたい分別している	566	32.4%
3.あまり分別していない	326	18.7%
4.分別していない	318	18.2%
未回答	39	2.2%
合計	1,745	100.0%

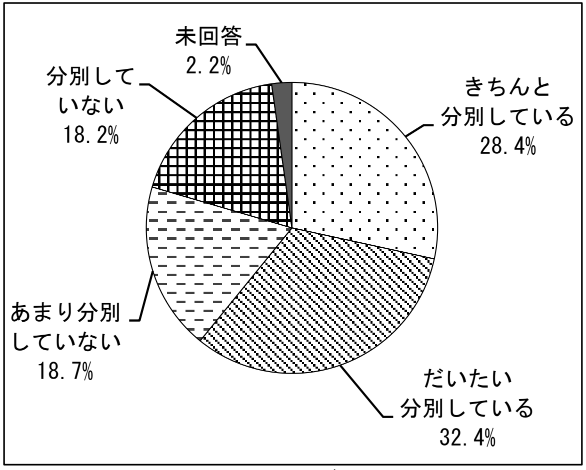


図 3-15　雑がみの分別状況

（2）雑がみとして分別している品目（複数回答）

問 7 の 1）で「1．きちんと分別している」または「2．だいたい分別している」と回答された方が分別している品目は、「②菓子や食品の箱」が最も多く 77.2%、次いで「①ティッシュ箱」が 70.1%であった。また、半数以上が分別している品目は、割合が大きい順に、「②菓子や食品の箱」「①ティッシュ箱」「④紙袋」「③カレンダー」「⑦包装紙や折り紙」「⑤ラップ・トイレットペーパーの芯」であった。

表 3-16　雑がみとして分別している品目

選択肢	回答数	回答割合
①ティッシュ箱（ビニール除く）	744	70.1%
②菓子や食品の箱	820	77.2%
③カレンダー（金具などは除く）	579	54.5%
④紙袋（持ち手が紙以外の場合は持ち手を除く）	637	60.0%
⑤ラップ・トイレットペーパーの芯	543	51.1%
⑥封筒・ハガキ	384	36.2%
⑦包装紙や折り紙	568	53.5%
⑧タグや名刺	190	17.9%
⑨プリント用紙	389	36.6%
⑩その他	44	4.1%
未回答	33	3.1%
合計	4,931	－
回答者数	1,062	－

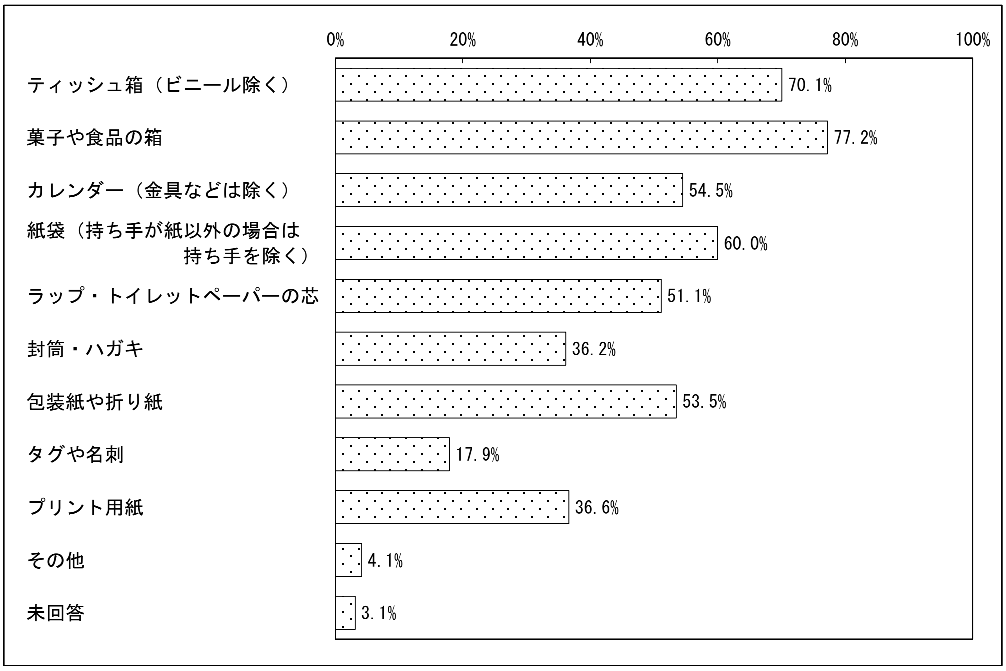


図 3-16　雑がみとして分別している品目

（3）雑がみの分別をしていない理由（複数回答）

問 7 の 1）で「3．あまり分別していない」または「4．分別していない」と回答された方が、雑がみを分別していない理由は、「②分別や排出方法が分からないから」が最も多く 43.8%、次いで「④少量であれば問題ないと思うから」が 27.0%、「①面倒だから」が 25.2%の順であった。

表 3-17　雑がみの分別をしていない理由

選択肢	回答数	回答割合
①面倒だから	162	25.2%
②分別や排出方法がわからないから	282	43.8%
③ごみの減量やリサイクルに関心がないから	15	2.3%
④少量であれば問題ないと思うから	174	27.0%
⑤その他	88	13.7%
未回答	10	1.6%
合計	731	―
回答者数	644	―

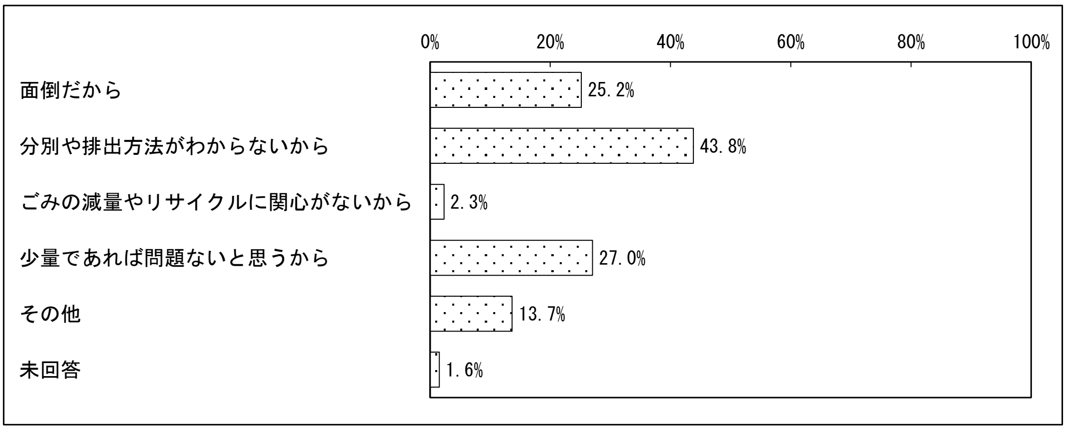


図 3-17　雑がみの分別をしていない理由

＜Ⅲ　ごみの減量化や処理に関する情報提供について＞

問8 市のごみに関する情報は何から得ていますか。

（1）ごみに関する情報の入手先（複数回答）

市のごみに関する情報の入手先は、「2．家庭ごみの出し方（ごみの出し方カレンダー）」が最も多く 74.2％であった。次いで「1．広報ふなばし」が 34.6％、「7．資源物とごみの分別ガイド」が 28.5％、「4．船橋市ホームページ」が 21.1％の順であった。

「8．スマートフォン向けごみ分別アプリ」は 4.0％と割合が小さくなった。これは、本アンケートの回答者が、一般的に ICT 等による新サービスの利用度が若年層と比較して低いと考えられる「70 代以上」の占める割合が大きいことも影響しているものと考えられる。なお、「10．その他」の回答としては、「家族」といった回答がみられた。

表 3-18　ごみに関する情報の入手先

選択肢	回答数	回答割合
1.広報ふなばし	603	34.6%
2.家庭ごみの出し方（ごみの出し方カレンダー）	1,294	74.2%
3.リサちゃんだより＋（プラス）	140	8.0%
4.船橋市ホームページ	369	21.1%
5.地区・地域での説明会	20	1.1%
6.市主催のイベント等	5	0.3%
7.資源物とごみの分別ガイド	497	28.5%
8.スマートフォン向けごみ分別アプリ「さんあ～る」	70	4.0%
9.地域の回覧板	113	6.5%
10.その他	40	2.3%
未回答	89	5.1%
合計	3,240	-
回答者数	1,745	-

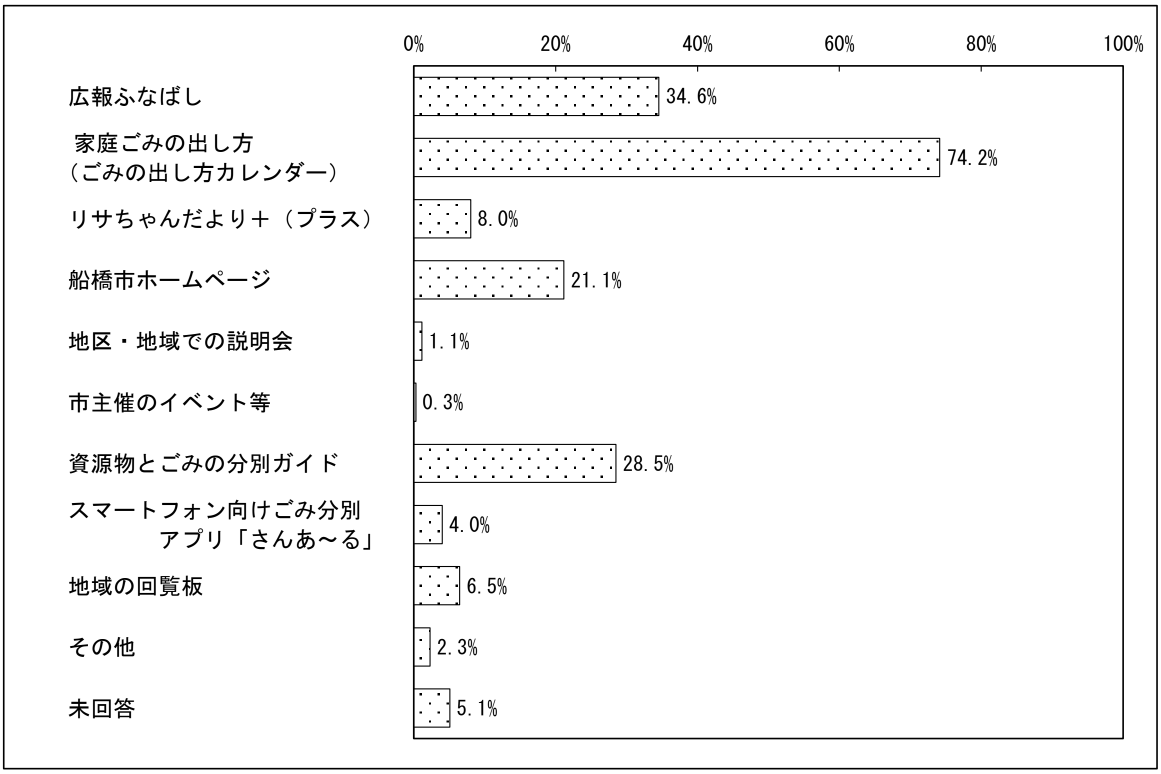


図 3-18　ごみに関する情報の入手先

【クロス集計】

市のごみに関する情報の入手先について、年代別に傾向をみると、「2. 家庭ごみの出し方（ごみの出し方カレンダー）」は、どの年代においても60%以上となった。「1. 広報ふなばし」は20代、30代では20%以下と小さく、年代が上がるにつれて大きくなる傾向がみられた。「7. 資源物とごみの分別ガイド」は30代以上の年代では20%以上となっているが、10代、20代では20%以下と小さくなった。「4. 船橋市ホームページ」は30代、40代は30%以上、10代、20代、50代は20%以上となっているが、60代以上は20%以下となった。

表 3-19　ごみに関する情報の入手先ー年代別

選択肢	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		未回答	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合
1. 広報ふなばし	7	23.3%	16	11.6%	26	13.5%	80	25.2%	97	32.2%	109	42.9%	263	52.2%	5	62.5%
2. 家庭ごみの出し方（ごみの出し方カレンダー）	20	66.7%	84	60.9%	124	64.6%	231	72.6%	250	83.1%	203	79.9%	375	74.4%	7	87.5%
3. リサちゃんだより＋（プラス）	3	10.0%	6	4.3%	8	4.2%	16	5.0%	29	9.6%	23	9.1%	55	10.9%	0	0.0%
4. 船橋市ホームページ	6	20.0%	39	28.3%	74	38.5%	111	34.9%	76	25.2%	31	12.2%	32	6.3%	0	0.0%
5. 地区・地域での説明会	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%	2	0.6%	3	1.0%	2	0.8%	11	2.2%	0	0.0%
6. 市主催のイベント等	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.8%	0	0.0%
7. 資源物とごみの分別ガイド	5	16.7%	19	13.8%	56	29.2%	73	23.0%	85	28.2%	96	37.8%	161	31.9%	2	25.0%
8. スマートフォン向けごみ分別アプリ「さんあ～る」	0	0.0%	6	4.3%	17	8.9%	15	4.7%	20	6.6%	7	2.8%	5	1.0%	0	0.0%
9. 地域の回覧板	1	3.3%	12	8.7%	7	3.6%	18	5.7%	12	4.0%	15	5.9%	48	9.5%	0	0.0%
10. その他	2	6.7%	6	4.3%	10	5.2%	2	0.6%	8	2.7%	7	2.8%	5	1.0%	0	0.0%
未回答	1	3.3%	7	5.1%	6	3.1%	13	4.1%	7	2.3%	10	3.9%	44	8.7%	1	12.5%
合計	45	―	197	―	328	―	562	―	587	―	503	―	1,003	―	15	―
回答者数	30	―	138	―	192	―	318	―	301	―	254	―	504	―	8	―

問9　ごみに関して、どのような情報が不足していると思いますか。また、その情報はどのように周知していくのが望ましいと思いますか。

（1）不足していると思う情報（複数回答）

ごみに関する情報で不足していると思われているのは、「1. ごみの分別排出方法」が最も多く30.1%、次いで「5. ごみ処理経費」が24.9%、「3. ごみの資源化方法」が24.4%の順であった。また、「7. その他」の回答としては、「外国人への情報の伝達」といった回答があった。

表3-20　不足していると思う情報

選択肢	回答数	回答割合
1. ごみの分別排出方法	525	30.1%
2. ごみ処理方法	397	22.8%
3. ごみの資源化方法	426	24.4%
4. 発生するごみ量	330	18.9%
5. ごみ処理経費	435	24.9%
6. ごみに関する問題点	382	21.9%
7. その他	101	5.8%
未回答	684	39.2%
合計	3,280	－
回答者数	1,745	－

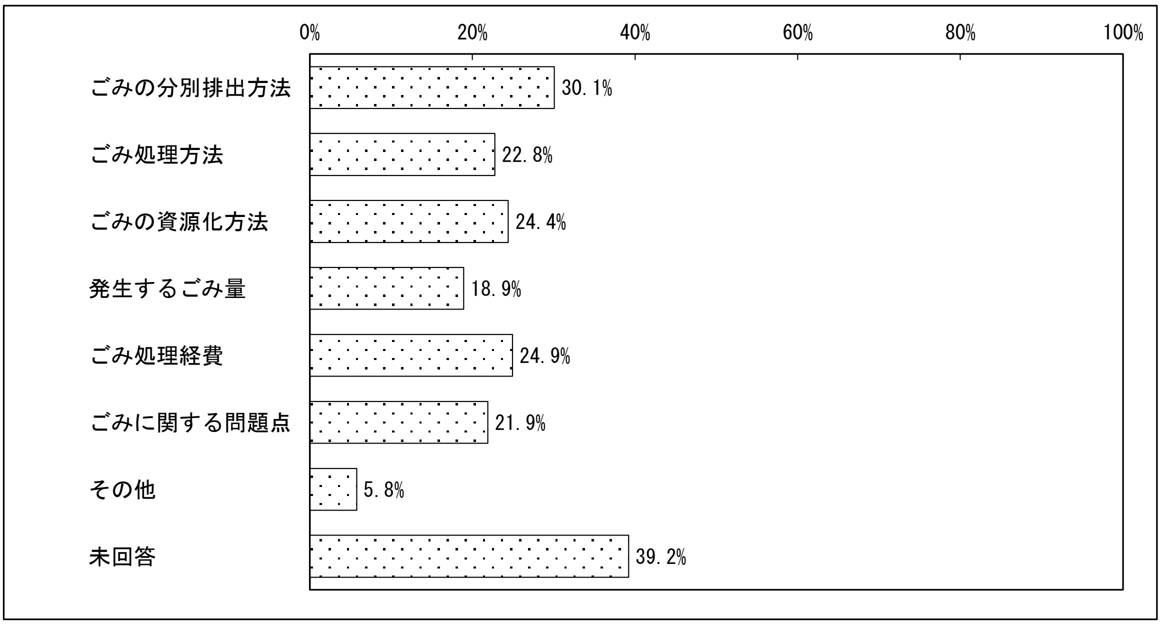


図3-19　不足していると思う情報

（2）望ましいと思う周知方法（３つまで）

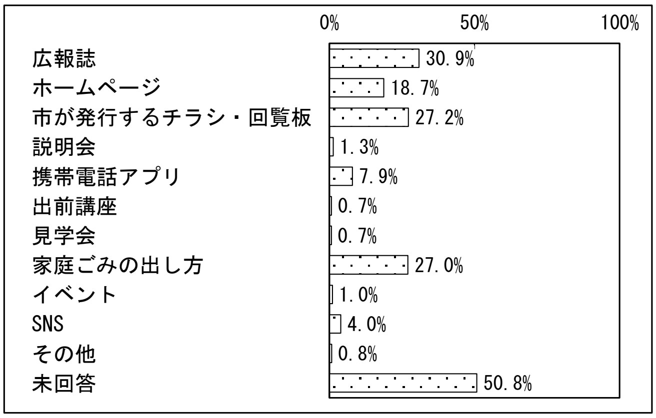
ごみに関する情報で望ましいと思う周知方法は、「1．広報誌」「2．ホームページ」「3．市が発行するチラシ・回覧板」「8．家庭ごみの出し方」の順に割合が大きくなった。

「5．携帯電話アプリ」は上記の 4 つの方法の次に割合が大きくなっているが「ごみに関する情報の入手先」（問 8）の質問では割合が小さかったことから、アプリの存在を知らない市民が一定数いることがうかがえる。また、「4．説明会」や「6．出前講座」、「7．見学会」についても、割合は小さかったが、行政と市民が対面し、ごみに関する情報をより詳しく周知するためには効果的と考えられる。

表 3-21　望ましいと思う周知方法

ごみの分別排出方法

選択肢	回答数	回答割合
1.広報誌	539	30.9%
2.ホームページ	327	18.7%
3.市が発行するチラシ・回覧板	475	27.2%
4.説明会	23	1.3%
5.携帯電話アプリ	138	7.9%
6.出前講座	13	0.7%
7.見学会	12	0.7%
8.家庭ごみの出し方	472	27.0%
9.イベント	18	1.0%
10.SNS	69	4.0%
11.その他	14	0.8%
未回答	886	50.8%
合計	2,986	−
回答者数	1,745	−



ごみ処理方法

選択肢	回答数	回答割合
1.広報誌	401	23.0%
2.ホームページ	270	15.5%
3.市が発行するチラシ・回覧板	372	21.3%
4.説明会	22	1.3%
5.携帯電話アプリ	106	6.1%
6.出前講座	10	0.6%
7.見学会	29	1.7%
8.家庭ごみの出し方	300	17.2%
9.イベント	18	1.0%
10.SNS	63	3.6%
11.その他	8	0.5%
未回答	1,082	62.0%
合計	2,681	−
回答者数	1,745	−

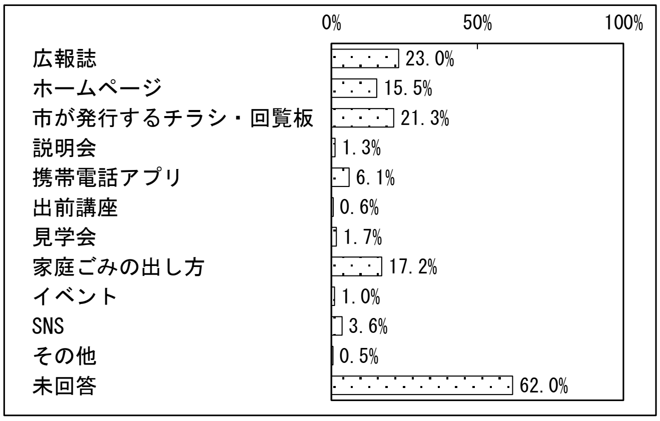
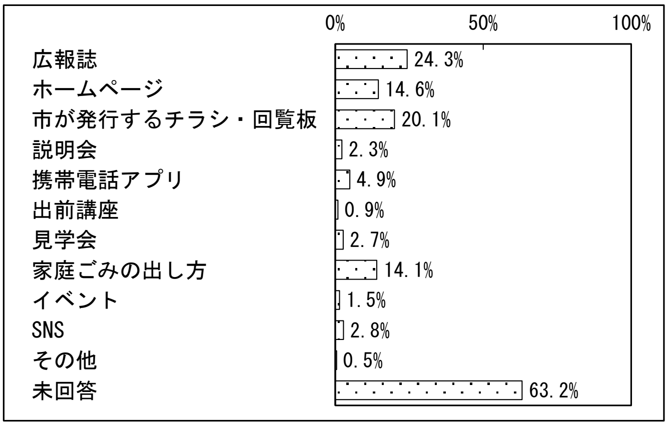


図 3-20　望ましいと思う周知方法

表 3-22　望ましいと思う周知方法

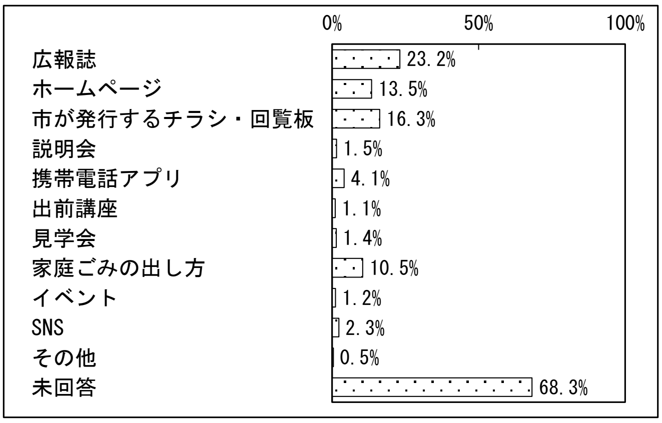
ごみの資源化方法

選択肢	回答数	回答割合
1.広報誌	424	24.3%
2.ホームページ	254	14.6%
3.市が発行するチラシ・回覧板	350	20.1%
4.説明会	40	2.3%
5.携帯電話アプリ	86	4.9%
6.出前講座	16	0.9%
7.見学会	47	2.7%
8.家庭ごみの出し方	246	14.1%
9.イベント	26	1.5%
10.SNS	49	2.8%
11.その他	8	0.5%
未回答	1,102	63.2%
合計	2,648	−
回答者数	1,745	−



発生するごみ量

選択肢	回答数	回答割合
1.広報誌	404	23.2%
2.ホームページ	236	13.5%
3.市が発行するチラシ・回覧板	284	16.3%
4.説明会	27	1.5%
5.携帯電話アプリ	72	4.1%
6.出前講座	19	1.1%
7.見学会	25	1.4%
8.家庭ごみの出し方	183	10.5%
9.イベント	21	1.2%
10.SNS	41	2.3%
11.その他	8	0.5%
未回答	1,191	68.3%
合計	2,511	−
回答者数	1,745	−



ごみ処理経費

選択肢	回答数	回答割合
1.広報誌	467	26.8%
2.ホームページ	280	16.0%
3.市が発行するチラシ・回覧板	336	19.3%
4.説明会	44	2.5%
5.携帯電話アプリ	75	4.3%
6.出前講座	20	1.1%
7.見学会	19	1.1%
8.家庭ごみの出し方	185	10.6%
9.イベント	26	1.5%
10.SNS	48	2.8%
11.その他	10	0.6%
未回答	1,118	64.1%
合計	2,628	−
回答者数	1,745	−

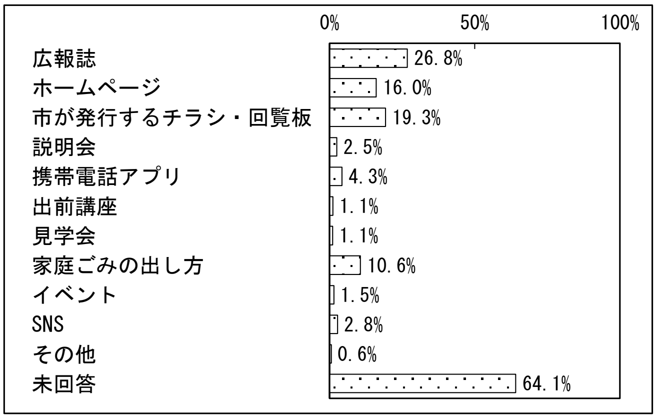
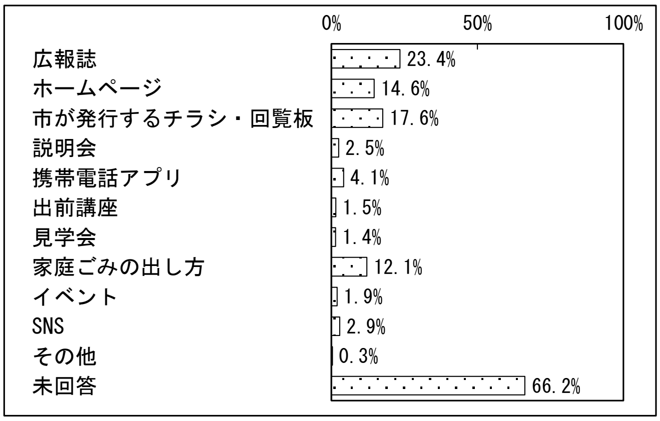


図 3-21　望ましいと思う周知方法

表 3-23　望ましいと思う周知方法

ごみに関する問題点

選択肢	回答数	回答割合
1.広報誌	409	23.4%
2.ホームページ	255	14.6%
3.市が発行するチラシ・回覧板	307	17.6%
4.説明会	43	2.5%
5.携帯電話アプリ	72	4.1%
6.出前講座	26	1.5%
7.見学会	25	1.4%
8.家庭ごみの出し方	211	12.1%
9.イベント	33	1.9%
10.SNS	50	2.9%
11.その他	6	0.3%
未回答	1,156	66.2%
合計	2,593	－
回答者数	1,745	－



その他

選択肢	回答数	回答割合
1.広報誌	20	1.1%
2.ホームページ	21	1.2%
3.市が発行するチラシ・回覧板	21	1.2%
4.説明会	5	0.3%
5.携帯電話アプリ	3	0.2%
6.出前講座	3	0.2%
7.見学会	1	0.1%
8.家庭ごみの出し方	16	0.9%
9.イベント	3	0.2%
10.SNS	5	0.3%
11.その他	4	0.2%
未回答	1,703	97.6%
合計	1,805	－
回答者数	1,745	－

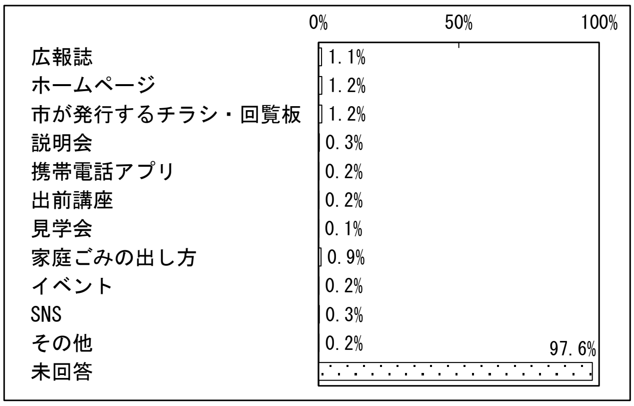


図 3-22　望ましいと思う周知方法

＜Ⅳ　家庭から出る可燃ごみの有料化について＞

問10 「家庭から出る可燃ごみの有料化」は各家庭の可燃ごみ排出量に応じてごみ処理手数料を負担していただくという家庭の可燃ごみ減量の努力が負担額に反映される制度です。「家庭から出る可燃ごみの有料化」について、あなたの考えをお答えください。

（1）家庭から出る可燃ごみの有料化への意向

家庭から出る可燃ごみの有料化への意向についてみると、「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」の割合が 42.2%、「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというと実施すべきではない」の割合が 44.3%であり、ほぼ同程度の割合となった。

表 3-24　家庭から出る可燃ごみの有料化への意向

選択肢	回答数	構成比
1.実施すべき	308	17.7%
2.どちらかというと実施すべき	427	24.5%
3.実施すべきではない	415	23.8%
4.どちらかというと実施すべきではない	358	20.5%
5.わからない	178	10.2%
未回答	59	3.4%
合計	1,745	100.0%

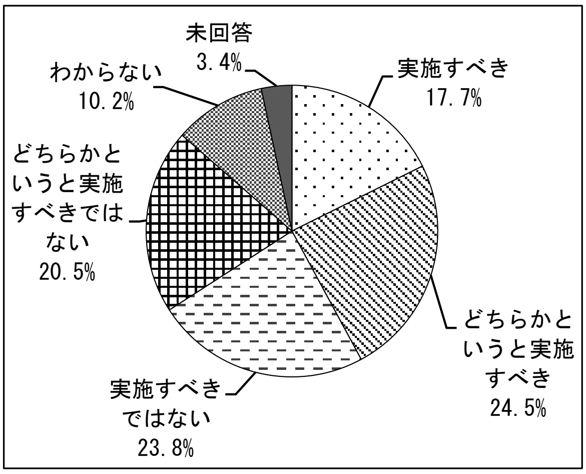


図 3-23　家庭から出る可燃ごみの有料化への意向

【クロス集計】

家庭から出る可燃ごみの有料化への意向について、年代別に傾向をみると、「1．実施すべき」または「2．どちらかというと実施すべき」の割合が最も高いのは40代、最も低いのは20代となった。「3．実施すべきではない」または「4．どちらかというと実施すべきではない」の割合が最も高いのは20代、最も低いのは70代となった。

表3-25　家庭から出る可燃ごみの有料化への意向－年代別

選択肢	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上		未回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1.実施すべき	4	13.3%	14	10.1%	31	16.1%	57	17.9%	60	19.9%	39	15.4%	102	20.2%	1	12.5%
2.どちらかというと実施すべき	9	30.0%	28	20.3%	44	22.9%	98	30.8%	67	22.3%	64	25.2%	113	22.4%	4	50.0%
3.実施すべきではない	7	23.3%	41	29.7%	53	27.6%	65	20.4%	83	27.6%	66	26.0%	100	19.8%	0	0.0%
4.どちらかというと実施すべきではない	4	13.3%	31	22.5%	36	18.8%	61	19.2%	71	23.6%	55	21.7%	99	19.6%	1	12.5%
5.わからない	4	13.3%	23	16.7%	23	12.0%	33	10.4%	13	4.3%	24	9.4%	57	11.3%	1	12.5%
未回答	2	6.7%	1	0.7%	5	2.6%	4	1.3%	7	2.3%	6	2.4%	33	6.5%	1	12.5%
合計	30	100.0%	138	100.0%	192	100.0%	318	100.0%	301	100.0%	254	100.0%	504	100.0%	8	100.0%

問11 問 10 で「1．実施すべき」「2．どちらかというと実施すべき」と回答された主な理由をお答えください。

（1）家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべき理由

問 10 で「1．実施すべき」または「2．どちらかというと実施すべき」と回答された方の、主な回答理由は、「2．可燃ごみの減量・資源化が進むことを期待するから」が最も多く 42.7%、次いで「1．家庭での可燃ごみ減量の努力が負担額に反映し、公平化が図られるから」が 35.6%であった。

表 3-26　家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべき理由

選択肢	回答数	構成比
1.家庭での可燃ごみ減量の努力が負担額に反映し、公平化が図られるから	262	35.6%
2.可燃ごみの減量・資源化が進むことを期待するから	314	42.7%
3.新たなサービスの充実を期待するから	35	4.8%
4.市の財政負担を軽減するから	63	8.6%
5.その他	11	1.5%
未回答	50	6.8%
合計	735	100.0%

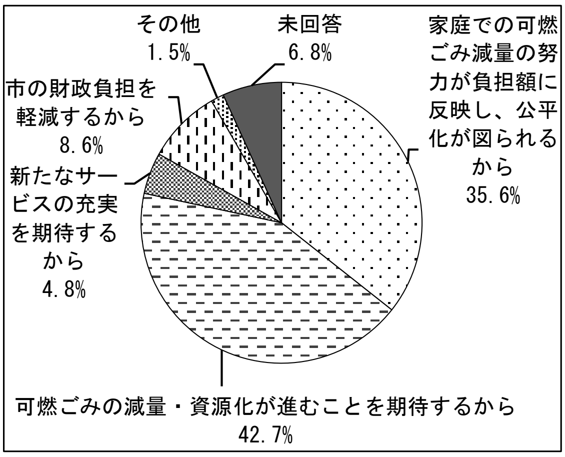


図 3-24　家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべき理由

問12 問10で「3. 実施すべきではない」「4. どちらかというと実施すべきではない」と回答された主な理由をお答えください。

（1）家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべきではない理由

問 10 で「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというと実施すべきではない」と回答された方の主な回答理由は、「1. 家計の経済的負担が増えるから」が最も多く 29.0%、次いで「2. 不法投棄が増えそうだから」が 28.1%、「3. ごみ処理費用は、税金の中から支出するべきだから」が 18.9%であった。

表 3-27　家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべきではない理由

選択肢	回答数	構成比
1. 家計の経済的負担が増えるから	224	29.0%
2. 不法投棄が増えそうだから	217	28.1%
3. ごみ処理費用は、税金の中から支出するべきだから	146	18.9%
4. 可燃ごみの減量・資源化につながらないから	36	4.7%
5. その他	40	5.2%
未回答	109	14.1%
合計	772	100.0%

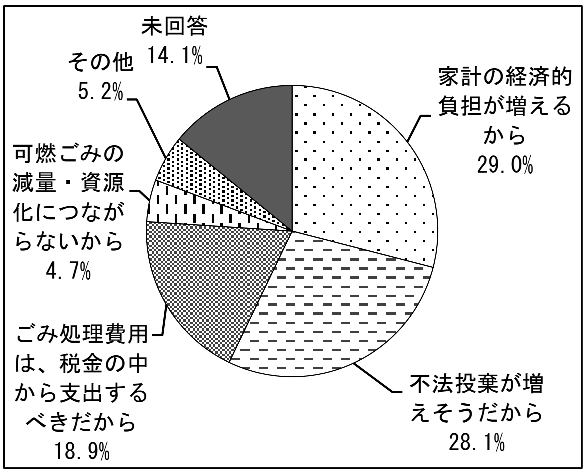


図 3-25　家庭から出る可燃ごみの有料化を実施すべきではない理由

＜Ⅴ　プラスチック製容器包装の分別収集について＞

問13 「プラスチック製容器包装の分別収集」について、あなたの考え方として該当するものをお答えください。

（1）プラスチック製容器包装の分別収集への意向

プラスチック製容器包装の分別収集への意向についてみると、「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」の割合が 48.9%、「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというと実施すべきではない」の割合が 33.7%であった。「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」の割合の方が大きくなった。

表 3-28　プラスチック製容器包装の分別収集への意向

選択肢	回答数	構成比
1.実施すべき	420	24.1%
2.どちらかというと実施すべき	432	24.8%
3.実施すべきではない	253	14.5%
4.どちらかというと実施すべきではない	335	19.2%
5.わからない	193	11.1%
未回答	112	6.4%
合計	1,745	100.0%

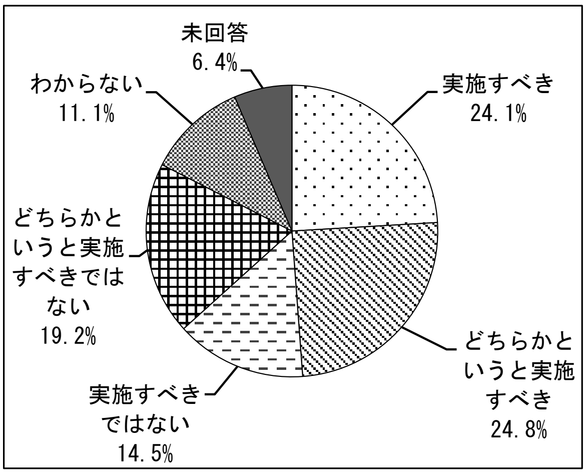


図 3-26　プラスチック製容器包装の分別収集への意向

【クロス集計】
プラスチック製容器包装の分別収集への意向について、地域別の傾向をみると、すべての地域で「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」のどちらかの割合が最も大きくなっている。また、以降は「4. どちらかというと実施すべきではない」、「3. 実施すべきではない」、「5. わからない」の順となっており、地域による明確な差はみられなかった。

表 3-29　プラスチック製容器包装の分別収集への意向－地域別

選択肢	南部		西部		中部		東部		北部		未回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1.実施すべき	80	26.3%	95	22.4%	63	27.9%	102	21.6%	76	25.4%	4	21.1%
2.どちらかというと実施すべき	69	22.7%	104	24.5%	56	24.8%	128	27.1%	71	23.7%	4	21.1%
3.実施すべきではない	45	14.8%	62	14.6%	33	14.6%	71	15.0%	39	13.0%	3	15.8%
4.どちらかというと実施すべきではない	64	21.1%	88	20.8%	42	18.6%	88	18.6%	49	16.4%	4	21.1%
5.わからない	32	10.5%	46	10.8%	22	9.7%	53	11.2%	37	12.4%	3	15.8%
未回答	14	4.6%	29	6.8%	10	4.4%	31	6.6%	27	9.0%	1	5.3%
合計	304	100.0%	424	100.0%	226	100.0%	473	100.0%	299	100.0%	19	100.0%

問14 問13で「1. 実施すべき」「2. どちらかというと実施すべき」と回答された主な理由をお答えください。

（1）プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由
問13で「1. 実施すべき」または「2. どちらかというと実施すべき」と回答された方の、プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由としての回答は、「1. 二酸化炭素の排出量が削減されるから」が最も多く45.0%、次いで「4. 資源化可能なものは全て資源化すべきだから」が30.7%、「5. ごみ減量につながるから」が14.8%であった。

表 3-30　プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由

選択肢	回答数	構成比
1.二酸化炭素の排出量が削減されるから	341	45.0%
2.天然資源の使用が抑制されるから	40	5.3%
3.多くの自治体が実施しているから	28	3.7%
4.資源化可能なものは全て資源化すべきだから	233	30.7%
5.ごみ減量につながるから	112	14.8%
6.その他	4	0.5%
未回答	0	0.0%
合計	758	100.0%

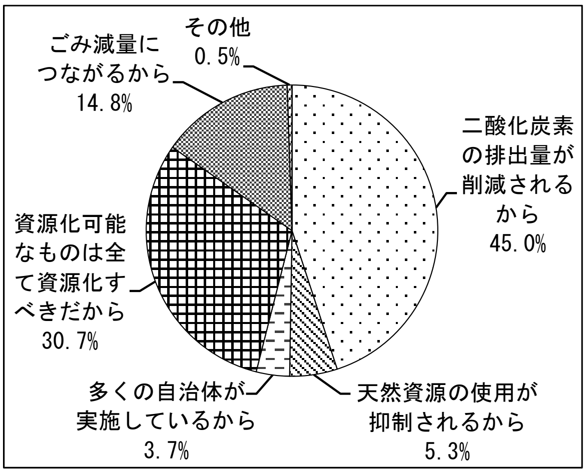


図 3-27　プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべき理由

問15 問 13 で「3. 実施すべきではない」「4. どちらかというと実施すべきではない」と回答された主な理由をお答えください。

（1）プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由

問 13 で「3. 実施すべきではない」または「4. どちらかというと実施すべきではない」と回答された方の、プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由の回答は、「6.焼却してエネルギー回収・利用した方が良いから」が最も多く 21.4%、次いで「4. 家庭内で分別区分が多すぎて対応できないから」が 18.4%、「2. 分別が何かわかりにくいから」が 12.2%であった。

表 3-31　プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由

選択肢	回答数	構成比
1.排出ルールが面倒そうだから	57	9.7%
2.分別が何かわかりにくいから	72	12.2%
3.家庭内に保管するスペースがないから	39	6.6%
4.家庭内で分別区分が多すぎて対応できないから	108	18.4%
5.プラスチックに資源化される率が低いから	53	9.0%
6.焼却してエネルギー回収・利用した方が良いから	126	21.4%
7.収集運搬費等のコストがかかるから	33	5.6%
8.その他	22	3.7%
未回答	78	13.3%
合計	588	100.0%

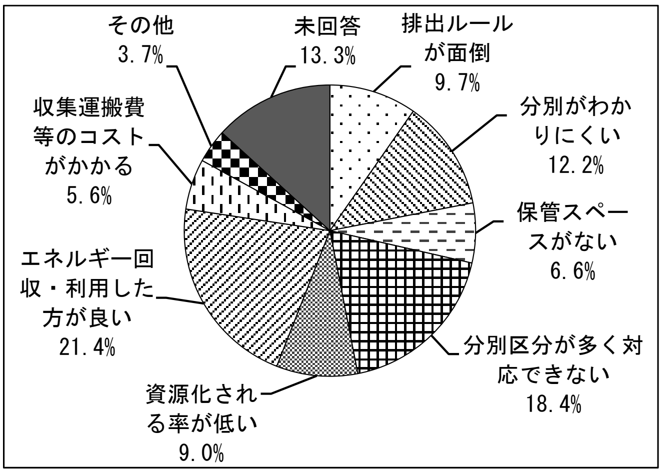


図 3-28　プラスチック製容器包装の分別収集を実施すべきではない理由

＜Ⅵ　食品ロスの削減について＞

問16 「食品ロス」という言葉とその意味をご存知でしたか。

（1）食品ロスの認知状況

食品ロスに関して、「1．言葉も意味も知っていた」の割合が 84.9%、「2．言葉は知っていたが、意味は知らなかった」の割合が 7.4%、「3．（言葉も意味も）知らなかった」の割合が 2.5%と、食品ロスに対する認知度は高いことがうかがえる。

表 3-32　食品ロスの認知状況

選択肢	回答数	構成比
1.言葉も意味も知っていた	1,481	84.9%
2.言葉は知っていたが、意味は知らなかった	129	7.4%
3.知らなかった	43	2.5%
未回答	92	5.3%
合計	1,745	100.0%

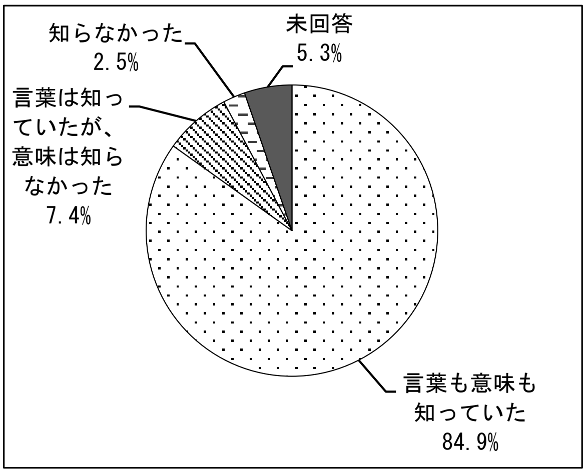


図 3-29　食品ロスの認知状況

問17 「食品ロス」の削減のために家庭で取り組んでいることはありますか。

（1）食品ロス削減のための家庭での取組（複数回答）

食品ロスを削減するための家庭での取組は、「7．残さずに食べるようにしている」が最も多く 64.2%、次いで「1．買い物前には、冷蔵庫の中身などを確認してから買い物に行く」が 63.4%、「2．調理するときには、食べきれる量だけ作る」が 51.6%、「6．賞味期限や消費期限をこまめに確認している」が 50.6%であった。

一方、「8.余った食品や食べきれない食品はフードバンク等に提供している」は 1.3%に留まっており、各家庭での食品ロス削減の取組としては浸透していないことがうかがえる。

「9．その他」の回答としては、「賞味期限が近づいた食品で作れるメニューを考える」、「賞味期限が過ぎても気にせず食べる」、「翌日の弁当や食卓に出す」、「少し別の物に調理して食べる」、「食べきれない食品は庭の草花の肥料にしている」といった回答があった。

表 3-33　食品ロス削減のための家庭での取組

選択肢	回答数	回答割合
1.買い物前には、冷蔵庫の中身などを確認してから買い物に行く	1,106	63.4%
2.調理するときには、食べきれる量だけ作る	901	51.6%
3.皮や脂など、必要以上に取り除かないように注意し、食材を無駄なく使うようにしている	326	18.7%
4.ばら売りや、量り売り、少量パック等を必要に応じて利用している	559	32.0%
5.冷蔵庫の機能（チルド室やパーシャル室等）をうまく使い分け、保存方法を工夫している	750	43.0%
6.賞味期限や消費期限をこまめに確認している	883	50.6%
7.残さずに食べるようにしている	1,120	64.2%
8.余った食品や食べきれない食品はフードバンク等に提供している	23	1.3%
9.その他	55	3.2%
未回答	89	5.1%
合計	5,812	－
回答者数	1,745	－

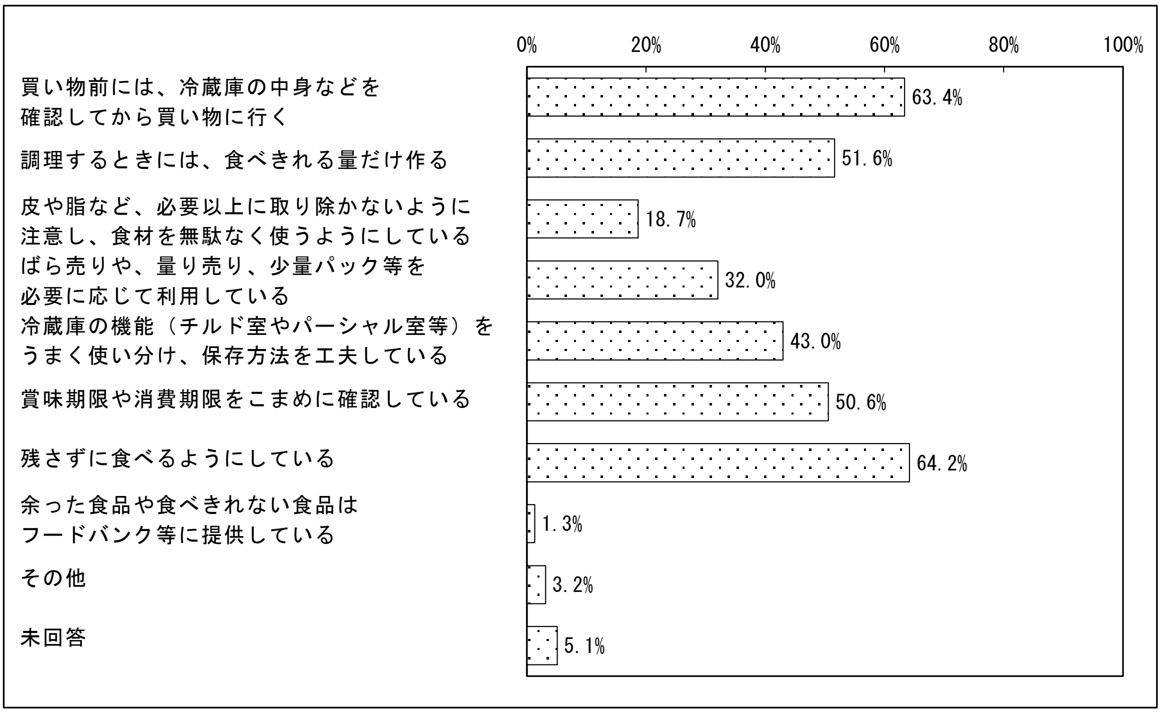


図 3-30　食品ロス削減のための家庭での取組

問18 「食品ロス」の削減のために外食時に取り組んでいることはありますか。

（1）食品ロス削減のための外食時での取組（複数回答）

食品ロスを削減するための外食時での取組は、「1．小盛のメニューなどを活用し、食べきれる量を頼んでいる」が最も多く 69.7%、次いで「3．持ち帰りができる場合には、積極的に利用している」が 33.1%、「2．宴会時等の最初は、まず料理を食べるなど、食べ残しを減らすよう意識している」が 13.9%であった。「4．その他」としては、「全部食べきる」や「外食しない」といった回答があった。

表 3-34 食品ロス削減のための外食時での取組

選択肢	回答数	回答割合
1. 小盛のメニューなどを活用し、食べきれる量を頼んでいる	1,216	69.7%
2. 宴会時等の最初は、まず料理を食べるなど、食べ残しを減らすよう意識している（3010運動）	243	13.9%
3. 持ち帰りができる場合には、積極的に利用している	577	33.1%
4. その他	127	7.3%
未回答	170	9.7%
合計	2,333	－
回答者数	1,745	－

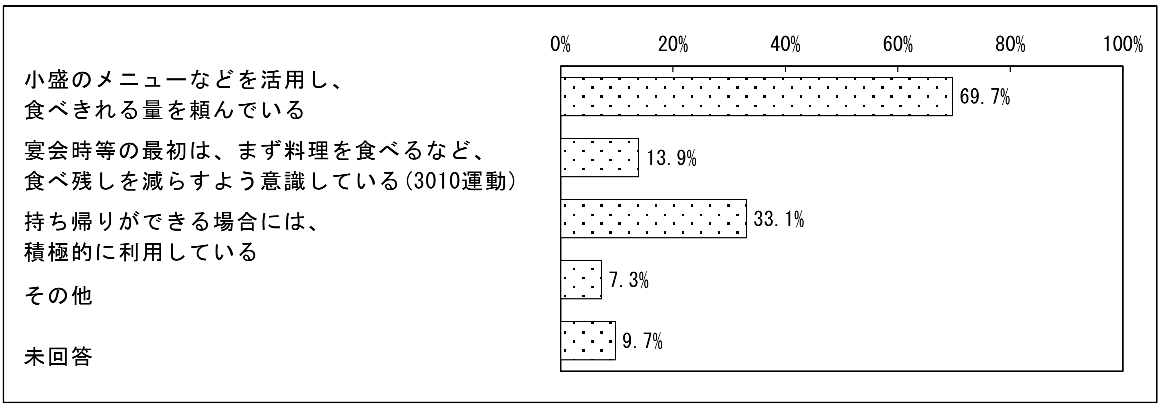


図 3-31 食品ロス削減のための外食時での取組

＜Ⅶ　ごみ問題への関心について＞

問19 市が現在行っている取組の中で、知っているものを挙げてください。

（1）市が実施している取組の認知状況（複数回答）

市が実施しているごみに関する取組の認知状況について、「11．クリーン船橋 530 の日」が最も多く 43.1％、次いで「5．マイバッグ運動」が 38.2％、「12．船橋をきれいにする日」が 29.7％、「7．清掃工場見学」が 29.5％であった。また、「13．全て知らない」は、18.5％であった。

表 3-35　市が実施している取組の認知状況

選択肢	回答数	回答割合
1.夏休み親子見学会	109	6.2%
2.ふなR連携事業者認定制度	9	0.5%
3.ふれあい収集	46	2.6%
4.3010運動	54	3.1%
5.マイバッグ運動	667	38.2%
6.フードドライブ	38	2.2%
7.清掃工場見学	515	29.5%
8.小型家電のボックスによる回収	415	23.8%
9.クリーン船橋530推進員	205	11.7%
10.生ごみ処理容器購入費助成制度	220	12.6%
11.クリーン船橋530の日	752	43.1%
12.船橋をきれいにする日	518	29.7%
13.全て知らない	322	18.5%
未回答	147	8.4%
合計	4,017	－
回答者数	1,745	－

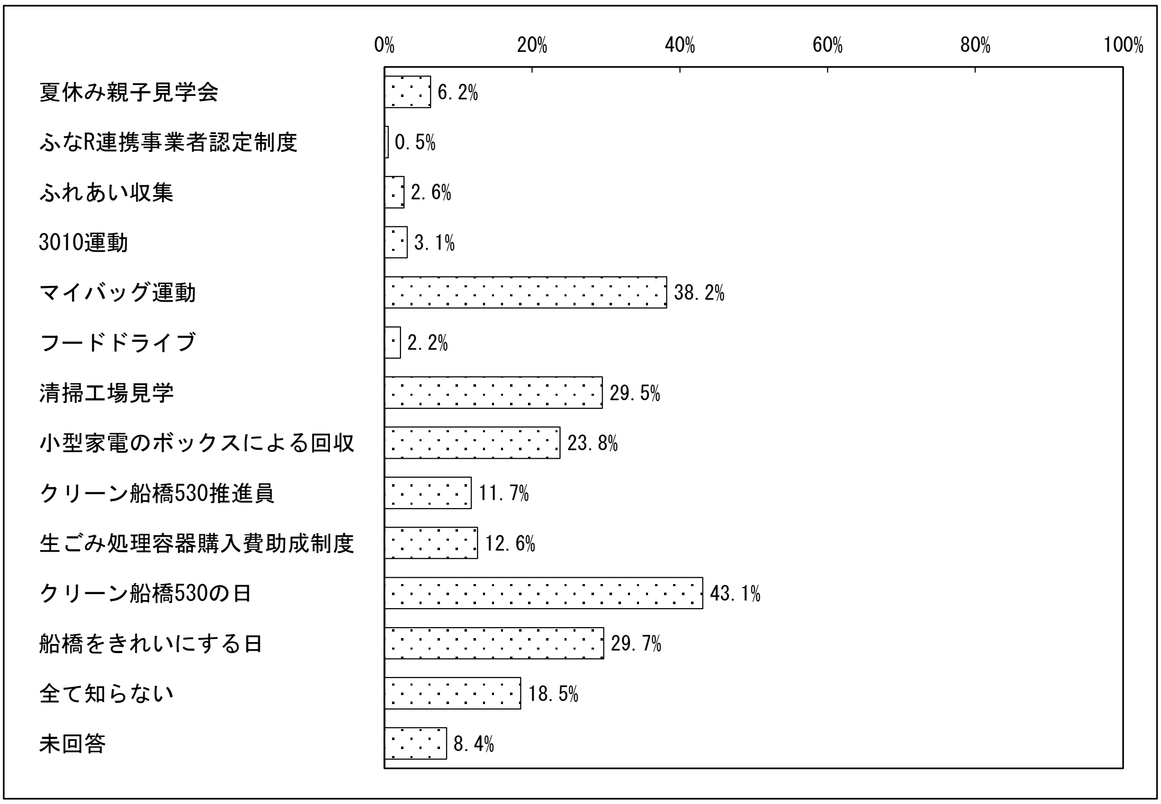


図 3-32　市が実施している取組の認知状況

【クロス集計】

市が実施しているごみに関する各取組の認知状況について、年代別に傾向をみると、「5. マイバッグ運動」はどの年代においても 20%以上であった。「11. クリーン船橋 530 の日」はどの年代においても一定の割合を占めていたが、「20 代」では 18.8%とやや小さくなった。「7. 清掃工場見学」はどの年代においても一定の割合を占めていたが、「20 代」「30 代」ではやや小さくなった。

また、「13. 全て知らない」は若い年代で多く、「10 代」で 26.7%、「20 代」で 46.4%、「30 代」で 36.5%であった。

表 3-36　市が実施している取組の認知状況ー年代別

選択肢	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代以上	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合
1.夏休み親子見学会	0	0.0%	2	1.4%	6	3.1%	10	3.1%	16	5.3%	32	12.6%	42	8.3%
2.ふなR連携事業者認定制度	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	4	1.3%	2	0.7%	1	0.4%	1	0.2%
3.ふれあい収集	0	0.0%	1	0.7%	5	2.6%	4	1.3%	12	4.0%	13	5.1%	11	2.2%
4.3010運動	3	10.0%	2	1.4%	3	1.6%	11	3.5%	6	2.0%	9	3.5%	20	4.0%
5.マイバッグ運動	10	33.3%	36	26.1%	51	26.6%	77	24.2%	96	31.9%	116	45.7%	278	55.2%
6.フードドライブ	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	6	1.9%	8	2.7%	10	3.9%	12	2.4%
7.清掃工場見学	8	26.7%	21	15.2%	29	15.1%	96	30.2%	84	27.9%	89	35.0%	186	36.9%
8.小型家電のボックスによる回収	4	13.3%	14	10.1%	34	17.7%	70	22.0%	83	27.6%	80	31.5%	128	25.4%
9.クリーン船橋530推進員	2	6.7%	6	4.3%	14	7.3%	38	11.9%	42	14.0%	37	14.6%	66	13.1%
10.生ごみ処理容器購入費助成制度	2	6.7%	5	3.6%	12	6.3%	33	10.4%	50	16.6%	38	15.0%	78	15.5%
11.クリーン船橋530の日	9	30.0%	26	18.8%	49	25.5%	145	45.6%	160	53.2%	133	52.4%	228	45.2%
12.船橋をきれいにする日	4	13.3%	11	8.0%	29	15.1%	82	25.8%	94	31.2%	87	34.3%	209	41.5%
13.全て知らない	8	26.7%	64	46.4%	70	36.5%	75	23.6%	46	15.3%	27	10.6%	31	6.2%
未回答	2	6.7%	10	7.2%	21	10.9%	16	5.0%	12	4.0%	15	5.9%	69	13.7%
合計	52	―	198	―	326	―	667	―	711	―	687	―	1,359	―
回答者数	30	―	138	―	192	―	318	―	301	―	254	―	504	―

問20 ごみに関して、お困りのことをお答えください。
（1）ごみに関する困りごと（複数回答）
ごみに関する困りごとは、「3．カラス・猫などによりごみが荒らされる」が最も多く23.0%、次いで「4．ごみ出しの時間・分別を守らない人がいる」が19.8%、「2．分別の仕方がわかりづらい」が12.6%であった。また、「8．特になし」と回答された方は29.1%であった。「9．その他」の回答としては、「不法投棄」や「ごみステーションが遠い」といった回答があった。

表 3-37 ごみに関する困りごと

選択肢	回答数	回答割合
1.ごみ出しの時間帯が合わない	107	6.1%
2.分別の仕方がわかりづらい	219	12.6%
3.カラス・猫などによりごみが荒らされる	401	23.0%
4.ごみ出しの時間・分別を守らない人がいる	346	19.8%
5.資源を持ち去る人がいる	181	10.4%
6.ペットボトル等の収集用袋の管理の当番制	65	3.7%
7.夜間収集による騒音	18	1.0%
8.特になし	508	29.1%
9.その他	159	9.1%
未回答	241	13.8%
合計	2,245	－
回答者数	1,745	－

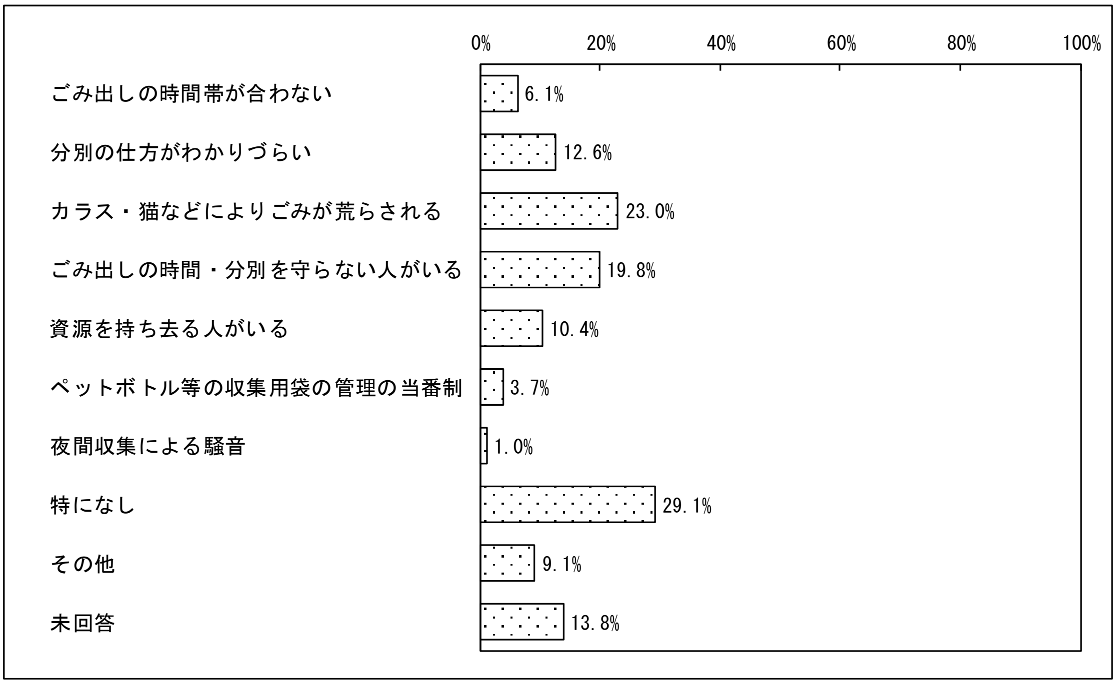


図 3-33 ごみに関する困りごと

【クロス集計】

ごみに関する困りごとについて、居住地域別に傾向をみると、「3．カラス・猫などによりごみが荒らされる」は「東部」「北部」で25％以上と高かった。また、「4．ごみ出しの時間・分別を守らない人がいる」は、「北部」が若干少ないものの、地域による大きな差異はみられなかった。

なお、「8．特になし」は「北部」で最も低く24.1％、「南部」で最も高く35.2％となった。

表3-38　ごみに関する困りごと－居住地域別

選択肢	南部		西部		中部		東部		北部		未回答	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合	回答数	回答割合
1.ごみ出しの時間帯が合わない	19	6.3%	24	5.7%	15	6.6%	27	5.7%	19	6.4%	3	15.8%
2.分別の仕方がわかりづらい	41	13.5%	59	13.9%	22	9.7%	70	14.8%	25	8.4%	2	10.5%
3.カラス・猫などによりごみが荒らされる	57	18.8%	77	18.2%	42	18.6%	119	25.2%	103	34.4%	3	15.8%
4.ごみ出しの時間・分別を守らない人がいる	68	22.4%	85	20.0%	47	20.8%	91	19.2%	49	16.4%	6	31.6%
5.資源を持ち去る人がいる	28	9.2%	50	11.8%	25	11.1%	49	10.4%	27	9.0%	2	10.5%
6.ペットボトル等の収集用袋の管理の当番制	6	2.0%	14	3.3%	10	4.4%	17	3.6%	17	5.7%	1	5.3%
7.夜間収集による騒音	9	3.0%	6	1.4%	0	0.0%	3	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
8.特になし	107	35.2%	127	30.0%	74	32.7%	122	25.8%	72	24.1%	6	31.6%
9.その他	28	9.2%	38	9.0%	22	9.7%	43	9.1%	27	9.0%	1	5.3%
未回答	20	6.6%	63	14.9%	30	13.3%	77	16.3%	49	16.4%	2	10.5%
合計	383	－	543	－	287	－	618	－	388	－	26	－
回答者数	304	－	424	－	226	－	473	－	299	－	19	－

＜Ⅷ　現在と今後の取組について＞

問21 それぞれの取組について、「現在実施している」、「今後実施予定」かを記入してください。

（1）現在実施している取組及び今後実施予定の取り組み（複数回答）

現在実施している取組に関しては、「4．シャンプーなどの製品は、詰め替え商品を購入するよう心がけている」が最も多く 86.9%、次いで「3．買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」が 86.7%、「1．不要なものや無駄なものは、なるべく買わないようにしている」が 79.8%であった。また、「15．特に何もしていない」と回答された方は 0.5%と割合は小さく、多くの市民が日常的にごみの減量化や資源化に取り組んでいることがうかがえる。

今後実施予定の取組に関しては、「3．買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」が最も多く 90.1%、次いで「4．シャンプーなどの製品は、詰め替え商品を購入するよう心がけている」が 89.2%、「1．不要なものや無駄なものは、なるべく買わないようにしている」が 87.5%であった。「7．エコマーク商品などの環境にやさしいものを選ぶようにしている」は、「現在実施している」が 16.1%だが、「今後実施予定」は 52.4%と大きく増加している。

表 3-39　現在実施している取組及び今後実施予定の取組

選択肢	現在		今後	
	回答数	回答割合	回答数	回答割合
1.不要なものや無駄なものは、なるべく買わないようにしている	1,393	79.8%	1,527	87.5%
2.過剰包装は断るようにしている	1,084	62.1%	1,326	76.0%
3.買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている	1,513	86.7%	1,573	90.1%
4.シャンプーなどの製品は、詰め替え商品を購入するよう心がけている	1,517	86.9%	1,557	89.2%
5.食べ残しをしない、食べ残しを減らすため、調理に工夫をするようにしている	1,274	73.0%	1,426	81.7%
6.生ごみ水切りや堆肥化など、生ごみの減量化に心がけている	702	40.2%	1,111	63.7%
7.「エコマーク」商品などの環境にやさしいものを選ぶようにしている	281	16.1%	914	52.4%
8.マイ箸、マイボトルなどを持ち歩くようにしている	606	34.7%	1,067	61.1%
9.ものが壊れた時は、なるべく修理してもう一度使うようにしている	704	40.3%	1,068	61.2%
10.フリーマーケットを活用している	164	9.4%	622	35.6%
11.リサイクルショップを活用している	421	24.1%	797	45.7%
12.ごみと資源物の分別を徹底している	879	50.4%	1,217	69.7%
13.食品を余らせないように、毎日の献立を考えながら買い物をしている	1,103	63.2%	1,294	74.2%
14.その他	33	1.9%	41	2.3%
15.特に何もしていない	8	0.5%	11	0.6%
未回答	110	6.3%	549	31.5%
合計	11,792	－	16,100	－
回答者数	1,745	－	1,745	－

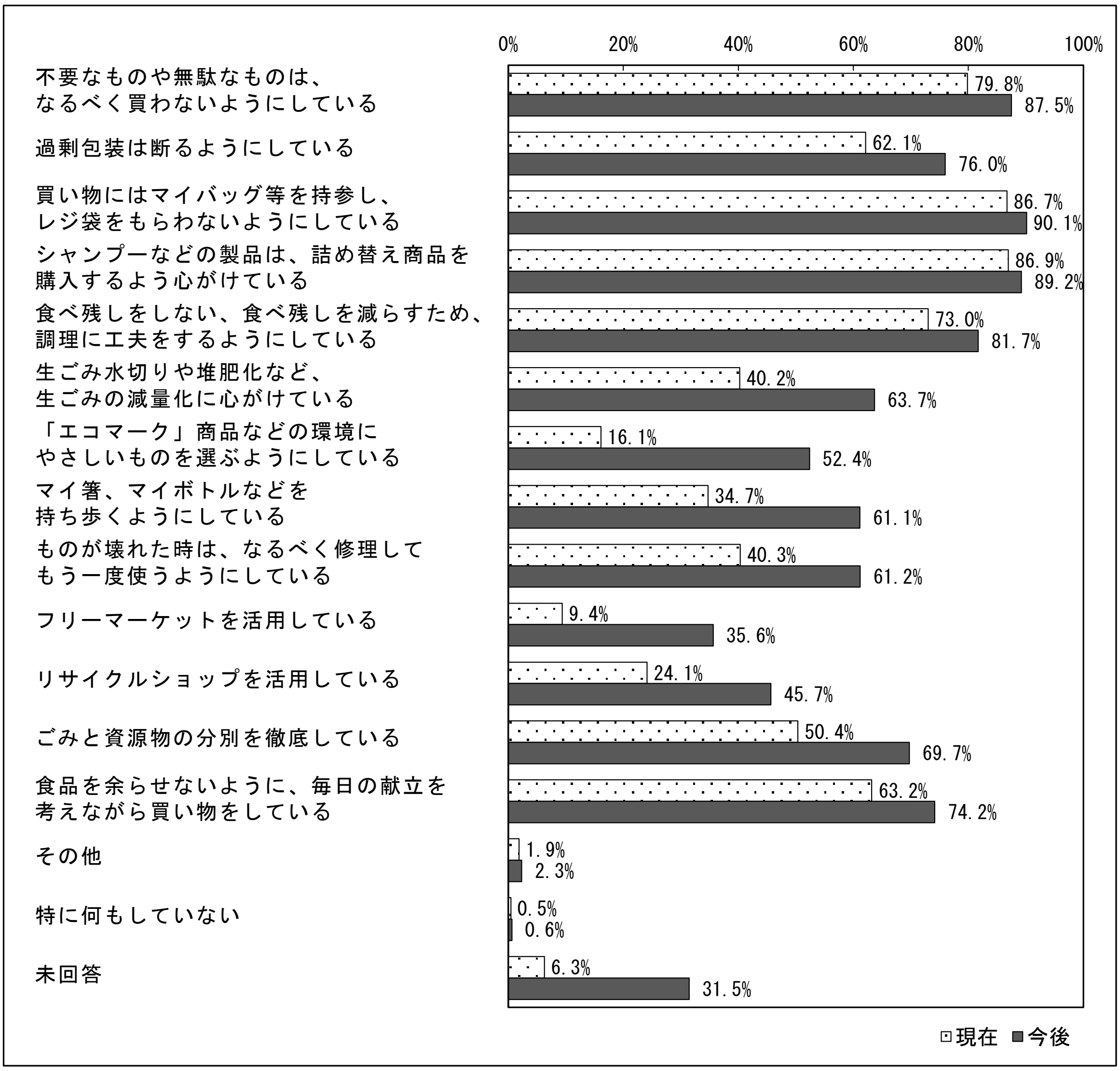


図 3-34　現在実施している取組及び今後実施予定の取組

平成 28 年度アンケート調査との比較

ごみに関する情報の入手先について（複数回答）

平成 28 年度調査（以下「前回調査」という。）と令和２年度調査を比較すると、「広報ふなばし」や「地域の回覧板」の割合が少なくなっており、「家庭ごみの出し方」「リサちゃんだより＋」「船橋市ホームページ」は多くなっている。また、「資源物とごみの分別ガイド」や「ごみ分別アプリ」といった新たな媒体から情報を入手している方も多くなっている。

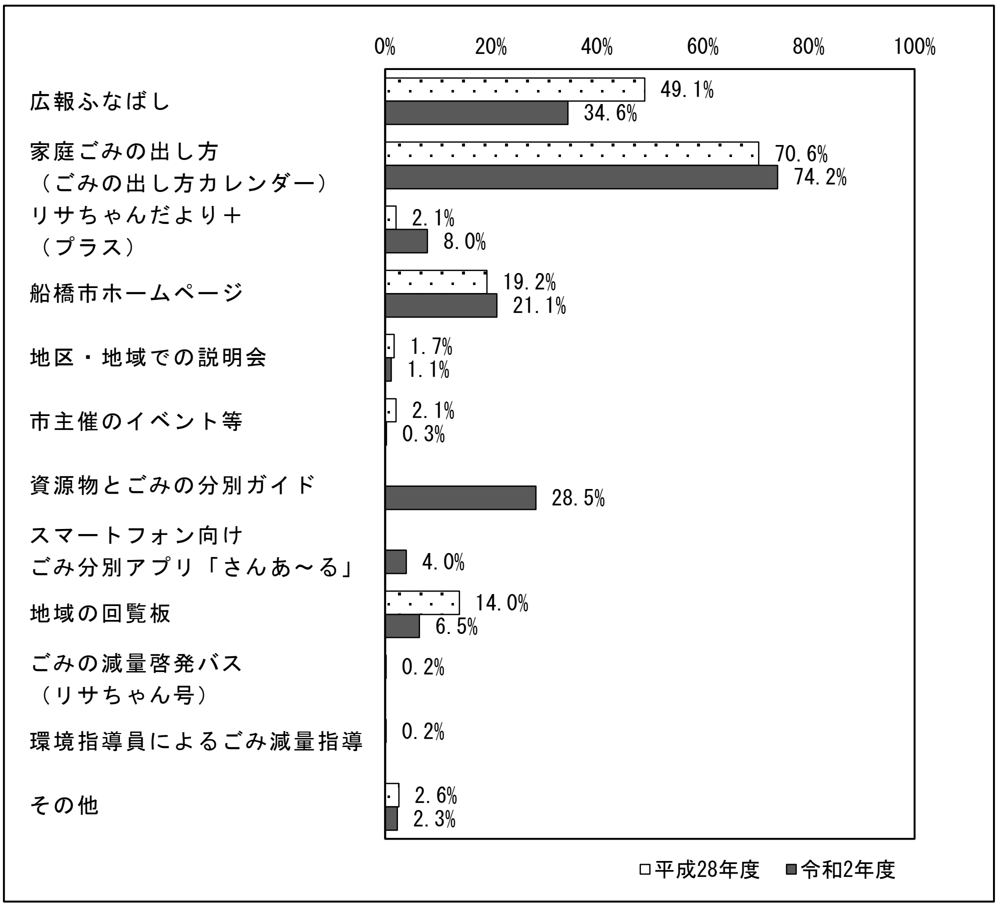


図 3-35　ごみに関する情報の入手先について前回調査と比較

不足していると思う情報について（複数回答）

前回調査と比較すると、本調査では不足していると思う情報について回答した割合は小さくなっている。前回調査、本調査ともに、「ごみの分別排出方法」が最も多くなっている。

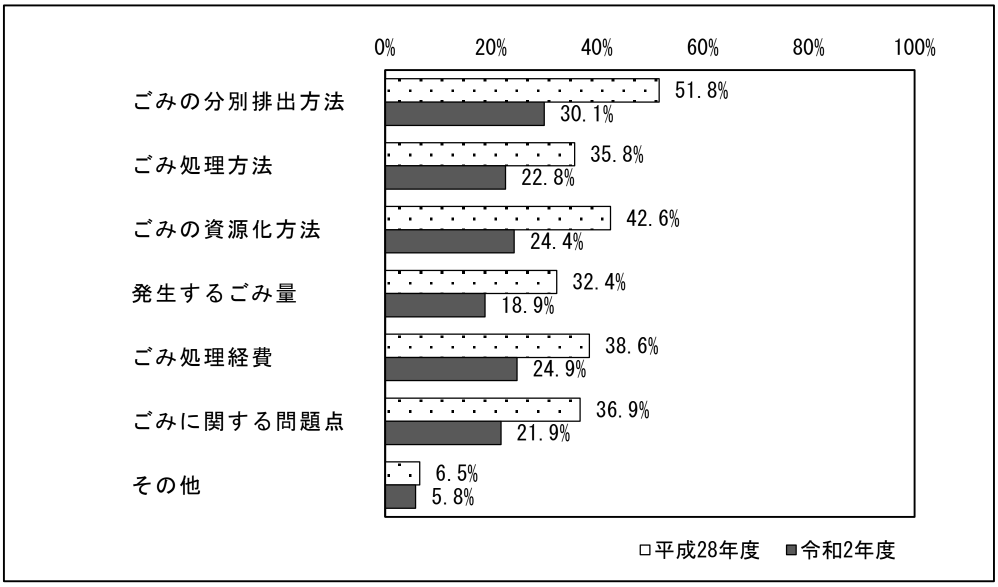


図 3-36　不足していると思う情報について前回調査と比較

家庭から出る可燃ごみの有料化について

前回調査と比較すると、本調査では、賛成が増加、反対が減少している。

賛成の理由を前回調査と比較すると、本調査では「可燃ごみの減量・資源化が進むことを期待するから」の割合が増加しており、最も多くなっている。反対の理由は、前回調査も本調査もほぼ同じ結果となっている。

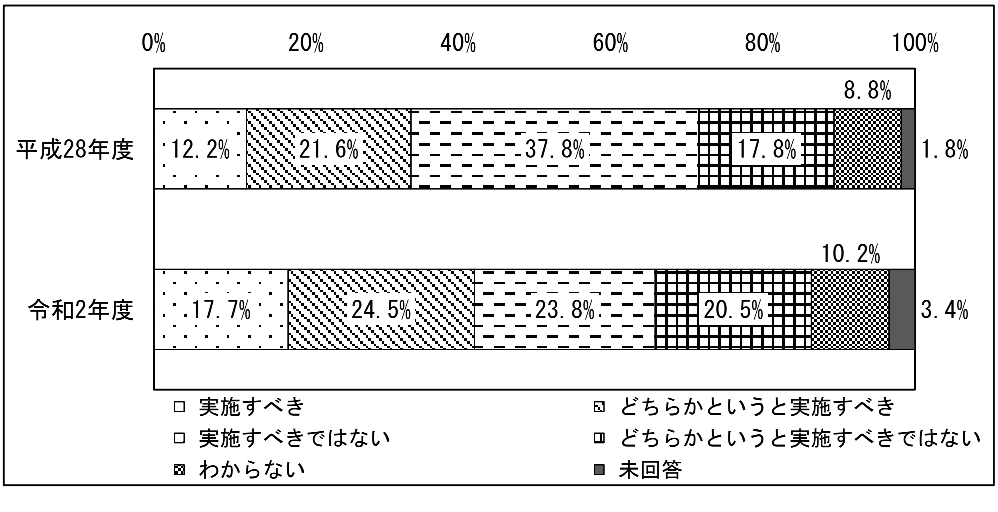


図 3-37　家庭から出る可燃ごみの有料化への意向について前回調査と比較

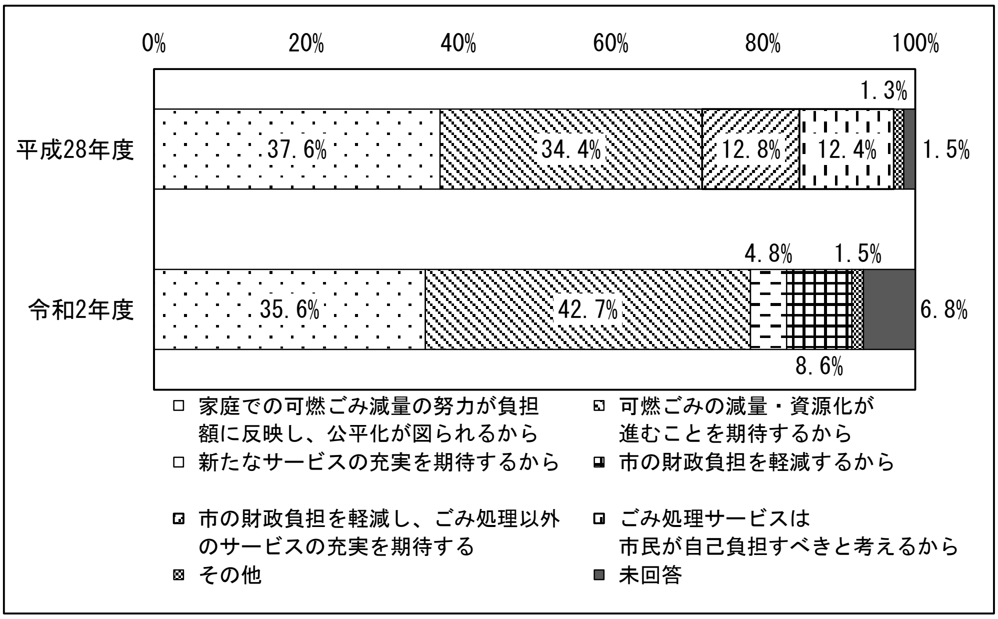


図 3-38　家庭から出る可燃ごみの有料化に賛成の理由について前回調査と比較

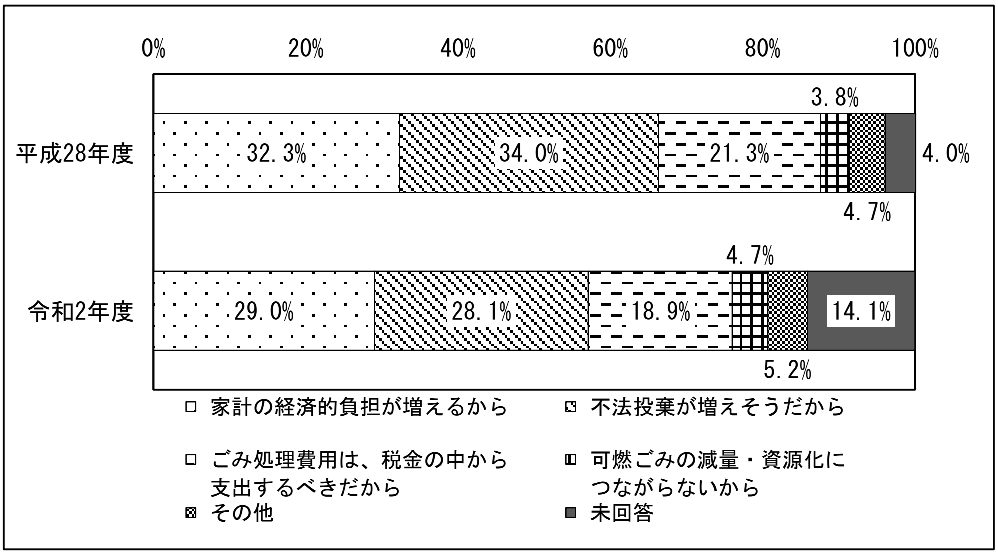


図 3-39　家庭から出る可燃ごみの有料化に反対の理由について前回調査と比較

前回調査と比較すると、本調査では、賛成が増加、反対が減少している。

賛成の理由を前回調査と比較すると、本調査では「二酸化炭素の排出量が削減されるから」の割合が増加し、最も多くなっている。また、反対の理由を前回調査と比較すると、本調査では「エネルギー回収・利用した方が良い」の割合が増加し、最も多くなっている。

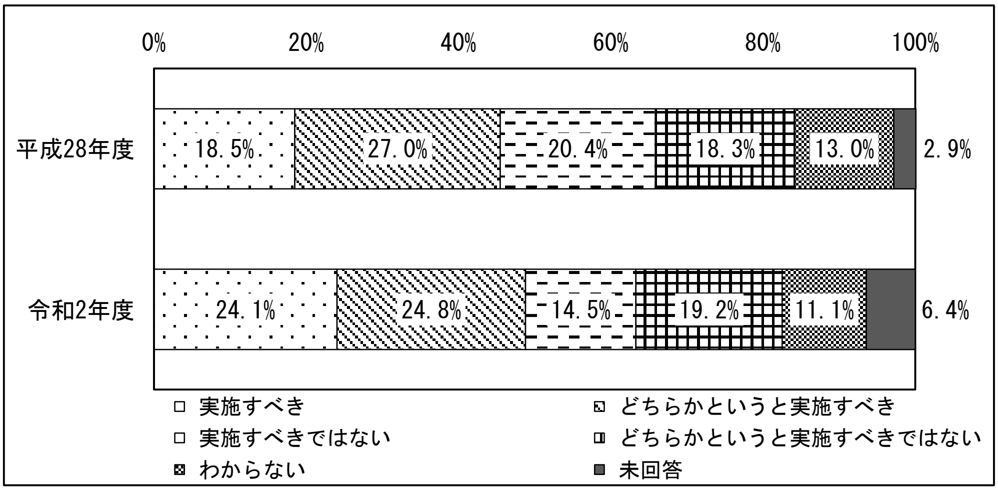


図 3-40　プラスチック製容器包装の分別収集への意向について前回調査と比較

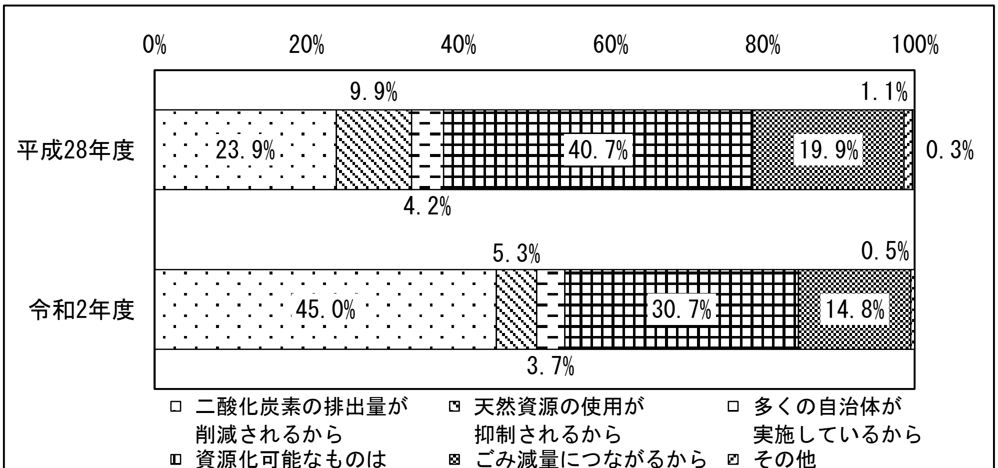


図 3-41 プラスチック製容器包装の分別収集に賛成の理由について前回調査と比較

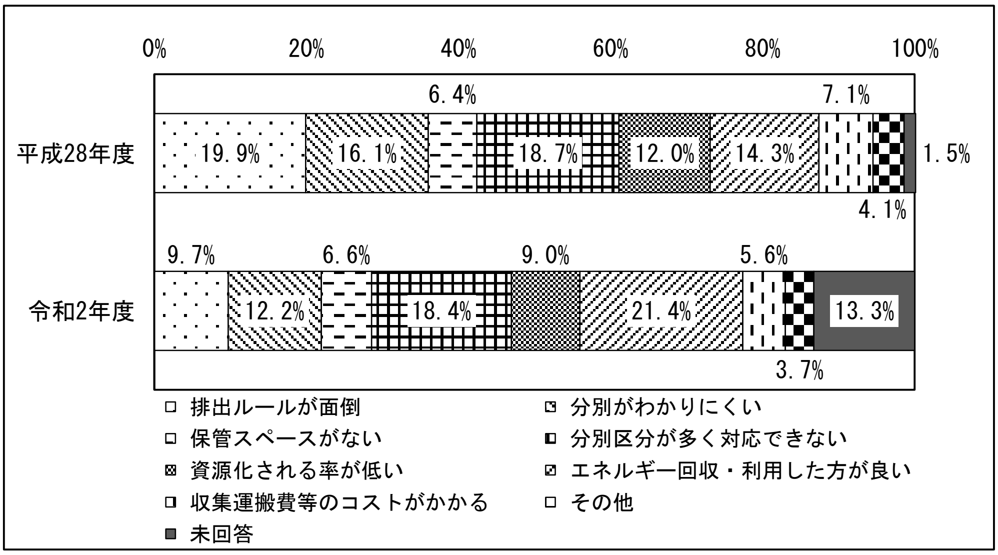


図 3-42 プラスチック製容器包装の分別収集に反対の理由について前回調査と比較

ごみに関する困りごとについて（複数回答）

前回調査と比較すると、本調査ではごみに関する困りごとについて回答した割合は小さくなっている。ごみに関する困りごとが「特になし」は同程度となっている。

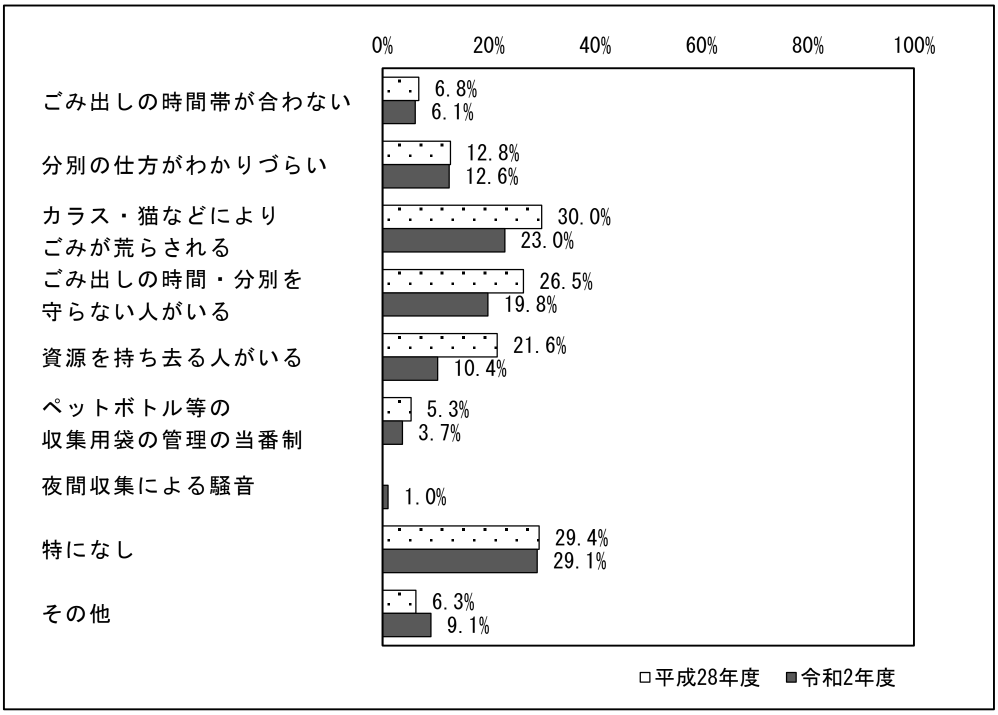


図 3-43　ごみに関する困りごとについて前回調査と比較

現在と今後の取組について（複数回答）

前回調査と本調査を比較すると、「買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」取組を実施している割合は増加しており、今後実施予定の割合も増加している。「特に何もしていない」の割合は減少し、1％以下となっている。

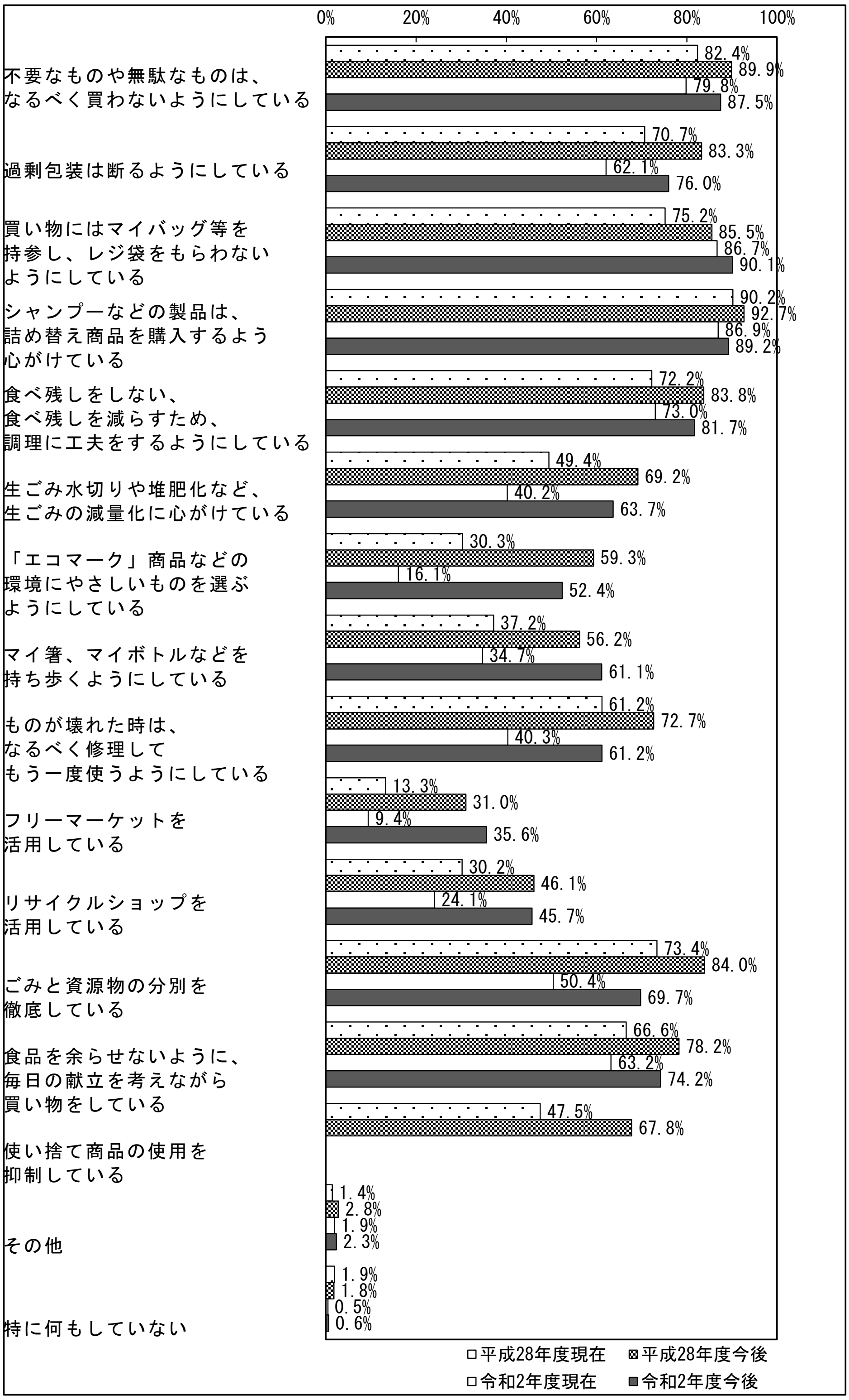


図 3-44　現在と今後の取組について前回調査と比較

市民アンケート調査結果からの考察

市民アンケート調査結果からの考察を以下に整理する。

アンケートの回答状況について

本調査は船橋市在住の満 18 歳以上の市民計 3,000 人を無作為抽出し、アンケート用紙を郵送した。回収率は 58.3%と高く、市のごみ処理への関心の高さがうかがえる。

家庭から出る可燃ごみの有料化について

家庭から出る可燃ごみの有料化について、賛成は 42.2%、反対は 44.3%と同程度の割合となっている。また、前回調査と比較すると、賛成が 8.4 ポイント増加し、反対が 11.3 ポイント減少している。

賛成意見としては、「新たなサービスの充実を期待するから」の割合が 42.7%と最も大きく、前回調査からも 8.3 ポイント増加しており、費用負担を好意的に受け止めている市民の意向が強くなっている傾向がうかがえる。しかし、反対意見では「家計の経済負担が増えるから」の割合が 29.0%と最も大きくなっており、有料化することで発生する新たな費用を負担と考えている市民の意向がうかがえることから、賛成と反対の意見が大きく分かれているところである。

プラスチック製容器包装の分別収集について

プラスチック製容器包装の分別収集について、賛成は 48.9%、反対は 33.7%と賛成の割合の方が大きくなっている。地域別の傾向を見ても、すべての地域で賛成の割合が大きくなっており、地域による明確な差は見られなかった。

また、前回調査と比較すると、賛成意見は 3.4 ポイント増加し、反対意見は 5 ポイント減少している。賛成の理由は、「二酸化炭素の排出が削減されるから」が 21.1 ポイント増加しており、反対の理由は「エネルギー回収・利用した方が良い」が 7.1 ポイント増加していた。賛成意見と反対意見ともに、環境問題に関連しており、環境意識が高まっていることがうかがえる。

食品ロスについて

食品ロスについて、「言葉も意味も知っていた」割合は 84.9%と、認知度は非常に高くなっている。

また、前計画で、ふなばしチャレンジ 7 プロジェクトとして推進してきた「食べ残しをなくす」と「買い物前には、冷蔵庫の中身などを確認してから買い物に行く」については、60%以上が取り組んでおり、一定の効果があったものと考えられる。

一方、「フードバンク等に提供している」等といった取組を実施している割合は1.3%と小さく、今後も引き続き食品ロス削減のための様々な取り組みについて、周知啓発することが必要と考えられる。

市の取組の認知状況について

ごみに関する情報の入手先については、「家庭ごみの出し方」「広報ふなばし」「資源物とごみの分別ガイド」「船橋市ホームページ」の割合が高くなっているが、60 代、70 代以上では「船橋市ホームページ」を利用している割合が低くなっているため、各年代に対して効果的な情報発信をしていく必要がある。

また、市が実施している取組の認知状況について、「すべて知らない」の割合が18.5%であったことや、スプレー缶の分別については、「分別や排出方法が分からない」、「面倒だから」といった理由で分別を実施していないという回答が一定数あったことから、資源物の排出方法等について、引き続き積極的な周知をしていく必要がある。

市民アンケート用紙

市民アンケート用紙を次頁以降に掲載する。

ごみの減量と資源化に関する市民アンケート

回答所要時間：５分程度（全２１問）

Ⅰ　あなた自身とご家族について

問１　あなたの性別と年齢、船橋市での居住年数をお答えください。

１）性別

〔該当する番号１つに○〕

１．男　　２．女
３．その他

２）年齢

〔該当する番号１つに○〕

１．10 代　　２．20 代　　３．30 代
４．40 代　　５．50 代　　６．60 代
７．70 代以上

３）あなたの船橋市での居住年数をお答えください。

〔該当する番号１つに○〕

１．２年未満　　２．２年以上～５年未満　　３．５年以上～10 年未満
４．10 年以上～20 年未満　　５．20 年以上～30 年未満　　６．30 年以上

問２　あなたを含め同居している世帯員の人数と、乳児または高齢者の方などで紙おむつを使用している方の有無及びその人数についてお答えください。〔該当する番号１つに○〕

世帯員数	１　紙おむつを使用していない方	２　紙おむつを使用している方 ［人数を記入してください］
＿＿＿＿＿人		ア）いる（乳幼児）　＿＿＿＿人 イ）いる（乳幼児以外）　＿＿＿＿人

問３　あなたのお住まいの形態とごみ収集ステーションについてお答えください。

〔該当する番号１つに○〕

１．集合住宅
（長屋建て含む）
２．戸建て住宅

→［１．集合住宅（長屋建て含む）と回答の方にお聞きします。］

建物敷地内にごみ収集ステーションがありますか。

〔該当する番号１つに○〕

１．ある　　２．ない

問４　あなたのお住まいの住所（町名まで）をお答えください。

船橋市 ＿＿＿＿＿

【記入例】船橋市
高根台

1

Ⅱ　家庭ごみの分別・処理について

正しい分別方法

小型家電	→	市内２０か所に設置してある回収ボックスへ投入する。
充電式電池	→	電気店等にある「充電式電池リサイクル BOX」へ投入する。
鍋・やかん・フライパン	→	空き缶等の金属回収袋へ入れる。
スプレー缶	→	中身を使い切り、空き缶等の金属回収袋へ入れる。
蛍光管	→	購入時の箱に入れるか、新聞紙等にくるんで「蛍光管」と表示し、不燃ごみとは別にごみ収集ステーションの端に出す。
割れた蛍光管	→	新聞紙等にくるんで、透明な袋に入れ「割れた蛍光管」と表示し、不燃ごみとは別にごみ収集ステーションの端に出す。
乾電池	→	透明な袋に入れ「乾電池」と表示し、不燃ごみとは別にごみ収集ステーションの端に出す。

問５　以下の品目について、あなたはどのようにごみを分別していますか。

（1）当てはまる番号１つに〇をつけてください。

分別状況／資源物	きちんと分別している	だいたい分別している	あまり分別していない	分別していない	ごみとして出したことがない
小型家電	1	2	3	4	5
充電式電池	1	2	3	4	5
鍋・やかん等	1	2	3	4	5
スプレー缶	1	2	3	4	5
蛍光管	1	2	3	4	5
割れた蛍光管	1	2	3	4	5
乾電池	1	2	3	4	5

（2）[上記の表で「あまり分別していない」「分別していない」と回答した方にお聞きします。]
　　分別をしない理由は何ですか。品目別に主な理由の該当する番号を１つ記入してください。

資源物	分別をしない主な理由
小型家電	
充電式電池	
鍋・やかん等	
スプレー缶	
蛍光管	
割れた蛍光管	
乾電池	

【分別をしない理由】

１．面倒だから
２．分別や排出方法がわからないから
３．ごみの減量やリサイクルに関心がないから
４．少量であれば問題ないと思うから
５．小型家電回収ボックスが近くにないから
６．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問６　以下の品目について、市の分別収集に出さない場合の排出先をお答えください。主な排出先を当てはまる番号全てに○をつけてください。

資源物＼出し方	有価物回収	スーパーなどの店頭回収	新聞業者の回収	その他(出ない・出さないを含む)
①新聞・チラシ	1	2	3	4（　　　　　）
②雑誌・雑がみ	1	2		4（　　　　　）
③ダンボール	1	2		4（　　　　　）
④牛乳パック	1	2		4（　　　　　）
⑤古着	1	2		4（　　　　　）
⑥ペットボトル		2		4（　　　　　）
⑦空カン、空ビン		2		4（　　　　　）
⑧プラスチックトレイ類		2		4（　　　　　）

問７　有価物の雑がみについて、あなたはどのように処理をしていますか。

（１）あなたは雑がみを分別していますか。

〔該当する番号１つに○〕

１．きちんと分別している　　２．だいたい分別している
３．あまり分別していない　　４．分別していない

(2)［(１) の質問で「１．きちんと分別している」「２．だいたい分別している」と回答した方にお聞きします。］以下の品目について、有価物の雑がみとして分別しているものに○をつけてください。

〔該当する番号すべてに○〕

１．ティッシュ箱（ビニール除く）　２．菓子や食品の箱　３．カレンダー（金具などは除く）
４．紙袋（持ち手が紙以外の場合は持ち手を除く）　５．ラップ・トイレットペーパーの芯
６．封筒・ハガキ　７．包装紙や折り紙　８．タグや名刺　９．プリント用紙
10. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

(3)［(１) の質問で「３．あまり分別していない」「４．分別していない」と回答した方にお聞きします。］分別をしない理由は何ですか。

〔該当する番号すべてに○〕

１．面倒だから　　２．分別や排出方法がわからないから
３．ごみの減量やリサイクルに関心がないから　　４．少量であれば問題ないと思うから
５．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

Ⅲ　ごみの減量化や処理に関する情報提供について

問8　市のごみに関する情報は何から得ていますか。

〔該当する番号すべてに○〕

1．広報ふなばし　　2．家庭ごみの出し方（ごみの出し方カレンダー）
3．リサちゃんだより＋（プラス）　　4．船橋市ホームページ　　5．地区・地域での説明会
6．市主催のイベント等　　7．資源物とごみの分別ガイド
8．スマートフォン向けごみ分別アプリ「さんあ～る」　　9．地域の回覧板
10．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（2.家庭ごみの出し方）

（3.リサちゃんだより＋）

（7.資源物とごみの分別ガイド）

問9　ごみに関して、どのような情報が不足していると思いますか。また、その情報はどのように周知していくのが望ましいと思いますか。

（1）不足していると思う情報すべてに○をつけてください。
（2）望ましいと思う周知方法を選択肢から３つまで選んで記入してください。

（1）不足している情報〔該当する番号すべてに○〕	（2）周知方法〔右欄から３つ番号記入〕		
1．ごみの分別排出方法			
2．ごみ処理方法			
3．ごみの資源化方法			
4．発生するごみ量			
5．ごみ処理経費			
6．ごみに関する問題点			
7．その他（具体的に　　　　）			

【周知方法】
1．広報紙
2．ホームページ
3．市が発行するチラシ・回覧板
4．説明会
5．携帯電話アプリ
6．出前講座
7．見学会
8．家庭ごみの出し方
9．イベント
10．SNS
11．その他（　　　　　　　）

耳より情報　スマートフォン向けごみ分別アプリ「さんあ～る」を配信しています!

手軽にごみの分別や収集日などを確認できるスマートフォン向けのアプリ「さんあ～る」を配信しています。ごみ出し日を通知したり、クイズで分別方法などについて学ぶことができるほか、英語、中国語にも対応しています。ぜひご利用ください。

●ダウンロード
各ストアより「さんあ～る」で検索しダウンロードしてください。
右記の二次元コードからもダウンロード可能です。

●アプリ利用料
無料（ただし、通信料は利用される方の負担になります）

Android 用　　iOS 用

Ⅳ　家庭から出る可燃ごみの有料化について

解説

【可燃ごみの有料化とは？】
可燃ごみの有料化とは、ごみの減量を目的にごみ処理費用の一部を市民の皆様に負担していただく仕組みのことで、全国の市区町村における有料化率は約８１％、千葉県内の市区町村における有料化率は約６７％となっています。（平成３０年度環境省一般廃棄物処理実態調査）

【有料化の方法および負担額の例】
可燃ごみの有料化の手法としては、指定袋にごみ処理費用の一部を上乗せする「指定袋制」が多く、千葉県内で有料化している市町村の負担額は、ごみ袋１リットル当たり 0.6 円から 1.0 円程度となっています。例えば、20 リットルの袋の場合は、１枚 12 円から 20 円となります。

【有料化の効果と課題】
有料化の効果としては、ごみを多く出す方が処理費用を多く負担するようになるため、ごみ処理負担額の公平化やごみの減量・資源化への意識の高まりなどがあげられますが、新たな経済的負担が生じることや、紙おむつや枝木など削減できないごみを出す方に対し減免する方法を検討するなどの課題もあります。

問１０　「家庭から出る可燃ごみの有料化」は各家庭の可燃ごみ排出量に応じてごみ処理手数料を負担していただくという家庭の可燃ごみ減量の努力が負担額に反映される制度です。
「家庭から出る可燃ごみの有料化」について、あなたの考えをお答えください。

〔該当する番号１つに〇〕
１．実施すべき　２．どちらかというと実施すべき　３．実施すべきではない
４．どちらかというと実施すべきではない　５．わからない

問１１　［問１０で「１．実施すべき」「２．どちらかというと実施すべき」と回答した方にお聞きします。］
その主な理由をお答えください。

〔該当する番号１つに〇〕
１．家庭での可燃ごみ減量の努力が負担額に反映し、公平化が図られるから
２．可燃ごみの減量・資源化が進むことを期待するから
３．新たなサービスの充実を期待するから
４．市の財政負担を軽減するから　５．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問１２　［問１０で「３．実施すべきではない」「４．どちらかというと実施すべきではない」と回答した方にお聞きします。］
その主な理由をお答えください。

〔該当する番号１つに〇〕
１．家計の経済的負担が増えるから　２．不法投棄が増えそうだから
３．ごみ処理費用は、税金の中から支出するべきだから
４．可燃ごみの減量・資源化につながらないから
５．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Ⅴ　プラスチック製容器包装の分別収集について

解説

［プラスチック製容器包装って？］

・プラスチック容器包装とは、商品を入れたり包んだりしているプラスチックやビニール製の「容器」や「包装」で、プラマークが付いているものをいいます。国では簡単に見分けられるように平成１３年４月１日から識別マークを表示することを義務付けました。
一部プラマークが付いていない（構造上の理由などで表示を免除されている）ものもありますが、基本的にはこの（プラ）マークが付いているものです。

［船橋市のプラスチック製容器包装は？］

・船橋市では現在、プラスチック製容器包装は「可燃ごみ」の分別となっており、令和元年度においては、可燃ごみのうち、約13%（湿重量比）がプラスチック製容器包装となっています。
・プラスチックを焼却することで熱エネルギーを回収し、高効率発電により余った電気を売電しています。
※清掃工場における年間売電収益（平成31年度実績）
北部清掃工場６億９千万円　　旧南部清掃工場６千万円　　新南部清掃工場６千万円（試運転）

［プラスチック製容器包装の分別の課題］

・プラスチック製容器包装を資源化するには、汚れ、異物の混入がないことが必要で、分別に手間がかかります。
・分別収集には年間で多額の費用が必要になります。
・収集したプラスチック製容器包装のうち半分程度しか資源化できず、その他は焼却処理されます。

［分別の効果］

・可燃ごみの減量化　・資源化を進められる　・二酸化炭素排出量の削減など環境負荷の低減
・不要なものを家庭に持ち込まないなどの発生抑制意識の向上　など

問１３　「プラスチック製容器包装の分別収集」について、あなたの考え方として該当するものをお答えください。

〔該当する番号１つに○〕

１．実施すべき　２．どちらかというと実施すべき　３．実施すべきではない
４．どちらかというと実施すべきではない　５．わからない

問１４　［問１３で「１．実施すべき」「２．どちらかというと実施すべき」と回答した方にお聞きします。］
その主な理由をお答えください。

〔該当する番号１つに○〕

１．二酸化炭素の排出量が削減されるから
２．天然資源の使用が抑制されるから
３．多くの自治体が実施しているから
４．資源化可能なものは全て資源化すべきだから
５．ごみ減量につながるから
６．その他（　　　　　　　　　　　　）

問１５　［問１３で「３．実施すべきではない」「４．どちらかというと実施すべきではない」と回答した方にお聞きします。］
その主な理由をお答えください。

〔該当する番号１つに○〕

１．排出ルールが面倒そうだから
２．分別が何かわかりにくいから
３．家庭内に保管するスペースがないから
４．家庭内で分別区分が多すぎて対応できないから
５．プラスチックに資源化される率が低いから
６．焼却してエネルギーを回収・利用した方が良いから
７．収集運搬費等のコストがかかるから
８．その他（　　　　　　　　　　　　）

Ⅵ　食品ロスの削減について

解説

食品ロスとは、本来は食べられたのに捨てられている食べ物を言います。日本では、年間 612 万トンの食品ロスが発生しています（平成 29 年度推計）。これを１人あたりに換算すると、毎日お茶碗約１杯分（約 139ｇ）のご飯を捨てていることになります。

世界では、人口が急増し、深刻な飢えや栄養不良の問題が存在する中、大量の食品が廃棄されているのが現状であり、食品ロスの削減が重要な課題となっています。

［船橋市の食品ロス］

令和元年度の船橋市ごみ組成調査によると、家庭から出る可燃ごみの33.6%を占める生ごみ（厨芥類）のうち手つかず食品（※1）や食べ残し（※2）など、本来は食べられたのに捨てられてしまった食べ物が約20%もあったことになります。

※1　手つかず食品：未開封の食材や食品、若しくは開封済みで半分以上残ったもの
※2　食べ残し：開封済みの食材や食品で半分未満のもの

問１６　「食品ロス」という言葉とその意味をご存知でしたか。

〔該当する番号１つに〇〕

１．言葉も意味も知っていた。　　２．言葉は知っていたが、意味は知らなかった。
３．知らなかった。

問１７　「食品ロス」の削減のために家庭で取り組んでいることはありますか。

〔該当する番号すべてに〇〕

１．買い物前には、冷蔵庫の中身などを確認してから買い物に行く。
２．調理するときには、食べきれる量だけ作る。
３．皮や脂など、必要以上に取り除かないように注意し、食材を無駄なく使うようにしている。
４．ばら売りや、量り売り、少量パック等を必要に応じて利用している。
５．冷蔵庫の機能（チルド室やパーシャル室等）をうまく使い分け、保存方法を工夫している。
６．賞味期限や消費期限をこまめに確認している。
７．残さずに食べるようにしている。
８．余った食品や食べきれない食品はフードバンク等に提供している。
９．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問１８　［食品ロス］の削減のために外食時に取り組んでいることはありますか。

〔該当する番号すべてに〇〕

１．小盛のメニューなどを活用し、食べきれる量を頼んでいる。
２．宴会時等の最初は、まず料理を食べるなど、食べ残しを減らすよう意識している。（３０１０運動）
３．持ち帰りができる場合には、積極的に利用している。
４．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Ⅶ　ごみ問題への関心について

問１９　市が現在行っている以下の取組みの中で、知っているものを挙げてください。

〔該当する番号すべてに○〕

１．夏休み親子見学会
２．ふなＲ連携事業者認定制度
３．ふれあい収集
４．３０１０運動
５．マイバッグ運動
６．フードドライブ
７．清掃工場見学
８．小型家電のボックスによる回収
９．クリーン船橋５３０推進員
10．生ごみ処理容器購入費助成制度
11．クリーン船橋５３０の日
12．船橋をきれいにする日
13．全て知らない

問２０　ごみに関して、お困りのことをお答えください。

〔該当する番号すべてに○〕

１．ごみ出しの時間帯が合わない
２．分別の仕方がわかりづらい
３．カラス・猫などによりごみが荒らされる
４．ごみ出しの時間・分別を守らない人がいる
５．資源を持ち去る人がいる
６．ペットボトル等の収集用袋の管理の当番制
７．夜間収集による騒音
８．特になし
９．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Ⅷ　現在と今後の取組について

問２１　以下の取組に関して、「現在実施している」場合は○を現在欄に記入してください。またそれぞれの取組について「今後実施予定」の場合は○を今後欄に記入してください。

取組内容	現在	今後
１．不要なものや無駄なものは、なるべく買わないようにしている		
２．過剰包装は断るようにしている		
３．買い物にはマイバッグ等を持参し、レジ袋をもらわないようにしている		
４．シャンプーなどの製品は、詰め替え商品を購入するよう心がけている		
５．食べ残しをしない、食べ残しを減らすため、調理に工夫をするようにしている		
６．生ごみ水切りや堆肥化など、生ごみの減量化に心がけている		
７．「エコマーク」商品などの環境にやさしいものを選ぶようにしている		
８．マイ箸、マイボトルなどを持ち歩くようにしている		
９．ものが壊れた時は、なるべく修理してもう一度使うようにしている		
10．フリーマーケットを活用している		
11．リサイクルショップを活用している		
12．ごみと資源物の分別を徹底している		
13．食品を余らせないように、毎日の献立を考えながら買い物をしている		
14．その他（具体的に：　）		
15．特に何もしていない		

船橋市のごみに関する施策についてご意見があれば教えてください

＜ご意見記入欄＞

質問は以上で終了となります。アンケートにご協力いただきありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れて、11月24日（火）までにポストに投函してください。

１１.事業者ヒアリング結果

調査概要

本調査は、事業系一般廃棄物に関する課題の抽出及び将来の施策展開の方向性について把握し、一般廃棄物処理基本計画を策定する上での参考とすることを目的として実施した。

調査対象は、市が指定する 21 事業者とした。

調査は、原則として対面によるヒアリングとしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各事業者にヒアリングシートと返信用封筒を郵送し、返信されたヒアリングシートについてデータ整理を行うことで実施した。また、回答内容の詳細確認のため、電話によるヒアリング結果の補足を行った。

事業者ヒアリングの調査期間及びヒアリングシートの回収状況を以下に示す。

・ヒアリングシートの発送	：	2021 年 ２月　２日（火）
・ヒアリングシート回収期限	：	2021 年 ２月 15 日（月）
・ヒアリングシート発送数	：	21 件
多量排出事業者９件		
食品ロス関係事業者６件		
紙おむつ排出事業者６件		
・ヒアリングシート回収数	：	21 件
・ヒアリングシート回収率	：	100%（回収数÷有効数）

ヒアリングの内容

ヒアリングシートの設問内容を以下に示す。設問は、多量排出事業者、食品ロス関係事業者、紙おむつ排出事業者毎に設定し、多量排出事業者のうち、スーパーマーケットには食品ロスに関する設問を追加している。また、食品ロス関係事業者については、業種に合わせた設問としている。

＜多量排出事業者＞

1. 基本情報	
	名称
	本社、支店等の区分
	ご担当者名（ご回答いただいた方のお名前）
	所在地・建物の名称
	所有形態
	使用形態（占有、複合）
	来客数　　※年間あたりの概算（顧客数、来場者数、病院等の場合は定員数など）
	ごみの保管場所と分類保管の有無
2. 業種	
3. 事業形態	
4. 従業員数（非正規従業員含む）	
5. 床面積（事務所、加工場、売り場、店舗等）	
6. 事業活動に伴い発生するごみや資源物の量	
7. ごみの減量、資源化、分別に関する取組み状況	
8. ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの問題点	
9. 今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目	
10. 古紙のリサイクルについての状況	
11. ごみ減量化のために今後できると思うこと、取り組むべきと思うこと	
12. ごみに関する情報の入手先	
13. 足りないと感じている情報	
14. レジ袋についての状況	
15. 食品ロス削減についての状況（スーパーマーケットのみ）	
16. 従業員用の災害備蓄食品の有無及び消費期限間近の災害備蓄食品の処理方法	
17. コロナ禍の影響	
18. ＳＤＧｓに関する取組み状況	
19. 業界としての取組み	
20. 利用者（顧客）等の出すごみの減量化	
21. ふなＲ連携事業者認定制度について	
22. 事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する取組みが実施可能か	
23. 共同での処理・資源化が可能か	
24. その他、市のごみ処理に関する要望・意見等	

＜食品ロス関係事業者＞

1．基本情報	
	名称
	本社、支店等の区分
	ご担当者名（ご回答いただいた方のお名前）
	所在地・建物の名称
	所有形態
	使用形態（占有、複合）
	来客数　　※年間あたりの概算（顧客数、来場者数、病院等の場合は定員数など）
	ごみの保管場所と分類保管の有無
2．業種	
3．事業形態	
4．従業員数（非正規従業員含む）	
5．床面積（事務所、加工場、売り場、店舗等）	
6．事業活動に伴い発生するごみや資源物の量	
7．ごみの減量、資源化、分別に関する取組み状況	
8．ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの問題点	
9．今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目	
10．ごみ減量化のために今後できると思うこと、取り組むべきと思うこと	
11．食品ロス削減についての状況	
12．従業員用の災害備蓄食品の有無及び消費期限間近の災害備蓄食品の処理方法	
13．コロナ禍の影響	
14．ＳＤＧｓに関する取組み状況	
15．業界としての取組み	
16．利用者（顧客）等の出すごみの減量化	
17．ふなＲ連携事業者認定制度について	
18．事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する取組みが実施可能か	
19．共同での処理・資源化が可能か	
20．その他、市のごみ処理に関する要望・意見等	

＜紙おむつ関係事業者＞

1．基本情報	
	名称
	本社、支店等の区分
	ご担当者名（ご回答いただいた方のお名前）
	所在地・建物の名称
	所有形態
	使用形態（占有、複合）
	来客数　※年間あたりの概算（顧客数、来場者数、病院等の場合は定員数など）
	ごみの保管場所と分類保管の有無
2．業種	
3．事業形態	
4．従業員数（非正規従業員含む）	
5．床面積（事務所、加工場、売り場、店舗等）	
6．施設利用者が排出するごみと従業員が排出するごみの分別について	
7．事業活動に伴い発生するごみや資源物の量	
8．ごみの減量、資源化、分別に関する取組み状況	
9．ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの問題点	
10．今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目	
11．ごみ減量化のために今後できると思うこと、取り組むべきと思うこと	
12．紙おむつについての状況	
13．食品リサイクル法の認知状況	
14．食品ロス削減についての状況	
15．食品ロス削減に取組まない理由	
16．給食残渣の減量について	
17．従業員用の災害備蓄食品の有無及び消費期限間近の災害備蓄食品の処理方法	
18．コロナ禍の影響	
19．ＳＤＧｓに関する取組み状況	
20．業界としての取組み	
21．利用者（顧客）等の出すごみの減量化	
22．事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する取組みが実施可能か	
23．共同での処理・資源化が可能か	
24．その他、市のごみ処理に関する要望・意見等	

調査結果

実施した事業者ヒアリングの調査結果を以下に示す。各設問の「未回答」には設問内容が事業者の状況に合致していない場合を含む。

1.多量排出事業者

基本情報（9 社）

表4-1-①　ヒアリング結果まとめ（多量排出事業者）

	名称	多量排出事業者A	多量排出事業者B	多量排出事業者C	多量排出事業者D	多量排出事業者E	多量排出事業者F	多量排出事業者G	多量排出事業者H	スーパーマーケット
事業者属性	本社、支店等の区分	未回答	支店	未回答	支店	未回答	支店	未回答	未回答	支店
	業種	未回答	不動産業、物品賃貸業	サービス業	卸売業、小売業	不動産業、物品賃貸業	卸売業、小売業	卸売業、小売業	サービス業	卸売業、小売業
	事業形態	複合ビル	ショッピングセンター	未回答	販売店、店舗	販売店、店舗、飲食店、事務所・営業所、映画館、劇場、娯楽施設等	販売店、店舗	販売店、店舗	映画館、劇場、娯楽施設等	販売店、店舗
	従業員数（非正規従業員含む）	301～1,000人	1,001～2,000人	101～300人	51～100人	5～20人	21～50人	301～1,000人	101～300人	51～100人
	床面積（事務所、加工場、売り場、店舗等）	1,000～2,000㎡未満	100,000㎡以上	未回答	5,000～10,000㎡未満	20,000～50,000㎡未満	2,000～5,000㎡未満	100,000㎡以上	20,000～50,000㎡未満	10,000～20,000㎡未満
	所有形態	未回答	自社所有	未回答	賃貸	共有	賃貸	未回答	自社所有	賃貸
	使用形態（占有、複合）	複合	複合	未回答	占有	複合	占有	未回答	複合	未回答
	来客数 ※年間あたりの概算	未回答	非公開	796,000人/年	未回答	未回答	250,000人/年	未回答	190,000人/年	2,000人/年
	ごみの保管場所と分類保管の有無	有	有	有	有	有	有	有	有	有
発生ごみ量・資源物量	可燃ごみ	未回答	1,199,000 kg／年	221,890 kg／年	未回答	未回答	未回答	未回答	123,060 kg／年	未回答
	紙類（機密文書）		－	－					1,120 kg／年	
	紙類（雑がみ）		59,000 kg／年	－					可燃ごみに含む	
	紙類（容器包装）		－	－					可燃ごみに含む	
	厨芥（食べ残し、調理くず）		475,000 kg／年	－					可燃ごみに含む	
	プラスチック類		152,000 kg／年	176㎥					300 kg／年	
	草木類（剪定枝、産廃以外の木材など）		可燃に含む	－					7,400 kg／年	
	その他 ※排出が多い廃棄物		－	－					2,660 kg／年	

表4-1-②　ヒアリング結果まとめ（多量排出事業者）

	名称	多量排出事業者A	多量排出事業者B	多量排出事業者C	多量排出事業者D	多量排出事業者E	多量排出事業者F	多量排出事業者G	多量排出事業者H	スーパーマーケット
ごみや資源物の処理方法	可燃ごみ	①	①	③	未回答	①	⑨	①	①②	⑨
	紙類（機密文書）	①	－	－		⑪	⑨	①	⑥	⑨
	紙類（雑がみ）	②	②	③		⑤	⑨	①	②	⑨
	紙類（容器包装）	①	－	③		⑤	⑨	⑤	①	⑨
	厨芥（食べ残し、調理くず）	①	⑥	③		①	⑨	①	①	⑨
	プラスチック類	②	④	④		④	⑨	④	（ペットボトル）②	⑨
	草木類（剪定枝、産廃以外の木材など）	①	①⑦	③		－	⑨	①	（粗大、不燃ごみ）①④	⑨
	その他 ※排出が多い廃棄物	－	－	－		－	⑨	－	（カン、瓶）①②	⑨

＜選択肢＞
①一般廃棄物収集運搬業者にごみとして出している
②一般廃棄物収集運搬業者に資源物として出している
③自ら清掃工場に直接搬入している
④産業廃棄物処理業者に処理を委託している
⑤リサイクル業者に売却している
⑥処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している
⑦企業内・企業グループ内でリサイクルしている
⑧納入業者（販売者）が回収している
⑨本社（本店）が一括しているので分からない
⑩建物の管理会社に任せているので分からない
⑪その他

スーパーマーケット以外の回答（8 社）

ごみの減量、資源化、分別に関する取組み状況

・缶やびんの分別回収箱を設置している。（8 社）
・書類のペーパーレス化に努めている。（6 社）
・減量目標を定めて、ごみの減量に取り組んでいる。（3 社）
・ごみの減量化や資源化を事業所内に呼びかけている（ポスターや注意書きの掲示）（2 社）
・古紙回収箱を設置している。（2 社）
・再生紙等再生用品の使用に努めている。（2 社）
・ごみの減量化や資源化を推進する部署や担当者を設置している。（1 社）
・ごみの減量化や資源化のマニュアルを作成している。（1 社）
・取引先や納入業者に簡易包装等の省資源化や通い箱の使用を依頼している。（1 社）
・排出するごみや資源物の計量を行っている。（1 社）
・食品トレイ等の自主回収および資源化を導入している。（1 社）

ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの問題点

・特に問題ない。（3 社）
・従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい。（2 社）
・ごみの減量、分別に手間がかかる。（2 社）
・ごみの減量、分別に費用がかかる。（2 社）
・一般廃棄物と産業廃棄物の区別が難しい。（2 社）
・資源物を保管しておく場所がない。（1 社）

今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目

・段ボール（2 社）
・粗大ごみ（2 社）
・コピー用紙、OA 用紙（1 社）
・雑がみ（メモ用紙、伝票、封筒、紙製の空箱、シュレッダーくず）（1 社）
・プラスチック類（1 社）
・缶類（1 社）
・ビン類（1 社）
・その他（現行通り・特になし）（2 社）

古紙のリサイクルについての状況

（1）雑がみ（封筒・はがき、包装紙、ティッシュ箱等）を分別していますか。

・はい（2 社）
・いいえ（6 社）

⑵ 前問で「はい」と回答された事業所の方にお聞きします。分別している品目を具体的に教えてください。

シュレッダー、ダンボール、古紙（新聞、雑誌）、その他紙類

⑶ 機密文書について、貴事業所ではどのように処理していますか。

- リサイクルしている（1 社）
- 可燃ごみとして排出している（1 社）
- その他（5 社）
  - ●テナントによって違う
  - ●ダンボール回収業者が回収している
  - ●各事業所にて排出
  - ●本社指定業者に委託
  - ●溶解

⑷ 前問で「1．リサイクルしている」と回答された事業所の方にお聞きします。具体的なリサイクル方法を教えてください。

リサイクル企業に直接依頼し、資源化している。

ごみ減量化のために今後できると思うこと、取り組むべきと思うこと

- リサイクルの推進、マイバッグ持参の啓蒙活動（1 社）
- 現在行っているごみ減量化の継続に取り組んで行く。（1 社）
- 従業員一人一人の意識改革が重要と考えている。（1 社）
- キャッシュレス化を図っている。（1 社）

ごみに関する情報の入手先

- 船橋市ホームページ（3 社）
- 新聞、廃棄物関連図書（1 社）
- その他
  - ●ごみ回収業者に確認（2 社）
  - ●本社指示（1 社）

足りないと感じている情報

- 事業所ごみの正しい出し方（可燃・プラ）
- 資源化することによる具体的なメリット

レジ袋についての状況

（1）令和 2 年 7 月から実施しているレジ袋有料化について、現在の状況に合致しているものを選んでください。（○はいくつでも）

・レジ袋有料化以前と以降のマイバッグ持参率またはレジ袋の辞退率を把握している（1 社） ※把握している場合　マイバッグ持参率　70% レジ袋辞退率　80% ・プラスチック製のレジ袋の代替品を導入している。（2 社）

⑵ どのような素材の袋を使用しているか教えてください。

・生分解性プラスチック（3 社） ・紙袋（2 社） ・通常のプラスチック（1 社）

⑶ レジ袋の販売価格を教えてください。（サイズごとの値段について）

・無償 ・テナント毎に異なる

従業員用の災害備蓄食品の有無及び消費期限間近の災害備蓄食品の処理方法

（1）災害備蓄食品の有無

1.有（5 社） 2.無（3 社）

⑵ 災害備蓄食品の処理方法

1.従業員に配布している（3 社） 2.ローリングストック法で入れ替えながら備蓄している（1 社） 4.特に実施していない（2 社）

コロナ禍の影響

（1）来客数（顧客数、来場者数など）の変化

1.減った（6 社） 2.増えた（1 社） 3.変わらない（1 社）

⑵ 来客数（顧客数、来場者数など）の変化に伴うごみ量

1.減った（5 社） 2.増えた（1 社） 3.変わらない（1 社） 4.分からない（1 社）

⑶ 来客数（顧客数、来場者数など）及びごみ量について現在の状況

・緊急事態宣言が発令された 2020 年 4 月頃と比較すると、従来に戻りつつある（2 社） ・分からない（2 社） ・2020 年 4 月頃と比較すると、変わらない（2 社） ・2020 年 4 月頃と比較すると、さらに変化が大きくなっている（1 社） ・減少傾向

⑷ 新型コロナウイルス感染症の影響で行った対策（ごみに限らず）があれば教えてください。

・廃棄物回収時の手袋等着用の徹底（1 社） ・アルコールスタンドの設置（1 社） ・関係者のマスク着用、消毒の徹底（1 社） ・業者に依頼し、煙噴霧による消毒を実施（1 社） ・特別なことは行っていない（1 社）

⑸新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかったごみに関する取組みはありますか。

特になし

ＳＤＧｓに関する取組み状況

（1）ＳＤＧｓを知っていますか

・知っている（4 社） ・知らない（3 社）

（2）企業として掲げていること、新しく始めた取組み

船橋市と連携した BCP 対策（1 社） 特に取組は考えていない（1 社）

業界としての取組み

・リサイクルの推進、マイバッグ持参の啓蒙活動。（1 社） ・納品時使用されるダンボールを可能な限り折りたたみコンテナを使用する。（1 社） ・リサイクルできるものはやっています。（1 社） ・ペーパーレス化と商品プライスの電子表示。（1 社） ・キャッシュレス化（1 社）

利用者（顧客）等の出すごみの減量化

・リサイクルの推進、マイバッグ持参の啓蒙活動。（1 社） ・船橋市指定ごみ袋をレジ前においてバラ売りで販売している。商品を入れて持ち帰り、最後はごみ袋として利用できる。（1 社） ・リサイクルできるものはやっています。（1 社） ・キャッシュレス化（1 社）

ふなＲ連携事業者認定制度について

（1）ふなＲ連携事業者認定制度を知っていますか

・知らない（6 社） ・知っている（2 社）

（2）認定を希望しますか

・希望しない（5 社） ・内容を聞いたうえで検討したい（2 社） 理由：全社としてSDGｓに取り組みだしているため、検討したい。

事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する取組みが実施可能か

・いいえ（6 社）　理由：本社の判断による ・はい（2 社）　　理由：事業所間で取り組み方に違いがあるため

共同での処理・資源化が可能か

・はい（3 社） ・いいえ（3 社）

その他、市のごみ処理に関する要望・意見等

未回答

スーパーマーケットの回答（1 社）

ごみの減量、資源化、分別に関する取組み状況

・食品トレイ等の自主回収および資源化を導入している。
・その他（レジ袋を減らす）

ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの問題点

・ごみの減量、分別に手間がかかる。

今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目

未回答

古紙のリサイクルについての状況

（1）雑がみ（封筒・はがき、包装紙、ティッシュ箱等）を分別していますか。

いいえ

⑵前問で「はい」と回答された事業所の方にお聞きします。分別している品目を具体的に教えてください。

未回答

⑶機密文書について、貴事業所ではどのように処理していますか。

・可燃ごみとして排出している

⑷前問で「1.リサイクルしている」と回答された事業所の方にお聞きします。具体的なリサイクル方法を教えてください。

未回答

ごみ減量化のために今後できると思うこと、取り組むべきと思うこと

未回答

ごみに関する情報の入手先

・その他（自社からの情報）

足りないと感じている情報

未回答

レジ袋についての状況

⑴令和２年７月から実施しているレジ袋有料化について、現在の状況に合致しているものを選んでください。（〇はいくつでも）

未回答

⑵どのような素材の袋を使用しているか教えてください。

未回答

⑶レジ袋の販売価格を教えてください。（サイズごとの値段について）

大：５円、小：３円

食品ロス削減についての状況

⑴貴事業所では食品ロスが発生しますか。

はい

⑵（1）で「はい」と回答された事業所の方にお聞きします。発生する食品ロスを具体的に教えてください。

・販売期限がすぎた商品は廃棄しています

⑶貴事業所で取り組んでいる食品ロス削減策についてあてはまるものを選んでください。

・企業全体で食品ロスの状況とその削減の必要性について理解を深めるように努めている。 ・需要予測の高度化や受発注リードタイムの調整等といった適正発注に努めている。 ・天候や日取り（曜日）等を考慮した、需要予測に基づく仕入れや販売等に努めている。

⑷（2）で「19.特に実施していない」と回答された事業所の方にお聞きします。食品ロス削減策を取り組んでいない理由は何ですか。具体的に教えてください。

未回答

⑸（2）で「19.特に実施していない」と回答された事業所の方にお聞きします。どのような問題が解消すれば食品ロス削減策に取組むことができますか。具体的に教えてください。

未回答

⑹食品リサイクル法についてご存知ですか。

・あまりよく知らない

従業員用の災害備蓄食品の有無及び消費期限間近の災害備蓄食品の処理方法

⑴ 災害備蓄食品の有無

・無

⑵ 災害備蓄食品の処理方法

・特に実施していない

コロナ禍の影響

⑴ 来客数（顧客数、来場者数など）の変化

・増えた

⑵ 来客数（顧客数、来場者数など）の変化に伴うごみ量

・分からない

⑶ 来客数（顧客数、来場者数など）及びごみ量について現在の状況

・緊急事態宣言が発令された 2020 年 4 月頃と比較すると、従来に戻りつつある

⑷ 新型コロナウイルス感染症の影響で行った対策（ごみに限らず）があれば教えてください。

・マスク、アルコール消毒

⑸ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかったごみに関する取組みはありますか。

未回答

ＳＤＧｓに関する取組み状況

⑴ ＳＤＧｓを知っていますか

・知っている

⑵ 企業として掲げていること、新しく始めた取組み

・役職者にエコ検定の試験を実施

業界としての取組み

未回答

利用者（顧客）等の出すごみの減量化

未回答

ふなＲ連携事業者認定制度について

⑴ふなＲ連携事業者認定制度を知っていますか

・知らない

⑵認定を希望しますか

未回答

事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する取組みが実施可能か

・いいえ

共同での処理・資源化が可能か

・いいえ

その他、市のごみ処理に関する要望・意見等

未回答

2.食品ロス関係事業者（6 社）

基本情報

表 4-6　事業者の属性の整理

表4-2-①　ヒアリング結果まとめ（食品ロス）

	名称	食品ロス関係事業者A	食品ロス関係事業者B	食品ロス関係事業者C	食品ロス関係事業者D	食品ロス関係事業者E	食品ロス関係事業者F
事業者属性	本社、支店等の区分	本社	本社	工場	工場	未回答	本社
	業種	卸売業・小売業	宿泊業、飲食サービス業	製造業	製造業	製造業	農業
	事業形態	事務所・営業所、工場・作業所、倉庫・配送センター	飲食店	工場・作業所	工場・作業所	工場・作業所	販売店、店舗
	従業員数 （非正規従業員含む）	21～50人	21～50人	51～100人	301～1,000人	101～300人	5～20人
	床面積 （事務所、加工場、売り場、店舗等）	1,000～2,000㎡未満	1,000～2,000㎡未満	2,000㎡～5,000㎡未満	5,000㎡～10,000㎡未満	5,000㎡～10,000㎡未満	未回答
	所有形態	自社所有	賃貸	自社所有	自社所有	自社所有	自社所有
	使用形態（占有、複合）	複合	占有	占有	占有	占有	占有
	来客数 ※年間あたりの概算	未回答	30,000人/年	未回答	750人/年	未回答	1,000人/年
	ごみの保管場所と 分類保管の有無	有	有	有	有	有	有
発生ごみ量・資源物量	可燃ごみ	7,900 kg／年	未回答	未回答	未回答	43,000 kg／年	未回答
	紙類 （機密文書）	5,000 kg／年				－	
	紙類 （雑がみ）	－				－	
	紙類 （容器包装）	－				－	
	厨芥 （食べ残し、調理くず）	100 kg／年				114,000 kg／年	
	プラスチック類	100 kg／年				5,300 kg／年	
	草木類 （剪定枝、産廃以外の木材など）	－				8,000 kg／年	
	その他 ※排出が多い廃棄物	(脂、すじ、リンパ等)				（ダンボール）	

表4-2-② ヒアリング結果まとめ（食品ロス）

	名称	食品ロス関係事業者A	食品ロス関係事業者B	食品ロス関係事業者C	食品ロス関係事業者D	食品ロス関係事業者E	食品ロス関係事業者F
ごみや資源物の処理方法	可燃ごみ	①	①	④	①	①	①③
	紙類（機密文書・雑がみ・容器包装）	①⑤	①	④（ダンボールはリサイクル）	①	-	-
	厨芥（食べ残し）	-	①	-	②	-	-
	厨芥（調理くず）	-	①	④（飼料化）	②	⑤	-
	未利用食品	⑤	①	-	②	-	-
	プラスチック類	④	①	④（リサイクル）	①④	④	-
	草木類（剪定枝、産廃以外の木材など）	-	①	④	④	④	-
	その他 ※排出が多い廃棄物	⑤（脂・すじ・リンパ等）	⑤（天ぷら油）	–	⑤（廃油（食用油））	②（ダンボール）	-

＜選択肢＞
①一般廃棄物収集運搬業者にごみとして出している
②一般廃棄物収集運搬業者に資源物として出している
③自ら清掃工場に直接搬入している
④産業廃棄物処理業者に処理を委託している
⑤リサイクル業者に売却している
⑥処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している
⑦企業内・企業グループ内でリサイクルしている
⑧納入業者（販売者）が回収している
⑨本社（本店）が一括しているので分からない
⑩建物の管理会社に任せているので分からない
⑪その他

ごみの減量、資源化、分別に関する取組み状況

- 書類のペーパーレス化に努めている。（4 社）
- 缶やびんの分別回収箱を設置している。（4 社）
- ごみに関する検討委員会や組織を設置している。（2 社）
- ごみの減量化や資源化を事業所内に呼びかけている（ポスターや注意書きの掲示等）。（1 社）
- ごみの減量化や資源化を推進する部署や担当者を設置している。（1 社）
- 古紙回収箱を設置している。（1 社）
- 紙コップ等使い捨て製品の使用削減に努めている。（1 社）
- 容器包装を削減する販売方式（量り売りやリターナブル容器販売）を導入している。（1 社）

ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの問題点

- 従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい。（3 社）
- ごみの減量化、分別に手間がかかる。（3 社）
- 資源物を保管しておく場所がない。（2 社）
- ごみの減量化、分別に費用がかかる。（2 社）
- 資源化できるものが出ない、または発生量が少ない。（1 社）
- 一般廃棄物と産業廃棄物の区別が難しい。（1 社）

今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目

- 生ごみ（4 社）
- 雑がみ（メモ用紙、伝票、封筒、紙製の空箱、シュレッダーくず）（3 社）
- コピー用紙、OA 用紙（2 社）
- ペットボトル（2 社）
- 缶類（2 社）
- ビン類（2 社）
- 粗大ごみ（2 社）
- 新聞、雑誌（1 社）
- 段ボール（1 社）
- プラスチック類（1 社）
- 不燃ごみ（1 社）
- その他（剪定枝）（1 社）

ごみ減量化のために今後できると思うこと、取り組むべきと思うこと

- 京葉コンビナート内ですが、工場売店を設置できるようになれば、各企業大幅なごみの減量につながると思います。工場で製造時に出てしまう型くずれ品が格安で買えるとなるとお客様も喜ぶかと思います。（横浜の金沢工業団地では非常に賑わっています）
- 食品残渣の自社での処理機導入を検討中です。

・資源化の為の分別を行う事。

食品ロス削減についての状況

⑴発生する食品ロスを具体的に教えてください。

・商品の真空パックの漏れなどで鮮度不良になってしまっていたり、開封後再オーダーなく期限が切れてしまったり、受注ミスで返品されたりなど
・お客様の食べ残し。
・製造時に型くずれ品やカステラやバームクーヘンなどの端。
・機械トラブルにより製品とならなかった物。
・取引先の終売（メニュー終了）に伴う食品ロスが発生しています。又、過剰製造によるロスも発生しています。（弁当、おにぎり、寿司に関わる食材）
・使用期限切れ材料
・梨や野菜、作物の不作など

⑵貴事業所で取り組んでいる食品ロス削減策についてあてはまるものを選んでください。

・企業全体で食品ロスの状況とその削減の必要性について理解を深めるように努めている。（4 社）
・継続的な廃棄物の計量等自社の事業活動により発生している食品ロスを把握している。（3 社）
・発生する食品ロスは、リサイクルできるように努めている。（3 社）
・国や地方公共団体が実施する食品ロスの削減に関する施策に協力するように努めている。（2 社）
・食品原料の無駄のない利用や、製造工程、出荷工程における適正管理・鮮度保持に努めている。（2 社）
・消費者に対して、自社の取組みに関する情報提供や啓発を実施している。（1 社）
・サプライチェーンの強化や見直しの実施等により、食品ロスの削減に努めている。（1 社）
・未利用食品を提供するための活動（フードバンク活動）とその役割を理解し、積極的に未利用食品の提供を行っている。（1 社）
・食品ロスの削減に向けた組織体制を整備し、取組みの内容や進捗状況等を積極的に情報開示している。（1 社）
・規格外や未利用の農産物の有効活用に努めている。（1 社）
・天候や日取り（曜日）等を考慮した、需要予測に基づく仕入れや販売等に努めている。（1 社）
・製造時に生じる食品の端材や形崩れ品等について有効活用に努めている。（1 社）
・ドギーバック（食べ残しの持ち帰り容器）等、消費者の自己責任を前提とした持ち帰りを導入している。（1 社）

（3）（2）で「19. 特に実施していない」と回答された事業所の方にお聞きします。
食品ロス削減策を取り組んでいない理由は何ですか。具体的に教えてください。

未回答

（4）（2）で「19. 特に実施していない」と回答された事業所の方にお聞きします。
どのような問題が解消すれば食品ロス削減策に取組むことができますか。具体的に教えてください。

未回答

(5)食品リサイクル法についてご存知ですか。

・だいたいのことは知っている。（4 社）
・あまりよく知らない。（2 社）

従業員用の災害備蓄食品の有無及び消費期限間近の災害備蓄食品の処理方法

（1） 災害備蓄食品の有無

・無（5 社）
・有（1 社）

(2) 災害備蓄食品の処理方法

・ローリングストック法で入れ替えながら備蓄している。（1 社）

コロナ禍の影響

（1） 来客数（顧客数、来場者数など）の変化

・減った（5 社）

(2) 来客数（顧客数、来場者数など）の変化に伴うごみ量

・減った（2 社）
・変わらない（2 社）
・分からない（1 社）

(3) 来客数（顧客数、来場者数など）及びごみ量について現在の状況

・緊急事態宣言が発令された 2020 年４月頃と比較すると、従来に戻りつつある。（2 社）
・2020 年４月頃と比較すると、さらに変化が大きくなっている。（1 社）
・2020 年４月頃と比較すると、変わらない。（1 社）
・分からない。（1 社）

（4）新型コロナウイルス感染症の影響で行った対策（ごみに限らず）があれば教えてください。

- 工場稼働減、定休日の設定。
- 休業補償を活用した稼働人員の調整。早上がりの実施。
- ネット販売や無人販売

⑸ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかったごみに関する取組みはありますか。

未回答

ＳＤＧｓに関する取組み状況

（1）ＳＤＧｓを知っていますか

- 知っている（5 社）

（2）企業として掲げていること、新しく始めた取組み

- 子ども食堂への食材提供を開始した。（2020 年 11 月～）
- 梨の廃棄ゼロへの取組み

業界としての取組み

- 型くずれ品などを売れるようになる環境づくり。食品残渣に関しては処分費の方が安く済むため、飼料や燃料へのリサイクルの価格が安くなればごみではなく資源となると思います。
- 見込み数での製造ではなく、各定数での製造が出来る生産体制の構築
- 自社による食品残渣処理機導入
- パック、包材使用種類の選別、アイテム数の削減
- 廃棄になる農作物を使い６次産業化（ごみになる木を加工し、船橋の特産物になるように動く（梨の木の皿やおりがみなど））

利用者（顧客）等の出すごみの減量化

- エコバックの利用、ごみの分別、過剰包装の削減
- プラスチックごみの回収及びリサイクルの実施

ふなＲ連携事業者認定制度について

（1）ふなＲ連携事業者認定制度を知っていますか

- 知らない（6 社）

（2）認定を希望しますか

・内容を聞いたうえで検討したい（5 社） ・希望する（1 社）

事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する取組みが実施可能か

・はい（2 社） ・いいえ（2 社）

共同での処理・資源化が可能か

・いいえ（2 社）

その他、市のごみ処理に関する要望・意見等

未回答

3.紙おむつ関係事業者（6 社）

基本情報

表 4-10　事業者の属性の整理

表4-3-①　ヒアリング結果まとめ（紙おむつ）

	名称	紙おむつ関係事業者A	紙おむつ関係事業者B	紙おむつ関係事業 C	紙おむつ関係事業者D	紙おむつ関係事業者E	紙おむつ関係事業者F
事業者属性	本社、支店等の区分	支部	未回答	本社	本社	支部	支部
	業種	リハビリ病院	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	医療センター	認可保育園	認可外保育施設
	従業員数 （非正規従業員含む）	301～1,000人	101～300人	51～100人	1,001～2,000人	51～100人	21～50人
	床面積 （事務所、加工場、売り場、店舗等）	10,000㎡～20,000㎡未満	5,000㎡～10,000㎡未満	5,000㎡～10,000㎡未満	20,000㎡～50,000㎡未満	2,000㎡～5,000㎡未満	500㎡未満
	所有形態	賃貸	未回答	自社所有	自社所有	自社所有	未回答
	使用形態（占有、複合）	占有	未回答	複合	占有	占有	未回答
	来客数 ※年間あたりの概算	256,000人/年	【施設利用定員】 長期100名/通所40/短期20/職員105名	定員　129人/年	未回答	277人（定員）	未回答
	ごみの保管場所と 分類保管の有無	有	有	有	有	有	未回答
発生ごみ量・資源物量	可燃ごみ	未回答	80,100 kg／年	67,200 kg／年	175,930 kg／年	7,547 kg／年	未回答
	紙類 （機密文書）		－	50,000 kg／年	－	5,135 kg／年	
	紙類 （雑がみ）		8 kg／年	380 kg／年	219,351 kg／年	－	
	紙類 （容器包装）		－	－	89,939 kg／年	585 kg／年	
	厨芥 （食べ残し、調理くず）		－	－	可燃に含む	1,008 kg／年	
	プラスチック類		－	－	19,250 kg／年	410 L／年	
	草木類 （剪定枝、産廃以外の木材など）		－	－	－	－	
	その他 ※排出が多い廃棄物		－	－	－	0.8㎥／年 （汚泥）	

表4-3-②　ヒアリング結果まとめ（紙おむつ）

	名称	紙おむつ関係事業者A	紙おむつ関係事業者B	紙おむつ関係事業 C	紙おむつ関係事業者D	紙おむつ関係事業者E	紙おむつ関係事業者F
ごみや資源物の処理方法	可燃ごみ	④	①	①	①	①	①
	紙おむつ	④	①	①④	-	①	①
	特別管理廃棄物（医療系）	④	④	④	④	-	-
	紙類 （機密文書・雑がみ・容器包装）	④	③	②⑤	②⑥	⑨	①
	厨芥 （食べ残し、調理くず）	④	①	-	①	①	①
	プラスチック類	④	④	①	④	⑨	①
	草木類 （剪定枝、産廃以外の木材など）	④	③	①	-	-	①
	その他 ※排出が多い廃棄物	④	-	―	-	④	

＜選択肢＞
①一般廃棄物収集運搬業者にごみとして出している
②一般廃棄物収集運搬業者に資源物として出している
③自ら清掃工場に直接搬入している
④産業廃棄物処理業者に処理を委託している
⑤リサイクル業者に売却している
⑥処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している
⑦企業内・企業グループ内でリサイクルしている
⑧納入業者（販売者）が回収している
⑨本社（本店）が一括しているので分からない
⑩建物の管理会社に任せているので分からない
⑪その他

施設利用者が排出するごみと従業員が排出するごみの分別について

・施設利用者および従業員のごみを分別している（3 社） ・分別していない（3 社）

使用済み紙おむつの排出状況

（1）月間排出量

・約 4,500 ㎏/月（介護老人保健施設） ・428 ㎏/月（保育園） ・不明（特別養護老人ホーム）

（2）使用済紙おむつ利用者の人数

・2,900 人/月（介護老人保健施設） ・98 人/月（特別養護老人ホーム） ・62 人/月（保育園） ・34 人/月（認可外保育施設） ・0 人/月（リハビリ病院）

（3）使用済紙おむつの再生利用の実施状況及び今後の展望

・現在は分別・資源化していないが、将来的には分別・資源化したいと考えている。（3 社） ・現在は分別・資源化しておらず、将来的にも分別・資源化は考えていない。（2 社）

（4）紙おむつの分別・資源化の実施について、条件として重視する事項

・社会的責任（3 社） ・費用（2 社） ・利便性（2 社） ・その他（安全性）（感染性の廃棄物に該当するかの判断が難しい）（1 社）

（5）使用済み紙おむつについて、現在どのような分別・資源化を行っているか

未回答

ごみの減量、資源化、分別に関する取組み状況

- 書類のペーパーレス化に努めている。（4 社）
- 缶やびんの分別回収箱を設置している。（4 社）
- 再生紙等再生用品の使用に努めている。（3 社）
- ごみに関する検討委員会や組織を設置している。（1 社）
- 古紙回収箱を設置している。（1 社）
- 排出するごみや資源物の計量を行っている。（1 社）
- 紙コップ等使い捨て製品の使用削減に努めている。（1 社）
- 特に取り組んでいない。（1 社）

ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの課題

- 資源化できるものが出ない、または発生量が少ない。（3 社）
- ごみの減量化・資源化に費用がかかる。（2 社）
- 資源物や資源化可能な不用品の引渡し先（回収業者）が分からない。（1 社）
- 従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい。（1 社）
- ごみの減量化・資源化に手間がかかる。（1 社）
- 特にない。（1 社）

今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目

- 段ボール（4 社）
- コピー用紙、OA 用紙（3 社）
- 雑がみ（メモ用紙、伝票、封筒、紙製の空箱、シュレッダーくず）（3 社）
- ペットボトル（3 社）
- 缶類（3 社）
- 紙おむつ（3 社）
- 粗大ごみ（2 社）
- 生ごみ（2 社）
- 新聞、雑誌（2 社）
- プラスチック類（2 社）
- ビン類（1 社）
- 不燃ごみ（1 社）

食品リサイクル法の認知状況

- だいたいのことは知っている（4 社）
- あまりよく知らない（2 社）

食品ロス削減についての状況

・需要予測に基づく仕入れをしている。（5 社） ・少量等使い切りやすい（食べきりやすい）ように工夫をしている。（1 社） ・端切れ等の発生抑制や有効活用をしている。（1 社） ・特に実施していない（1 社）

食品ロスに取組んでいない理由

・食品ロスが発生しない（1 社）

給食残渣の減量について

・日々の提供数を把握し必要数を把握し作りすぎないようにする。 ・給食施設として、野菜の廃棄をなくすために、材料仕入れの工夫として冷凍品やカット野菜を使用すると残渣減量すると考えられます。 ・クックチル方式での調理による仕込み材料の持ち込み無 ・予備として毎食廃棄される料理を有効活用すべきであるが、運用が難しい ・給食の残菜を減らすため、個々の喫食状況を把握し、発注量の調整を行うこと。また、喫食率が上がるよう献立の工夫（献立内容、調理方法、盛りつけ）と、園児達が食に興味、関心をもち、食べる意欲につながるよう食育活動を取り組んでいくこと。

従業員用の災害備蓄食品の有無及び消費期限間近の災害備蓄食品の処理方法

・ローリングストック法で入れ替えながら備蓄している（3 社） ・従業員に配布している（2 社） ・フードバンクや子ども食堂に提供している（1 社） ・その他（　市民（自治会など）に提供している　）（1 社）

コロナ禍の影響

（1）　来客数（顧客数、来場者数など）の変化

・減った（5 社） ・変わらない（1 社）

⑵　来客数（顧客数、来場者数など）の変化に伴うごみ量

・変わらない（3 社） ・減った（2 社） ・増えた（1 社）

⑶　新型コロナウイルス感染症の影響で行った対策

- 感染防止に対する消耗品のごみが増えた（ディスポ商品が増えたため）
- 運搬業者に対する新型コロナウイルスの感染防止
- 新型コロナウイルス感染拡大以前より行ってはいるが、ゴミ箱をふたつきのものにするなど、更に回収の時の衛生面に充分注意している。
- 感染性の廃棄物と一般ゴミが混じらないよう注意している

⑷　新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった取組み

- 通常のビンやカン、ダンボール等のリサイクルは実施しているが、感染拡大防止のため、それ以上のリサイクルには取り組めていない。

ＳＤＧｓに関する取組み状況

（1）ＳＤＧｓを知っていますか

- 知らない（4 社）
- 知っている（2 社）

（2）企業として掲げていること、新しく始めた取組み

未回答

業界としての取組み

- ペーパーレスの推進
- 介護や医療では、「排泄関連ごみ」と「給食関連ごみ」が多く出ると考えられます。食事をして排泄をする人には欠かすことが出来ない行動であり、給食関係は如何に食品ロス削減できるかであり、排泄関連ごみは多く出ることから、介護施設がごみ減量として取り組みで考えられます。
- 紙おむつ→布おむつへ変更
- 厨芥ごみの減量（水分量の削減）
- 各園で、使用していない物を再利用できるよう他園へ発信する。
- 紙類については、できるだけ裏紙として活用する等、減量化に務めている。
- 使用済みの紙おむつの資源化。

利用者（顧客）等の出すごみの減量化

- 適正なオムツを選定するなどして必要以上に交換回数が増やさない
- ご利用者の排泄関連ごみの減量化を取り組みとして、現在、おむつ交換等の回数とケアの質を確保し、ご利用者の体形に排泄用品のサイズ、予測する排泄物量に見合った排泄用品を個別に使用し、排泄用品を無駄遣いしない取り組みを行っており、ごみの減量化へもつながるのでないかと考えています。
- 少ないため特に思い当たらない。
- ごみの分別（リサイクル化）
- 紙類については、できるだけ裏紙として活用する等、減量化に努めている。
- 使用済み紙おむつの資源化。

事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する取組みが実施可能か

- はい（5 社）
- いいえ（1 社）

共同での処理・資源化が可能か

- はい（3 社）
- いいえ（3 社）

【理由】資源化できないものが混入した時、どの事業者が混入させたか特定できないため

その他、市のごみ処理に関する要望・意見等

- 入居施設系、通所系、居宅系を同一敷地同一建物内で事業運営しており、ごみも一括して排出している。
- 市立保育所から排出されるごみについては、使用済み紙おむつも含め、資源化できないか検討している。しかし、初期費用や運用面（現場の体制や保護者への周知等）の課題等も大きいのが現状である。

事業者ヒアリング調査結果のまとめ

事業者ヒアリング調査結果を表 4-14 に整理する。

表 4-14　事業者ヒアリング調査結果のまとめ

質問項目	多量排出事業者	食品ロス関係事業者	紙おむつ関係事業者
各事業者特有のごみについて	【古紙の処理について】 ・雑がみを分別している事業者は分別していない事業者と比較して少ない。資源化している事業者は業者に直接依頼しているとの回答であった。 ・機密文書の処理は、ダンボール回収業者が回収している、本社指定する業者に委託している、溶解処理している、可燃ごみとして排出しているといった回答があった。 【ごみに関する情報の入手について】 ・船橋市ホームページ、ごみ回収業者、本社からの情報提供（指示）といった回答があった。 ・足りないと感じている情報として、「事業所ごみの正しい出し方」、「資源化することによる具体的なメリット」が回答として挙げられた。 【レジ袋について】 ・有料化以前と以降のマイバッグ持参率、辞退率を把握している事業者は 1 社のみであった。（マイバッグ持参率：70%、レジ袋辞退率：80%） ・レジ袋の素材については、生分解性プラスチック、紙袋、通常のプラスチックと回答が分かれたほか、価格も含めてテナント毎に異なるという回答がみられた。	【発生する食品ロスについて】 ・「鮮度不良になってしまった商品」、「賞味期限切れ商品」、「受注ミス、返品された商品」、「お客様の食べ残し」、「製造時の型くずれ品や機械トラブルにより製品とならなかった物」、「取引先のメニュー終了に伴う食品ロス」、「過剰製造によるロス」、「不作であった野菜」など、非常に多様なものが挙げられた。 【食品ロスについて】 ・「企業全体で食品ロスの状況とその削減の必要性について理解を深めるように努めている」や「継続的な廃棄物の計量等自社の事業活動により発生している食品ロスを把握している」が複数回答として挙げられた。「特に実施していない」と回答する事業所は無く、生産者、製造・加工、卸売・小売等さまざまな立場で可能な取組みを実施していることがうかがえる。	【紙おむつの資源化について】 ・「現在は分別・資源化していないが、将来的には分別・資源化したいと考えている」とする事業者が最も多く、次いで「現在は分別・資源化しておらず、将来的にも分別・資源化は考えていない」であった。 ・市主導の紙おむつ資源化施策が実施された場合、参加条件として重視する項目として、社会的責任が最も多く、次いで費用、利便性が続いた。感染性廃棄物に該当するかどうか判断が難しいといった安全性を懸念する回答もみられた。 【紙おむつの排出状況等について】 ・月間排出量は、「約 4,500 ㎏/月」（介護老人保健施設）、「428 ㎏/月」（保育園）、「不明」（特別養護老人ホーム）、使用済紙おむつ利用者の人数は、「2,900 人/月」（介護老人保健施設）、「98 人/月」（特別養護老人ホーム）、「62 人/月」（保育園）、「34 人/月」（認可外保育施設）、「0 人/月」（リハビリ病院）との回答であった。 【紙おむつの資源化において重視する事項】 ・「費用」（3 社）、「利便性」（2 社）、「社会的責任」（4 社）、「安全性」（1 社）と多様な回答がみられた。 【給食残渣の減量について】 ・作りすぎの抑制や材料仕入れ時の工夫（可食部の過剰除去を減らす）、発注量の調整や喫食率の向上など、さまざまな取組みがみられた。

ごみの減量、資源化、分別に関する取組み状況について	•缶やびんの分別回収箱の設置や紙類のペーパーレス化に努めている事業者が複数みられた一方で、周辺の事業所と協働して古紙を資源化している事業者や、使い捨て製品の使用削減、容器包装を削減する販売方式（量り売りやリターナブル容器販売）の導入、「生ごみ処理機」を活用している事業者はなかった。	• 複数の事業者が、缶・びんの分別回収箱設置、書類のペーパーレス化の推進に取り組む一方、社内にごみ検討委員会や組織の設置や、担当部署・担当者を配置し、事業所全体でごみ減量や資源化に取り組む事業者もみられた。なお、「生ごみ処理機」を活用している事業者はみられなかった。	• 複数の事業者が、書類のペーパーレス化、缶・びんの分別回収箱設置、再生紙等再生用品の使用を進める一方、ごみに関する検討委員会や組織を設置していると回答した事業者は 1 社に留まり、事業所全体でごみ減量や資源化に取り組む事業者は少数であった。また、施設利用者が排出するごみと従業員が排出するごみを分別していない事業者が半数であった。
ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの問題点について	• 事業者によって回答が分かれ、従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい、ごみの減量・分別に手間や費用がかかる、一般廃棄物と産業廃棄物の区別が難しい、資源物を保管しておく場所がないといった回答がみられた。	•従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい、ごみの減量・分別に手間や費用がかかる、資源物を保管しておく場所がないといった回答が多くみられた。	•業種的に資源化できるのもの発生量が少ない（出ない）とする回答が最も多かった。個別の回答には、手間や費用がかかる、回収業者に関する情報不足、従業員への分別徹底やごみ減量意識の浸透が困難、といった回答が多くみられた。
今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目について	• 事業者によって回答が分かれるが、段ボール、コピー用紙、OA 用紙、雑がみ（メモ用紙、伝票、封筒、紙製の空箱、シュレッダーくず）、プラスチック類、粗大ごみが挙げられた。現状において雑がみを分別している事業者は少ないことがうかがえる。	• 生ごみを挙げる事業者が多く、次いでコピー用紙、OA 用紙、雑がみ（メモ用紙、伝票、封筒、紙製の空箱、シュレッダーくず）、ペットボトルや缶・びん類、プラスチック類、粗大ごみが挙げられた。	• 段ボール、コピー用紙、OA 用紙、雑がみ（メモ用紙、伝票、封筒、紙製の空箱、シュレッダーくず）、ペットボトル、缶類、紙おむつなどが挙げられた。
ごみ減量化のために今後できると思うこと、取り組むべきと思うこと	•食品トレイ等の自主回収や資源化の導入やレジ袋の削減に取組んでいることがうかがえる。また、食品ロスの削減のため、企業全体で食品ロスの状況とその削減の必要性について理解を深め、需要予測の高度化や受発注リードタイムの調整等といった適正発注や天候や日取り（曜日）等を考慮した、需要予測に基づく仕入れや販売等に努めていることがうかがえる。	• 「京葉コンビナート内への工場売店の設置」、「食品残渣の自社での処理機導入」といった比較的大規模な資源化、食品ロス削減案が回答としてみられた。	-
食品リサイクル法の認知状況について	• 「あまりよく知らない」との回答であった。（スーパーマーケットを営んでいる事業者のみ質問）	•「だいたいのことは知っている」とする事業者が多数であったが、「あまりよく知らない」とする事業者もみられた。	•「だいたいのことは知っている」とする事業者が多数であったが、一部「あまりよく知らない」とする事業者もみられた。

食品ロス削減について	•「企業全体で理解を深めるように努めている」、「適正発注に努めている」、「需要予測に基づく仕入れや販売等に努めている」といった回答がみられた。	•「企業全体で食品ロスの状況とその削減の必要性について理解を深めるように努めている」や「継続的な廃棄物の計量等自社の事業活動により発生している食品ロスを把握している」が複数回答として挙げられた。「特に実施していない」と回答する事業所は無く、生産者、製造・加工、卸売・小売等さまざまな立場で可能な取組みを実施していることがうかがえる。(再掲)	•需要予測に基づく仕入れを実施していると回答した事業者が多数みられ、特に実施していないと回答した事業者は 1 社のみであった。
災害備蓄食品の有無と処理方法について	• 災害備蓄食品は「有」と回答した事業者の方が「無」と回答した事業者よりも多く、処理方法としては従業員への配布が最も多かったが、ローリングストック法で入れ替えながら備蓄しているという回答もみられた。	• 災害備蓄食品は「無」と回答した事業者がほとんどで、「有」と回答した事業者は 1 社であった。処理方法としてはローリングストック法で入れ替えをしているとのことであった。	• 処理方法は事業者によって回答が分かれ、ローリングストック法で入れ替えながら備蓄している、従業員に配布している、フードバンクや子ども食堂に提供している、市民(自治会など)に提供しているといった回答がみられた。
コロナ禍の影響について	• 来客数(顧客数、来場者数など)及びそれに伴うごみ量は減ったと回答する事業者が多かった。 • 現在の状況は「従来に戻りつつある」、「分からない」、「変わらない」、「さらに減少している」と回答が分かれた。	• 来客数(顧客数、来場者数など)及びそれに伴うごみ量は減ったと回答する事業者がほとんどであった。 • 現在の状況は「従来に戻りつつある」、「分からない」、「変わらない」、「さらに減少している」と回答が分かれた。	• 来客数(顧客数、来場者数など)は減少したが、それに伴うごみ量は変わらないと回答する事業者が多かったが、感染防止対策の一環から使い捨て商品の多用によるごみ量の増加といった回答もみられた。 •各事業者によるコロナ禍の独自取組みとして、衛生面に配慮したごみ箱の設置、ごみ運搬業者への感染防止対策の徹底など回答として挙げられた。また、日頃から感染性の廃棄物と一般ごみが混じらないよう注意しており、感染拡大防止のため、それ以上のリサイクルには取り組めていないとの回答がみられた。
ＳＤＧｓに関する取組みについて	• 半数以上の事業者は「知っている」との回答であり、役職者にエコ検定の試験を実施している事業者もみられた。また、船橋市と連携した BCP 対策を実施しているという回答もみられた。	• ほとんどの事業者は「知っている」と回答しており、食品業界として理解が進んでいることがうかがえる。 • ＳＤＧs に関連する取組みとしては、子ども食堂への食材提供や、農作物廃棄ゼロへの取組みなどが回答として挙げられた。	• 半数以上の事業者は「知らない」との回答であり、「知っている」と回答した事業者からも企業として掲げていることや新たな取組に関する回答はなかった。

業界としての取組み	•リサイクルの推進、マイバッグ持参の啓蒙活動のほか、折り畳みコンテナの使用など、既に実施できる資源化は行っているという回答がみられた。また、キャッシュレス化や商品プライスの電子表示がペーパーレス化にも寄与するという回答もみられた。	•無駄のない生産体制の構築やパック・包装材使用種類の選別やアイテム数削減などごみ減量の取組みのほか、廃棄剪定枝の特産品への加工、食品残渣処理機の導入など資源化やリサイクルに関する取組が回答として挙げられた。 •既に厨芥ごみをリサイクル業者に売却している事業者もあり、食品残渣のリサイクル費用（飼料化や燃料化等）が処理費用を下回れば、食品残渣は全て資源になるのではといった回答もみられた。	•ペーパーレスの推進、介護施設等による排せつ関連ごみと給食関連ごみの減量化、厨芥ごみの水分量削減、布おむつの使用などが回答として挙げられた。また、資源化の取組みとしては、不用品の相互利用のための情報発信、使用済み紙おむつの資源化などが挙げられた。
利用者（顧客）等の出すごみの減量化について	•リサイクルの推進、マイバッグ持参の啓蒙活動、キャッシュレス化といった回答のほか、船橋市の指定ごみ袋をレジ前で販売しているといった独自の取組を行っている事業者もみられた。	•「エコバックの利用、ごみの分別、過剰包装の削減」、「プラスチックごみの回収及びリサイクルの実施」といった回答がみられた。	•「適正なオムツを選定するなどして必要以上に交換回数が増やさない」、「利用者の体形や予測する排泄物量に見合った排泄用品を個別に使用し、排泄用品を無駄遣いしない」、「紙類について、できるだけ裏紙として活用する等」「使用済み紙おむつの資源化」といった回答がみられた。
ふなＲ連携事業者認定制度について	•制度を知らない事業者が多かったが、内容を聞いたうえで認定（申請）を検討したいという事業者が一定数みられた。	•認定制度は知らなかったが、認定（申請）を希望する、内容を聞いたうえで認定（申請）を検討したいという事業者のみであり、制度への前向きな姿勢がうかがえる。	-
事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する取組みが実施可能か 共同での処理・資源化が可能か	•事業所単位での取組みは多くの事業者が不可との回答であった。多量排出事業者は規模の大きい企業が多いことから、本社等の許可がない取組は実施が難しいことがうかがえる。ただし、他の事業者との共同での処理・資源化は可能という回答が半数程度あったことから、本社等から許可が得られれば取組に参加することが可能な事業者もあるものと考えられる。	•事業所単位での取組みは、「はい」と「いいえ」が同数であったが、他の事業者との共同での処理・資源化については、「いいえ」の回答のみであった。ヒアリング対象事業所の規模や業種は異なるが、本社等の許可がない取組は実施が難しい状況がうかがえる。	•事業所単位での取組みは多くの事業者が可能との回答であったが、他の事業者との共同での処理・資源化については、半数が不可としており、処理・資源化の過程で、問題等が起こった際に事業者を特定できないことが懸念事項として挙げられた。
その他、市のごみ処理に関する要望・意見等	-	-	•「使用済み紙おむつも含めた資源化を検討しているが、初期費用や運用面（現場の体制や保護者への周知等）の課題等も大きいのが現状」といった回答がみられた。

事業者ヒアリング調査結果からの考察

事業者ヒアリング調査結果から考えられる課題等についての考察を以下に示す。

古紙の資源化について

回答結果より、雑がみの分別を実施していない事業者が多いことがうかがえる。また、雑がみの分別を実施していない事業者の中には「実施できる資源化等はすべて実施している」と回答している事業者もいることから、事業者に対する雑がみ分別の周知が十分に行き届いていないと考えられる。

市では現在も市のホームページやチラシの配布によって古紙の資源化を啓発しているが、雑がみの分別について、深く事業者の理解が得られるように、周知啓発を行い、協力率を上げていく必要があると考えられる。

食品ロスの削減について

食品ロス削減への取組について、回答は前向きなものが多く、各事業者が様々な取組によって食品ロスの削減に努めていることがうかがえる。一方、取引先との関係の中で発生する食品ロスや、機械の不具合等により発生する食品ロスもあることから、発生抑制のための周知だけでなく、市と連携した食品の有効活用等の取組みができないか検討する必要があると考えられる。

紙おむつの資源化について

６事業者のうち３事業者が将来的な紙おむつの資源化を検討しており、ニーズは一定数あるものと考えられる。

紙おむつの資源化について、重視する事項は、「社会的責任」、「費用」、「利便性」、「安全性」と回答が分かれた。現在、紙おむつの資源化方法は確立していないため、リサイクル技術の進展や国の動向等も踏まえて検討する必要があると考えられる。

事業者ヒアリング用紙

事業者ヒアリング用紙（多量排出事業者）を次頁以降に掲載する。

1. 基本情報

項目	ご回答
名称	
本社、支店等の区分	本社　・　支店
ご担当者名（ご回答いただいた方のお名前）	
所在地・建物の名称	
所有形態	自社所有　・　賃貸
使用形態（占有、複合）	占有　・　複合
来客数　　※年間あたりの概算 （顧客数、来場者数、病院等の場合は定員数など）	人/年
ごみの保管場所と分類保管の有無	有　・　無

2. 業種

1. 建設業　2. 製造業　3. 電気・ガス・熱供給・水道業
4. 情報通信業　5. 運輸業、郵便業　6. 卸売業、小売業
7. 金融業、保険業　8. 不動産業、物品賃貸業　9. 学術研究、専門・技術サービス業
10. 宿泊業、飲食サービス業　11. 生活関連サービス業、娯楽業
12. 教育、学習支援業　13. 医療、福祉　14. 複合サービス事業
15. サービス業(他に分類されないもの)　16. 公務

3. 事業形態

1. 販売店、店舗　2. 飲食店　3. 事務所・営業所　4. 工場・作業所
5. ホテル・旅館　6. 映画館、劇場、娯楽施設等　7. その他（　　　　　　　　　　）

4. 従業員数（非正規従業員含む）

1. 1～4 人　2. 5～20 人　3. 21～50 人　4. 51～100 人
5. 101～300 人　6. 301～1,000 人　7. 1,001～2,000 人　8. 2,001～3,000 人
9. 3,000 人以上

5. 床面積（事務所、加工場、売り場、店舗等）

1. 500 ㎡未満　2. 500 ㎡～1,000 ㎡未満　3. 1,000 ㎡～2,000 ㎡未満
4. 2,000 ㎡～5,000 ㎡未満　5. 5,000 ㎡～10,000 ㎡未満　6. 10,000 ㎡～20,000 ㎡未満
6. 20,000 ㎡～50,000 ㎡未満　6. 50,000 ㎡～100,000 ㎡未満　7. 100,000 ㎡以上

6. 貴事業所では、事業活動に伴い発生するごみや資源物について、どのくらい発生・処理していますか。その量を記入ください。また、どのように処理していますか。該当する欄に○を記入してください。

		品目							
		可燃ごみ	紙類（機密文書）	紙類（雑がみ）	紙類（容器包装）	厨芥（食べ残し、調理くず）	プラスチック類	草木類（剪定枝、産廃以外の木材など）	その他（　　）※排出が多い廃棄物
発生・処理量（kg／年）									
処理単価（分かれば）※●円/kg等									
処理方法等	①一般廃棄物収集運搬業者にごみとして出している								
	②一般廃棄物収集運搬業者に資源物として出している								
	③自ら清掃工場に直接搬入している								
	④産業廃棄物処理業者に処理を委託している								
	⑤リサイクル業者に売却している								
	⑥処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している								
	⑦企業内・企業グループ内でリサイクルしている								
	⑧納入業者（販売者）が回収している								
	⑨本社（本店）が一括しているので分からない								
	⑩建物の管理会社に任せているので分からない								
	⑪その他（　　　　　　　　）								

7. 貴事業所では、ごみの減量及び資源化や分別に関して、どのような取り組みを行っていますか。（〇はいくつでも）

1. 減量目標を定めて、ごみの減量に取り組んでいる。
2. ごみの減量化や資源化を事業所内に呼びかけている（ポスターや注意書きの掲示等）。
3. ごみの減量化や資源化を推進する部署や担当者を設置している。
4. ごみの減量化や資源化のマニュアルを作成している。
5. ごみに関する検討委員会や組織を設置している。
6. 取引先や納入業者に簡易包装等の省資源化や通い箱の使用を依頼している。
7. 書類のペーパーレス化に努めている。
8. 古紙回収箱を設置している。
9. 缶やびんの分別回収箱を設置している。
10. 周辺の事業所と協働して古紙を資源化している。
11. 排出するごみや資源物の計量を行っている。
12. 紙コップ等使い捨て製品の使用削減に努めている。
13. 再生紙等再生用品の使用に努めている。
14. 容器包装を削減する販売方式（量り売りやリターナブル容器販売）を導入している。
15. 食品トレー等の自主回収および資源化を導入している。
16. 「生ごみ処理機」を活用している。
17. 特に取り組んでいない。
18. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

8. 貴事業所で、ごみ減量及び資源化を進めていくうえでの問題点は何ですか。（〇はいくつでも）

1. 資源物を保管しておく場所がない。
2. 資源物やリサイクル可能な不用品の引渡し先（回収業者）が分からない。
3. 従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい。
4. 資源化できるものが出ない、または発生量が少ない。
5. ごみの減量、分別に手間がかかる。
6. ごみの減量、分別に費用がかかる。
7. 機密書類が多く、リサイクルが難しい。
8. 一般廃棄物と産業廃棄物の区別が難しい。
9. 分別や排出方法のルールが分からない、理解しにくい。
10. ごみ処理について質問や相談する窓口（市）が分からない。
11. 特に問題ない。
12. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

9. 貴事業所で、今後減量及び資源化を進めたいと考えている品目はありますか。(〇はいくつでも)

1. 生ごみ　2. 新聞、雑誌　3. 段ボール　4. コピー用紙、0A 用紙
5. 機密文書　6. 雑がみ（メモ用紙、伝票、封筒、紙製の空箱、シュレッダーくず）
7. ペットボトル　8. プラスチック類　9. 缶類　10. ビン類
11. 不燃ごみ　12. 粗大ごみ　13. その他（　　　　　　）

10. 事業系古紙のリサイクルについて、貴事業所の状況を教えてください。
(1)　雑がみ（封筒・はがき、包装紙、ティッシュ箱等）を分別していますか。

はい　いいえ

(2)　前問で「はい」と回答された事業所の方にお聞きします。分別している品目を具体的に教えてください。
（　　　　　　）

(3)　機密文書について、貴事業所ではどのように処理していますか。
1. リサイクルしている　2. 可燃ごみとして排出している　3. その他（　　　　　　）

(4)　前問で「1.リサイクルしている」と回答された事業所の方にお聞きします。具体的なリサイクル方法を教えてください。
（　　　　　　）

11. 貴事業所でごみ減量化のために今後できると思うこと、取り組むべきと思うことがあれば教えてください。

12. 貴事業所では、ごみに関する情報をどのように手に入れていますか。

1. 事業系ごみの正しい処理方法（市発行）　2. 産業廃棄物の適正処理について（市発行）
3. 家庭ごみの出し方（市発行）　4. 船橋市ホームページ　5. 新聞・廃棄物関連図書
6. その他（　　　　　　）

13. ごみに関する情報で足りないと感じている情報があれば教えてください。

4

14. レジ袋を扱っている事業者の方にお聞きします。

(1)　令和２年７月から実施しているレジ袋有料化について、現在の状況に合致しているものを選んでください。（○はいくつでも）

1. マイバッグ・マイボトルなどのエコ活動に対するポイント制を導入している。
2. レジ袋有料化以前と以降のマイバッグ持参率、もしくはレジ袋の辞退率を把握している。
　※把握している場合　マイバッグ持参率＿＿＿＿％
　　　　　　　　　　　レジ袋辞退率　　＿＿＿＿％
3. プラスチック製のレジ袋の代替品を導入している。

(2)　どのような素材の袋を使用しているか教えてください。

1. 紙袋
2. 生分解性プラスチック
3. 通常のプラスチック
4. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

(3)　レジ袋の販売価格を教えてください。（サイズごとの値段について）　※40ℓ：３円等

15. 従業員用の災害備蓄食品の有無及び消費期限間近の災害備蓄食品の処理方法について、現在実施している取組みを選んでください。

(1)　災害備蓄食品の有無

1. 有　　・　　2. 無

(2)　災害備蓄食品の処理方法（○はいくつでも）

1. 従業員に配布している
2. ローリングストック法で入れ替えながら備蓄している
3. フードバンクや子ども食堂に提供している
4. 特に実施していない
5. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

16. コロナ禍の影響について教えてください。

(1)　来客数（顧客数、来場者数など）の変化

1. 減った　　2. 増えた　　3. 変わらない　　4. 分からない

(2)　来客数（顧客数、来場者数など）の変化に伴うごみ量

1. 減った　　2. 増えた　　3. 変わらない　　4. 分からない

(3)　来客数（顧客数、来場者数など）及びごみ量について現在の状況

1. 緊急事態宣言が発令された 2020 年 4 月頃と比較すると、従来に戻りつつある
2. 2020 年 4 月頃と比較すると、変わらない
3. 2020 年 4 月頃と比較すると、さらに変化が大きくなっている
4. 分からない
5. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

(4)　新型コロナウイルス感染症の影響で行った対策（ごみに限らず）があれば教えてください。

(5)　新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかったごみに関する取組みはありますか。

17. ＳＤＧｓを知っていますか。知っている場合、企業として何か掲げていることや、新しく始めた取組みがあれば教えてください。

※SDGs とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、「エス・ディー・ジーズ」と読みます。2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標です。17 の大きな目標と、それらを達成するための具体的な 169 のターゲットで構成されています。

1.知っている　・　2. 知らない

企業として掲げていること、新しく始めた取組み（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

18. 貴事業所の業界におけるごみの減量化について、どんなことが実施可能と考えますか。また、どのようなことに取り組むべきと思いますか。

19. 貴事業所の利用者（顧客）等の出すごみの減量化について、どんなことが実施可能と考えますか。また、どのようなことに取り組むべきと思いますか。

20. ふなＲ連携事業者認定制度を知っていますか。また、認定を希望しますか。

1. 知っている　・　2. 知らない

1. 希望する　・　2. 内容を聞いたうえで検討したい　・　3. 希望しない

理由（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

※船橋市では、ごみの減量及び資源化に取り組んでいる事業者を「ごみの減量及び資源化（名称：ふなR）連携事業者」として、認定しています。認定された事業者には認定証や認定ステッカーを交付するほか、市ホームページやごみ減量啓発紙等で、取り組み内容やPRコメントなどを紹介しています。

認定項目
- ●リデュース・リユースの推進（レジ袋の削減、簡易包装、リユース・エコ商品の取扱い等）
- ●食品ロスの削減（小盛メニュー、持ち帰り、3010運動、食品ロスに関する啓発・情報提供等）
- ●店頭回収（食品トレー、ペットボトル等）
- ●模範的な３Ｒの推進（事業所内でのリデュース・リユースの推進、不要物の再商品化、従業員に対する3Rの周知や研修等）

21. 本社の判断ではなく、貴事業所単位でのごみの減量化・資源化に関する独自の取組みを実施することは可能ですか。

例：本社等の承諾を得ることなくフードシェアリングサービスへの提供が可能等

1. はい　・　2. いいえ

理由（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

22. 古紙回収リサイクルシステム等といった、入居する店舗やテナント、商店街、ショッピングモール全体として共同での処理・資源化は可能ですか。

1. はい　・　2. いいえ

理由（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

23. その他、市のごみ処理に関する要望・意見等

１２．基本方針及び施策のＳＤＧｓとの関連性

表 4-17　基本方針及び施策のＳＤＧｓとの関連性

方針・施策	該当する目標	特に関連が深い目標
基本方針１ 市民・事業者・行政の協働により持続可能な循環型社会を実現します		4,9,11,12,13,14,17
3.1.1 情報提供の充実	4,11,12,14,17	4,11,12,17
3.1.2 環境学習の推進	4,11,12,13,14,17	4,11,12,13,17
3.1.3 地域全体の環境美化の推進	11,12,14,17	11,14,17
3.1.4 優良事業者の育成	11,12,17	11,12,17
3.1.5 市民サービスの向上	9,11,12,17	9,11,17
方針２ ２Ｒのさらなる推進と環境負荷の低減を進めます		7,9,11,12,13,14,17
3.2.1 発生抑制行動の推進	11,12,13,14,17	12,13,17
3.2.2 分別排出の徹底	11,12,13,14,17	12,13,14,17
3.2.3 排出者責任の徹底	11,12,13,14,17	12,13,14,17
3.2.4 廃棄物施設を利用した環境負荷の低減	7,9,11,12,13,17	7,11,13,17
3.2.5 食品ロスの削減	12,13,17	12,13,17
方針３ 安全で安定した廃棄物の収集運搬及び処理体制を推進します		7,9,11,12,13,17
3.1.10 効率的で安定した収集運搬体制の推進	7,9,11,12,13,17	11,13,17
3.1.11 施設の適正な運営と維持管理の継続	7,9,11,13,17	7,11,13,17
3.1.13 災害時における廃棄物処理体制の構築	7,9,11,13,17	9,11,17